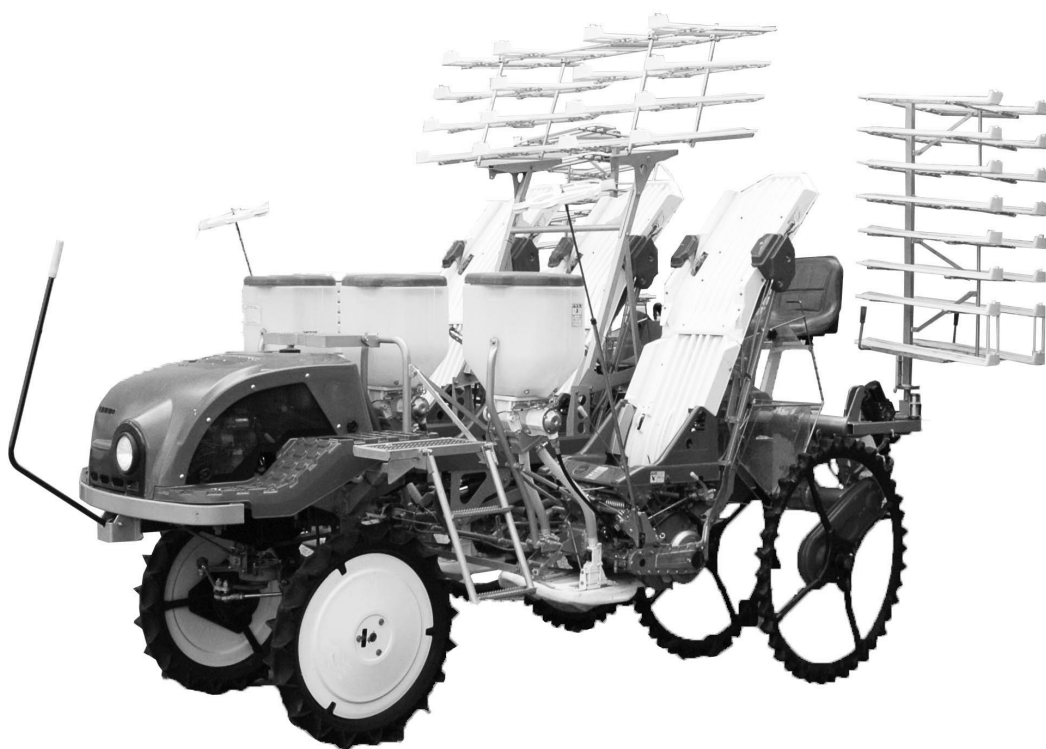


使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

# みのるポット成苗田植機 RXE-61〔乗用型〕


## 取扱説明書



# 田植機重要安全ポイント



1. ほ場まで移動するときは、トラック等にのせて運搬します。
2. 燃料を補給するときは、火気厳禁とします。  
エンジンを停止し、冷機状態で行ないます。
3. エンジンを始動するときは、  
VS変速レバーを「停止」・主変速レバーを「中立」にした状態で  
周囲の安全を確認してから行ないます。
4. 機械を移動するときは、運転者以外乗車せず、  
左右に転倒しないよう低速で行ないます。
5. トラックに積み降ろしするときは、  
乗って前進で、積み込みします。  
強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板を使用します。  
スピードを落とし慎重に上り・下りします。  
上り・下りの途中でサイドクラッチペダルは踏みません。
6. ほ場に出入りするときは、  
スピードを落とし畦に直角に移動します。  
上り・下りの途中でサイドクラッチペダルは踏みません。
7. 本機を点検整備するときは、必ず安全な場所で  
エンジンを止め、植付部をフックで固定します。
8. 補助者と共同作業を行なうときは、合図をし、安全を確認します。





**この機械をお使いになるときは復唱してください。**

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を  を付けて説明しております。

よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

# はじめに

- このたびは、本機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本機は、水稻の田植えをするための機械です。他の用途に使用しないでください。
- この取扱説明書は、本機を使用する際に、ぜひ守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、本機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。
- 本機を初めてご使用になるときはもちろん、日頃の運転・取り扱いの前にも入念に読み、内容を充分理解された上で、安全確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき、この取扱説明書を本機に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容及び、イラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- もし、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく販売店にご相談ください。
- 本取扱説明書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
- なお、 の表示があるラベルが破損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に連絡し、必ず所定の位置に貼ってください。
- 本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

表示	重要度
 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性のあるものを示しております。
 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものを示しております。
 重要	この項目に従わなかった場合、物的損害をこうむる恐れのあるものを示しております。 また、商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

# 目 次

<b>安全のポイント</b>	1
公道走行の禁止	1
安全な作業をするために	1
電装関係を取り扱う時は	8
安全表示ラベルについて	9
<b>使用上のポイント</b>	11
<b>保証とサービスについて</b>	16
<b>各部の名称と取り扱い</b>	17
各部の名称	17
各部の取り扱い	19
<b>作業前点検</b>	27
給油・注油箇所の点検と補給	27
ペダル・レバーの点検	31
<b>運転のしかた</b>	32
エンジンの始動と停止のしかた	32
発進・停止・駐車 of しかた	34
移動・運搬のしかた	36
ほ場への出入りのしかた	40
<b>作業のしかた</b>	41
ほ場と苗の準備	41
ほ場の準備	41
苗の準備	42
植付作業前の準備	44
植付株間の決めかた	44
替ギヤーの交換・株間切替レバーの切替えかた	45
植付深さの調節のしかた	46
空箱入れの取り付け	46
予備苗台後の取り付け	47
苗支持板の調節のしかた	48
植付作業の手順	49
油圧感知調節のしかた	52
ピッチング姿勢の調節のしかた	52
フロート引きバネの調節	53
ほ場での植えかた	53
あぜぎわマーカの使いかた	54

## 目 次

旋回のしかた	54
外車輪作動スイッチの使いかた	55
苗の補給のしかた	56
空箱の取り出しかた	57
植えじまいのしかた	58
残り苗の取り出しかた	59
植付部の水洗いのしかた	61
安全クラッチが作動したとき	62
湿田での脱出のしかた	63
<b>点検整備</b>	64
定期点検	64
洗車時の注意	64
定期点検・整備一覧表	65
給油・注油点検一覧表	66
燃料・オイルの点検・補給・交換	66
燃料の排出	67
変速ミッションオイル	67
後輪ミッションオイル	68
植付ミッションオイル	68
油圧オイル	69
エアクリーナエレメントの点検・掃除	69
燃料フィルターポットの点検・掃除	70
点火プラグの点検・掃除・調整	71
燃料ホースの点検・交換	71
V Sベルト・油圧駆動ベルトの点検	72
車輪の点検	72
バッテリーの点検・交換	73
電装部の各配線コードの点検・交換	76
ヒューズの交換	76
スローブローヒューズの交換	76
植付作業後の手入れ	77
毎日の作業後	77
長期格納時	77
<b>不調時の処置</b>	79
<b>サービス資料</b>	82
主要諸元	82
標準付属品	83
主な消耗部品一覧表	84
注文部品の紹介	86

# 安全のポイント

本章では、本機を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読して、安全な作業を行なってください。

## 公道走行の禁止

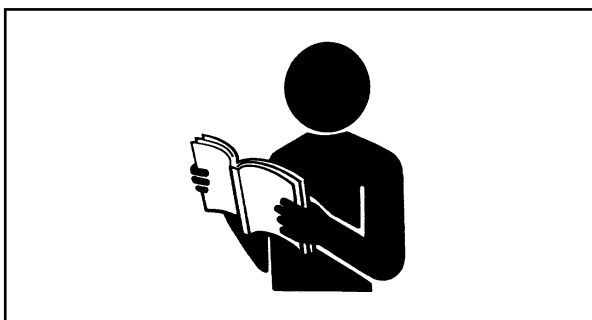
本機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、移動するときはトラックなどで輸送してください。また、トラックの荷台から本機が、幅方向にはみ出した状態で運搬すると、違法行為となりますので注意してください。

## 安全な作業をするために

### ■ 運転者の条件

#### (1) はじめに

この『取扱説明書』をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業するための第一歩です。

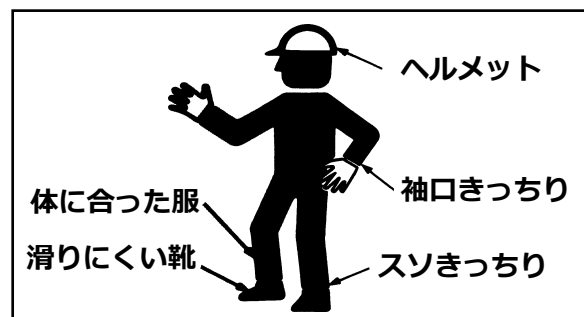


#### (2) 体調について

- ① 飲酒時や過労ぎみのときは作業を行なってはいけません。このようなときに作業を行なうと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。作業を行なうときは、必ず心身とも健康な状態で行なってください。
- ② 妊娠している人、18才未満の人は運転しないでください。
- ③ 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

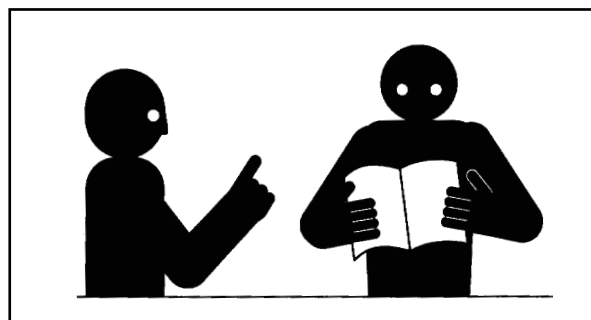
#### (3) 服装について

作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は、回転部に巻き込まれやすく危険です。ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。



### ■ 人に機械を貸すときは

本機を人に貸すときは、取り扱いの方法をよく説明し使用前に本書を熟読するように指導してください。借りた人が本機の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



## ■作業を開始する前に

### (1) 無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。

### (2) 日常点検について

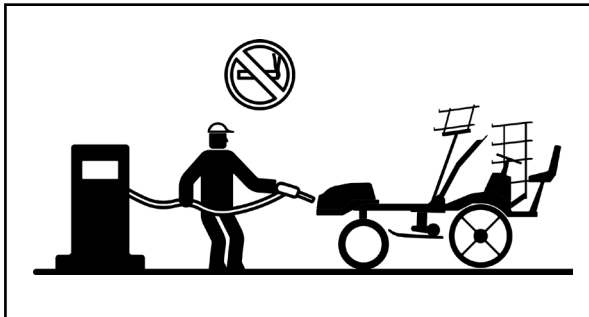
作業する前に、本書を参考に必要な点検・注油は必ず行なってください。特にブレーキおよび主変速レバーの点検は忘れないでください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり主変速レバーの操作が効かなかったりして走行中や作業中の思わぬ事故につながります。

### (3) 安全カバー類の装着確認

本機を運転する前に、安全カバー類が外れたままになっていないか確認しましょう。外れたまま作業を行なうと回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になります。

### (4) 燃料補給時は火気厳禁

燃料を補給するときエンジンは必ず停止し、くわえタバコなどは絶対にしないでください。本機の周囲に火の気を近づけず、火気厳禁で行なってください。守らなかった場合、火災の原因になります。



## ■エンジンの始動と発進

### (1) 室内では十分に換気を

室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて換気を充分に行なってください。換気を怠ると、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

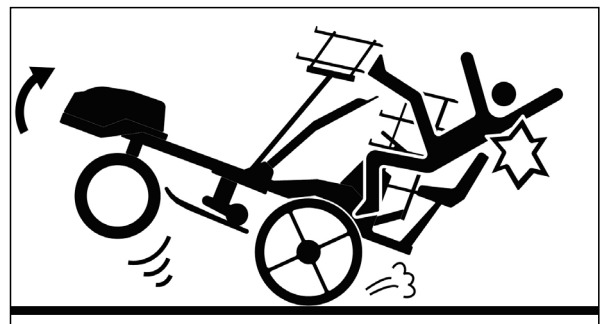


### (2) エンジンの始動は周囲を確認してから

- ①エンジンを始動するときは、V S 変速レバーや主変速レバー、その他のレバーの位置と周囲の安全を確認してから行ってください。特に子供には充分注意してください。確認を怠ると、傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ②エンジンを始動するときは、エンジンやマフラー等の上や周囲に、燃えやすいものがないことを充分確認してください。確認を怠ると、火災の原因になります。

### (3) 急発進は危険

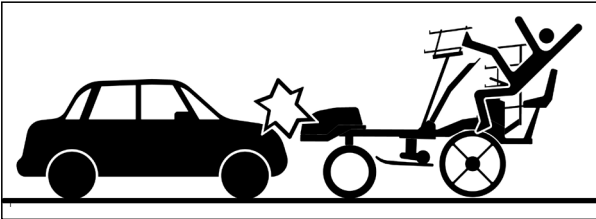
発進するときは周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。急発進すると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



## ■ 移動するときの注意

### (1) 一般道路での自走禁止

本機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。ほ場への移動は、必ずトラック等にのせて運搬してください。

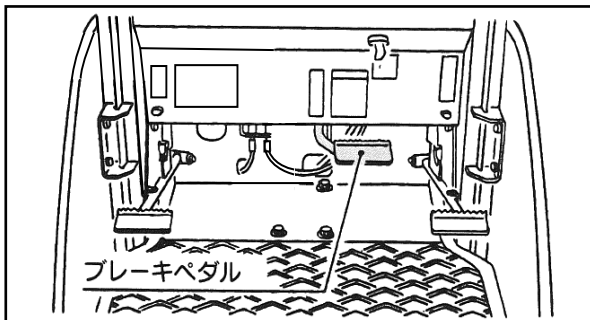


### (2) 正しい運転姿勢で

ハンドルやレバー、ペダルは正しく操作し、わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や転落事故を引き起こす原因となります。

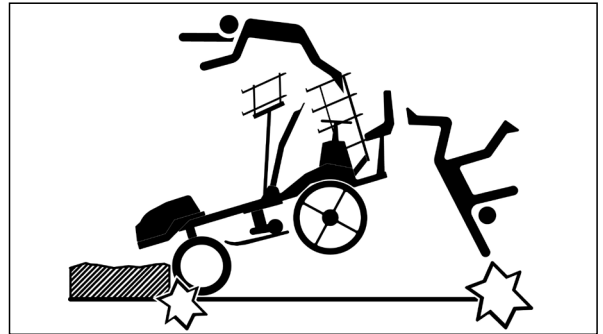
### (3) ほ場の外でのブレーキの使いかた

ほ場の外でブレーキを使う場合、急停止は大変危険です。必ずV S 変速レバーを「停止」位置に戻してからブレーキペダルを踏み込んでください。



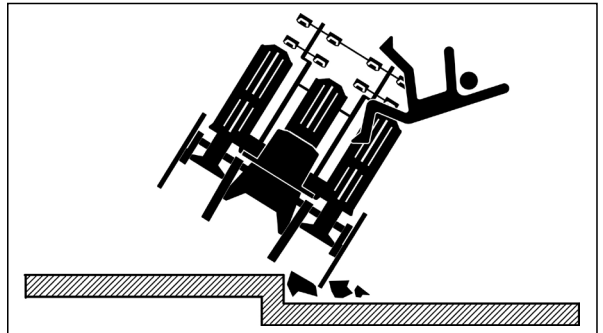
### (4) 同乗禁止

どのような場合でも絶対に運転者以外の人を乗せないでください。転落事故を引き起こす原因となります。



### (5) ゆっくり移動

- ①カーブ、曲り角では早めにスピードを落としてください。急旋回すると転倒事故につながり大変危険です。
- ②凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地等での高速運転はしないでください。地面状況に応じた安全な速度で移動してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

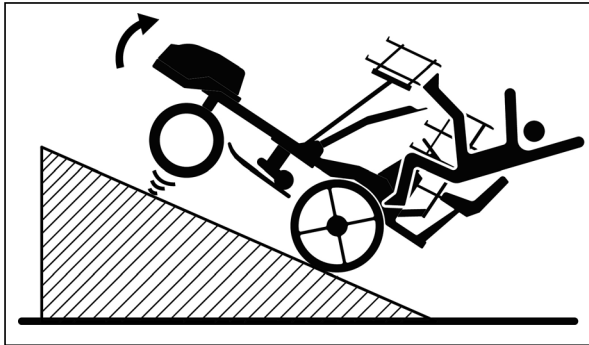


### (6) 路肩に注意

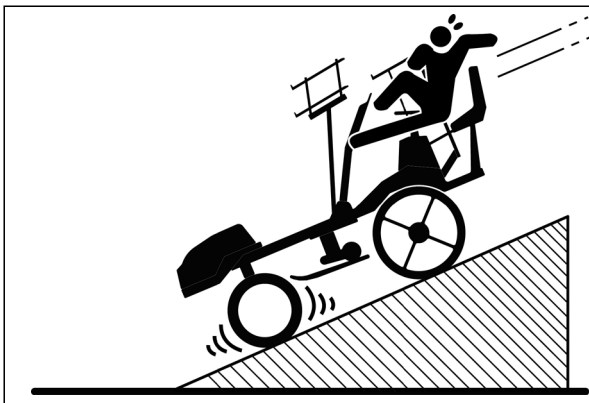
両側が傾斜している所を移動するときは、速度を落として充分注意して移動してください。路肩がくずれて転倒事故につながる恐れがあります。

## (7) 坂道に注意

- ①坂の手前で一旦停止し、主変速レバーを「作業」に切替えてから、坂道を走行してください。急発進は禁物です。
- ②坂を上るときは低速でゆっくりと上り、下るときはV S変速レバーを操作して、ゆっくりと下ります。ブレーキペダルの多用はブレーキを傷めるとともにスリップや転倒の原因となり大変危険です。
- ③停止するときにはV S変速レバーを操作して「停止」にした後にブレーキペダルを踏み込んでください。
- ④坂が急で前進で上ると前が浮き上がる恐れがある場合は、後進で上るようにしてください。

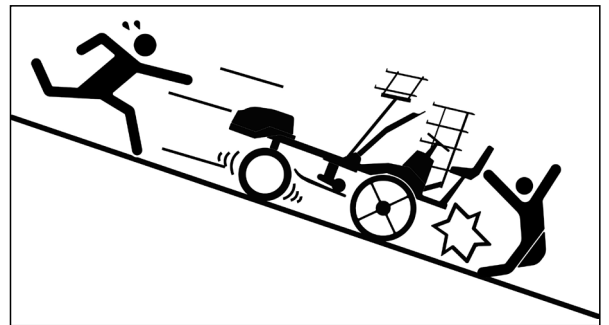


- ⑤坂の途中で主変速レバーを「PTO」、「中立」にしないでください。転倒事故につながる恐れがあります。
- ⑥坂の途中で危険回避などのためにやむを得ず機械を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱい踏み込むと同時に、V S変速レバーを「停止」にしてください。ペダルの踏み込みが足りない場合は暴走する恐れがあり、大変危険です。



## (8) 本機から離れるときは

- ①本機から離れるときは、植付部を植付部固定フックレバーで固定して、エンジンを停止し、駐車ブレーキをロックして車輪止めをしてください。
- ②止める場所は広く平たんで地面の硬い場所を選んでください。本機が自然に動きだす恐れがあり、大変危険です。
- ③下に草やワラがある場所や、燃えやすい物の近くには本機を置かないでください。マフラー等の熱で発火する恐れがあり、火災の原因になります。



## ■ 夜間作業の禁止

本機はライトを装備しておりますが、夜間作業は危険なので帰り時間等を配慮し、作業は早めに切り上げてください。暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

## ■ 移動・運搬時の注意

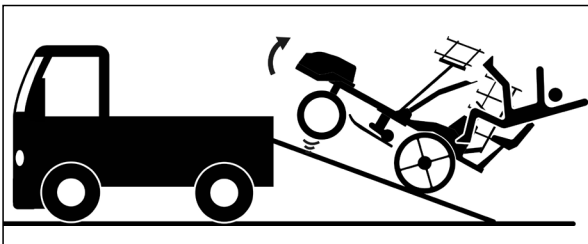
### (1) トラックへの積み・降ろし

- ①積み・降ろし作業を行なうときは、トラックのエンジンを止めて、駐車ブレーキをかけ、車輪止めをして行なってください。これを怠ると積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。
- ②積み・降ろし作業は、誘導者を付けて周囲の安全を充分確認して行なってください。また本機の直前や直後には絶対に立たないでください。傷害事故の原因になり、大変危険です。
- ③左右の予備苗台後は、積み込み前に取り外します。

- ④アユミ板は下記の基準以上のものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾かない場所を選んでください。

＜アユミ板の基準＞
○長さ：車の荷台の高さの4倍以上
○幅：30cm以上
○数量：2枚
○強度：1枚の強度が900kg以上の質量に耐えるもの
○すべり止めのあるもの
○フックのついたもの

- ⑤アユミ板のフックは荷台に段差がないように、また、ずれないように確実にかけてください。
- ⑥アユミ板からの脱輪に注意してください。



- ⑦主変速レバーはトラックに積み込むときは「作業」、降ろすときは「後進」にセットします。積み降ろしは低速で行なってください。途中で絶対に主変速レバーを「PTO」、「中立」にしないでください。これを怠ると転落事故の原因になり、大変危険です。
- ⑧積み・降ろしの途中では、絶対にサイドクラッチペダルを踏まないでください。
- ⑨途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは、ブレーキペダルを素早くいっぱい踏んでください。
- ⑩万一に備えて本機の周囲には人を近づけないでください。
- ⑪積み・降ろしの途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、徐々にブレーキをゆるめて一度道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してください。

## (2) 運搬するとき

- ①トラック等で運搬するときは、駐車ブレーキをかけ、植付部を植付部固定フックレバーで固定して、エンジンを停止し必ず本機をロープで荷台に固定してください。また運搬中は不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。これを怠ると本機が転落する恐れがあります。
- ②長距離を運搬する場合は、安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。
- ③ジャリ道や凹凸の激しい道はゆっくり走行してください。

## ■作業中の注意

気象条件などに注意して、作業実施の判断・作業方法や装備（服装）の選択に充分配慮してください。

### (1) 作業中は、周囲の人に注意

#### （特に子供が近づくのは危険）

作業中は、作業員以外の人を本機に近づけてはいけません。本機自体や作業による飛散物等で傷害事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。

### (2) 作業開始時は、声をかけあって

作業を開始するときは周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声をかけあって行ってください。これを怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。

### (3) 畦越え時の注意

機械を畦に対して直角に向けて止め、主変速レバーを「作業」にし、低速でゆっくり畦を越えてください。畦に対して斜めになったり、高速で畦越えを行なうとスリップや横転の原因となり、大変危険です。

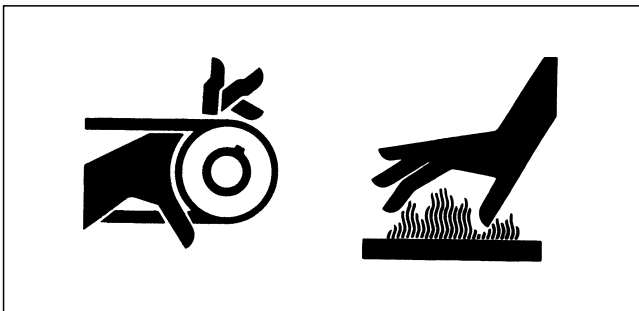
また、畦越えの際には絶対にサイドクラッチペダルを踏まないでください。

#### (4) アユミ板を使ってほ場の出入り

- ①畦が高い所でのほ場の出入りには、必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合、衝撃で本機を破損させたり、転倒することがあり大変危険です。
- ②畦に対して機械を直角に止め、2枚のアユミ板が機械の車輪に合い、平行になっていることを確認してください。
- ③ハンドルをまっすぐにして、ゆっくりと上ってください。このとき脱輪に注意してください。

#### (5) 回転部・過熱部には手を触れない

作業中は、植付部の回転部やエンジン、マフラー等の過熱部などの危険な箇所には手を触れないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



### ■点検・整備時の注意

#### (1) 定期点検について

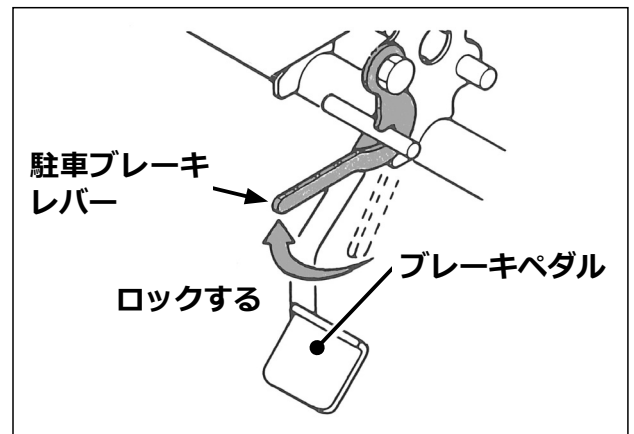
本書にしたがって定期点検をしてください。これは本機を長持ちさせるとともに、安全で効率的な作業を行なうために必要です。

#### (2) 点検・整備は明るく広い場所で

点検・整備するときは、明るく平坦な広い場所で行なってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

#### (3) 点検・整備時はエンジンを停止

点検・整備するときは植付部を植付部固定フックレバーで固定し、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックし、行なってください。これらを怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして大変危険です。

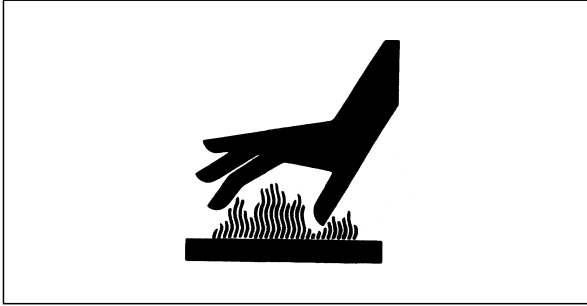


#### (4) 点検・整備は適正な工具で

点検・整備を行なうときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。これを怠ると、整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こし、大変危険です。

## (5) 過熱部分は冷めてから

- ①エンジンを停止してすぐに点検・整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部分が、完全に冷えてから行なってください。これを怠るとやけどなどの原因になります。



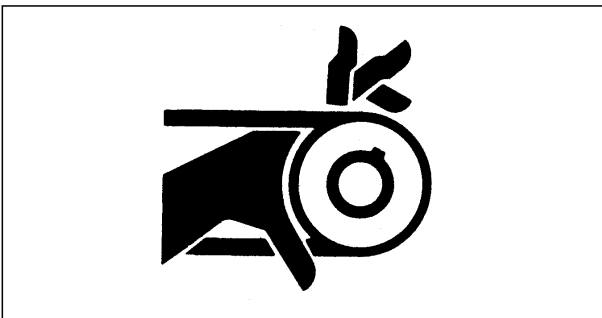
- ②点検・整備をするときは、マフラー等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。これを怠ると作業中に発火し、火災を引き起こす恐れがあります。

## (6) 本機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。本機の故障や事故の原因になり大変危険です。

## (7) カバー類は元通りに

点検・整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。外したままエンジンを始動すると、回転部や過熱部がむきだしになり、傷害事故の原因になります。



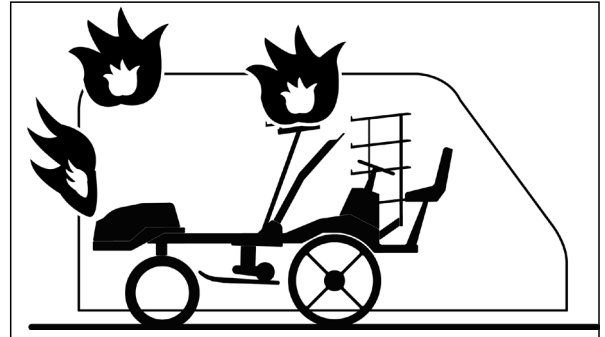
## ■ 保管時の注意

### (1) 燃料の抜き取り

長期格納する場合は、燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取っておいてください。燃料が変質し、本機の故障の原因になるばかりでなく、引火などで火災の原因にもなり大変危険です。

### (2) シートカバーは本機が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を本機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行なってください。熱いうちにシートカバーをかけると火災の原因になり大変危険です。



### (3) バッテリーケーブルを外す

長期格納する場合は、バッテリーケーブルを外しておいてください。これを怠ると、ネズミ等がケーブルをかじってケーブルがショートし、火災の原因になり大変危険です。

## ■ 廃棄物の取り扱い注意

### (1) 廃棄物のたれ流し禁止

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや河川・湖沼・海洋への投棄はしないでください。

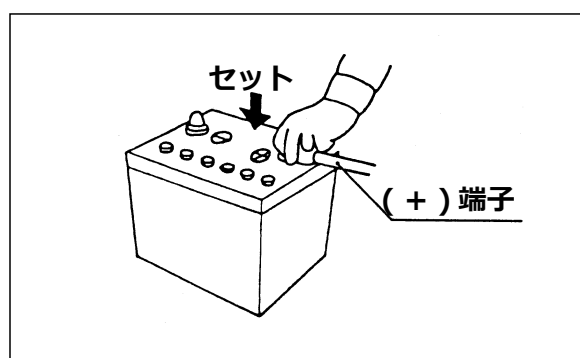
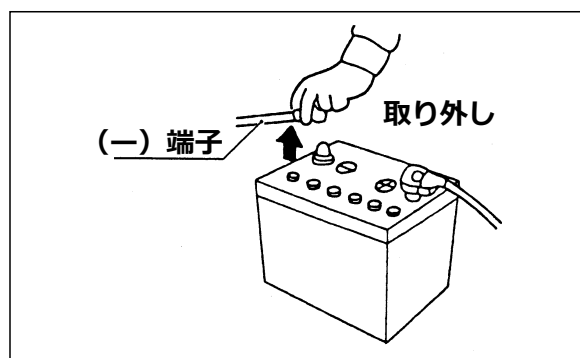
### (2) 廃棄・焼却時は相談を

廃油・燃料・フィルター・ゴム類・その他の有害物を廃棄または焼却するときは、販売店または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則にしたがって処理してください。

## 電装関係を取り扱う時は

### (1) 電気配線点検時の注意事項

- ①電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行なってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服が回転部に巻き込まれたりして大変危険です。
- ②接続部の点検は、キースイッチを「切」にし、バッテリーの(－)側端子を外して行なってください。これを怠ると火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- ③配線の端子や接続部のゆるみ、および配線の損傷は電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は交換・修理してください。



### (2) バッテリ取り扱い時の注意事項

- ①ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近付けないでください。また充電は風通しのよい所で行なってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- ②バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇毒物です。バッテリー液を体や衣服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についた時は、ただちに大量の水で洗ってください。なお目に入った時は、水洗い後、医師の治療を受けてください。
- ③バッテリーの着脱及び点検をする時はエンジンを停止し、キースイッチを「切」にしてください。これを怠ると電気部品を損傷したり、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- ④バッテリーケーブルを外す時は(－)側端子を先に外します。バッテリーケーブルを取り付ける時は(＋)端子を先に取り付けます。これを怠るとショートして火花が飛ぶなどして危険です。

### (3) ブースタケーブル使用時の注意事項

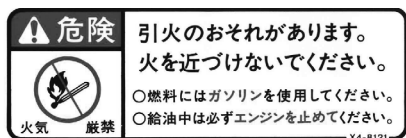
ブースタケーブルは、危険のないように取り扱いってください。

- ①バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。補水キャップが取り外してあれば、万一引火しても爆発力が低下しますので、被害は少なくなります。
- ②ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- ③ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり焼損したりして危険です。

## 安全表示ラベルについて

- 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼り付けています。必ずよく読み、これらの指示にしたがってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、はがれたり、読めなくなった場合は、販売店に連絡し、必ず所定の位置に貼ってください。
- 泥などがついた場合は、きれいにふきとり、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼り付けてある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルも販売店にご注文ください。

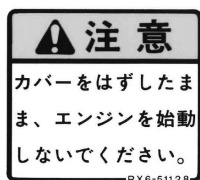
## 安全表示ラベル貼付位置



火気厳禁警告マーク  
X4-8121



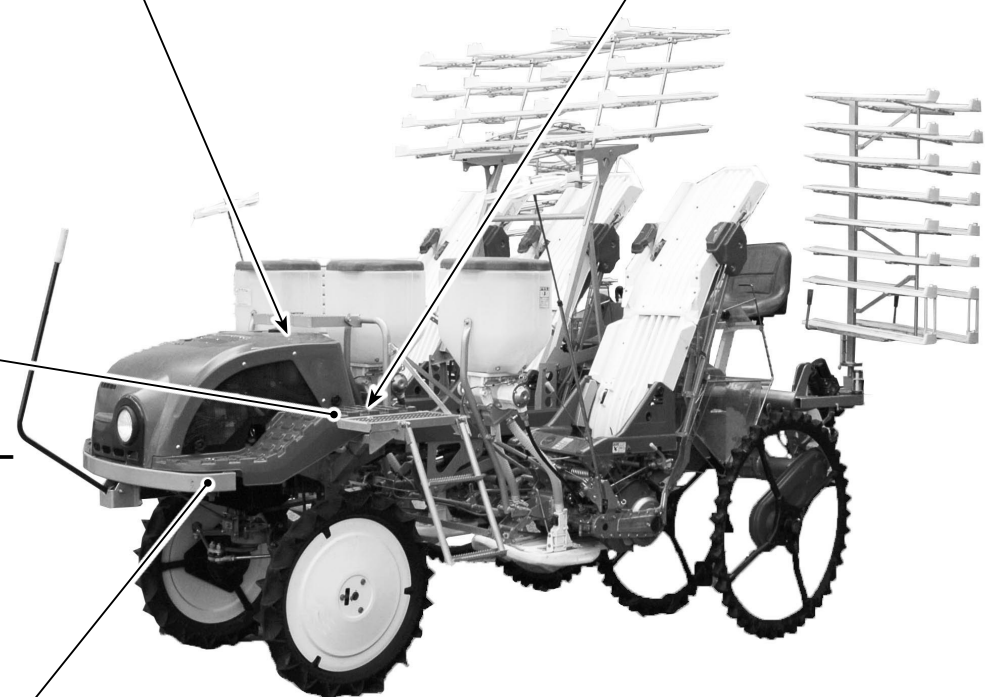
バッテリー警告マーク  
RXE60-51116



ボンネットカバー警告マーク  
RX6-51128  
(向こう側)



マフラー警告マーク  
X4-8123  
(向こう側)



安全表示ラベル貼付位置

**警告**

移動時・ほ場への出入りの際は、外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを『切』にしてください。これを怠ると外車輪が作動して、機械が転倒し、大変危険です。

RXE60-51113

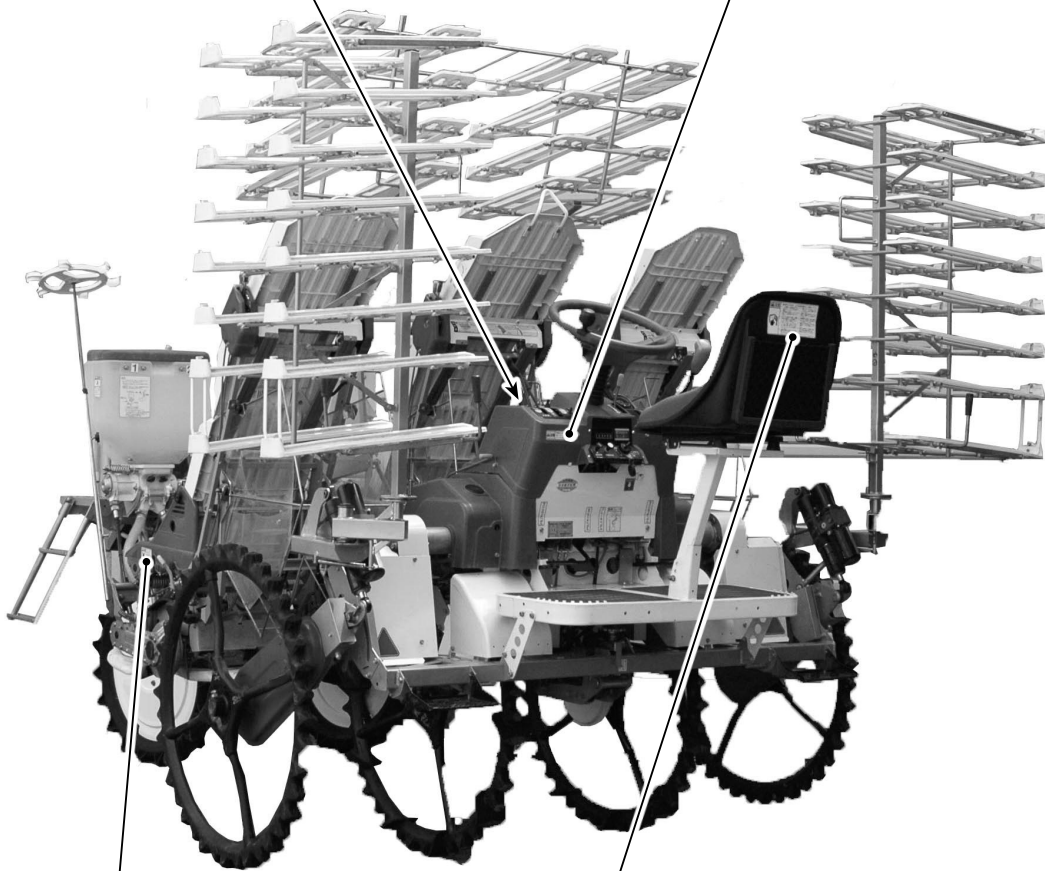
外車輪スイッチ警告マーク  
RXE60-51113

**注意**

1. 機械から離れる時は主変速レバーを『中立』にし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してください。
2. 人・物にぶつかる危険があるので移動走行時には予備苗台後を収納状態にしてください。

RXE60-51114

主変速レバー警告マーク  
RXE60-51114



**注意**

ケガをするおそれがあります。苗を取出す時や、点検調整を行う時は、エンジンを止めてください。

X4-8124

植付部警告マーク  
X4-8124  
(両側)

**注意**

運転操作をする前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。

1. この機械は一般道路の走行はできません。トラック等に載せて運搬してください。
2. 燃料補給する時は、エンジンを停止し、冷却状態で行なってください。
3. エンジンを始動する時は、周囲の安全を確認し、VS変速レバーを『停止』主変速レバーを『中立』で行なってください。
4. トラックへ積み・降ろする時は、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミを使用してください。
5. 機械を移動する時は、左右に転倒しないよう注意し、低速で行なってください。
6. ほ場へ出入りする時は、スピードを落とし、あぜに直角に走行してください。
7. 機械から離れる時はエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
8. 点検調整する時は、安全な場所でエンジンを止め、植付部をフックで固定してください。
9. 補助者と共同作業を行う時は、合図をし、安全を確認してください。
10. 屋内では排気ガスが溜まり臭くガス中毒の危険があるため、換気を十分に行ってください。

RXE60-51113

運転操作警告マーク  
RXE60-51113

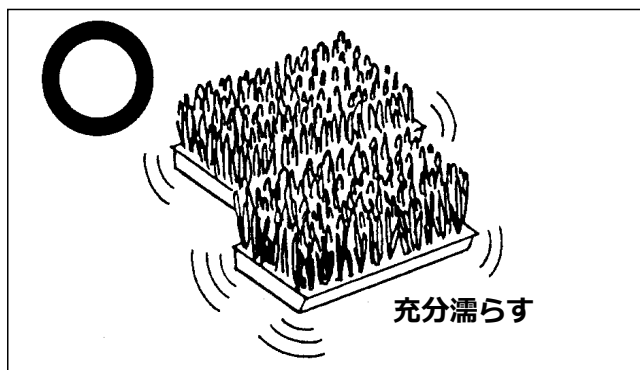
# 使用上のポイント

本機が使用できる耕盤の深さは40cmまでです。

泥炭地、基盤整備田等で本機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では、本機を使用できなかつたり、早期破損の原因となつたりします。また、本機の特性をよく知って、それにできるだけ合わせた苗やほ場、機械の準備をしていただくことが大切です。

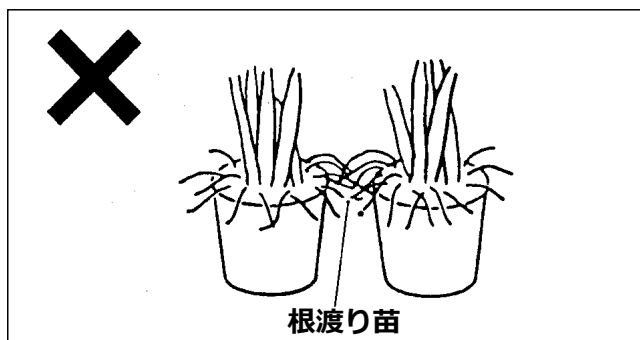
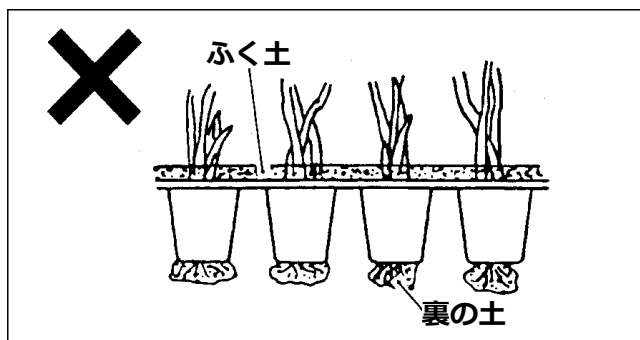
## ■ 苗について

- 苗は使用する前にポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植付けをします。特に根張りの良い苗は充分濡らしておきます。濡らしかたが不足すると、苗の押し出し不良・ロック板の作動不良・縦送り・横送り不良の原因となります。
- 濡らして使用することが絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットにくずれ易い土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。



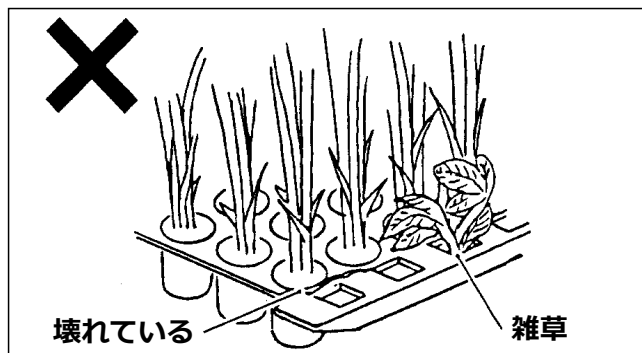
## 重要

- 苗箱の上面に余分なふく土をかけないようにしてください。また、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかつたり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。
- 根渡りさせないように、育苗の段階から注意してください。(詳しくは「育苗のてびき」を参照) 根渡り苗は植付けができないことがあります。
- 育苗に使用する培土は適度な弾力とねばりのある培土を使用してください。砂質土・火山灰土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。培土に関しては、販売店にご相談ください。



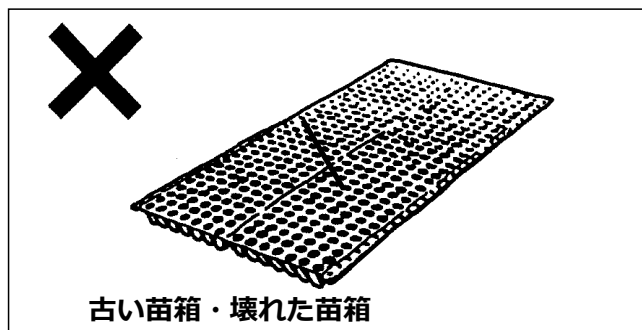
**重要**

- 箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱が詰まって苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



**重要**

- 10年以上経過した古い苗箱や新しくても保管状態のよくない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時、苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。古い苗箱は計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。



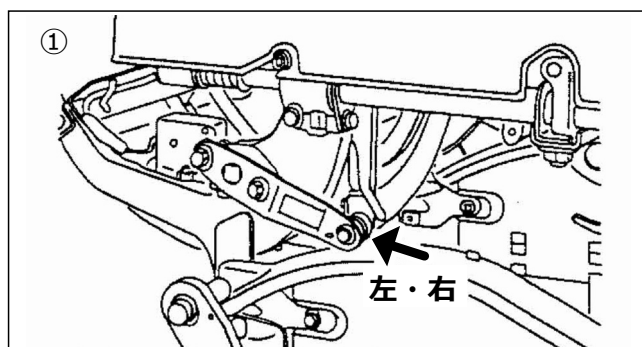
- 育苗のとき、苗箱のふちを変形させないように注意してください。ふちが変形してしまった苗箱は破損していなくても、使わないでください。苗箱送りが確実に行なえず、連続欠株の原因になります。



**■注油**

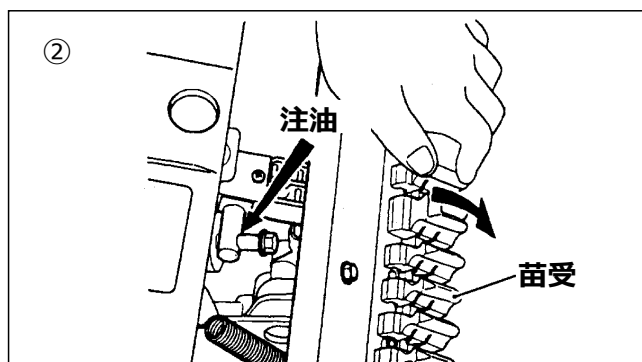
- 作動不良・消耗を防ぐため毎日使用前に注油してください。

①縦送り爪下左・右



②上下送りバネ軸

苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方に押さえて注油してください。



## ■ 苗のセット

- 植え付け中の苗補給は、自給苗のせ台の苗がなくなったら予備苗台の苗箱を自給苗のせ台へ、まっすぐ丁寧にのせてください。

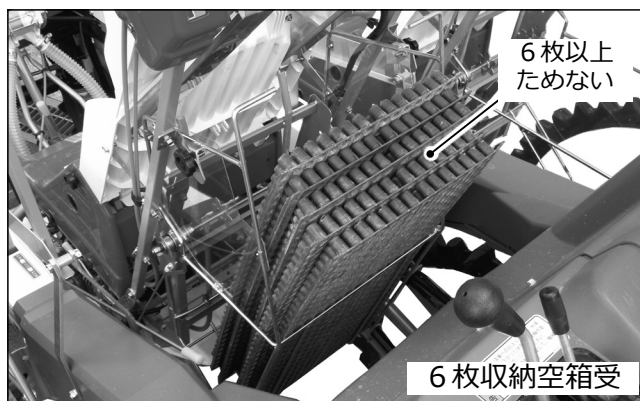
### 重要

- 中植付部は、ブザーが鳴ってから苗補給すると、前方の見通しが良い状態で作業ができます。



## ■ 空箱の取り出し

- 6枚収納空箱受には6枚以上空箱をためないでください。また、12枚収納空箱受には12枚以上空箱をためないでください。箱がつまって植付不調・苗箱の破損の原因になります。
- 休憩の後で作業を再開する時等で植付部から出てくる空箱に曲がりグセがついている時、また部分的に変形・破損した空箱は空箱受へ入らないことがあります。このような空箱は直接手で引き抜いてください。

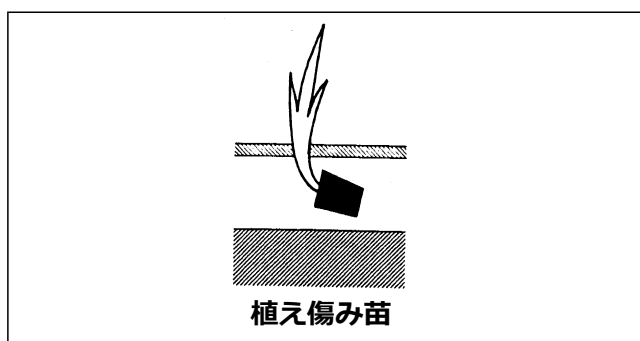


## ■ 植え痛み の注意

- 次のような条件のとき、植え痛み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業を行なってください。

- 貧弱な苗
- 根張りが悪い苗
- ガイド板が変形している。  
(広くなったとき)
- 苗支持板が変形・欠落している。

- 植付状態を確認しながら作業をしてください。

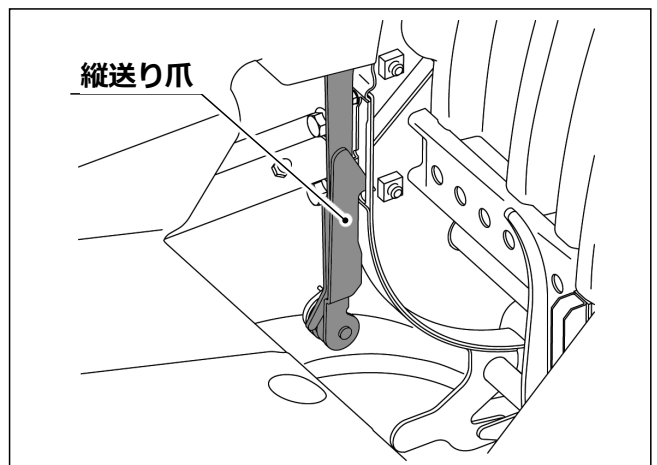
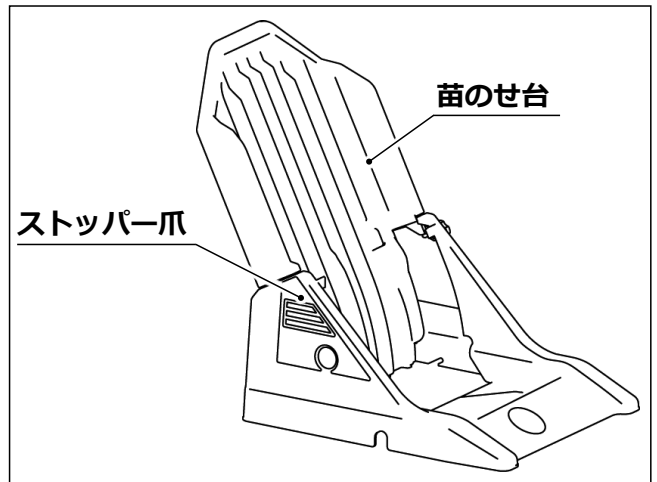
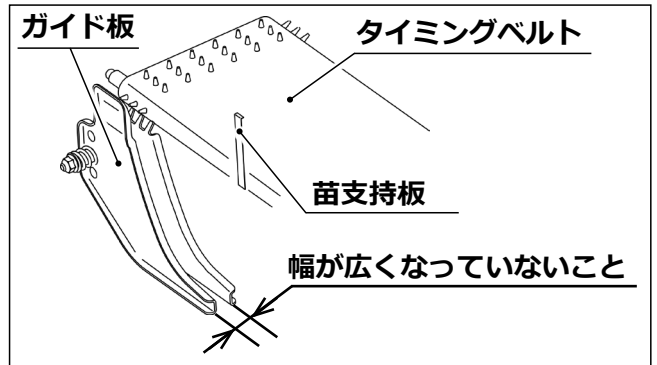
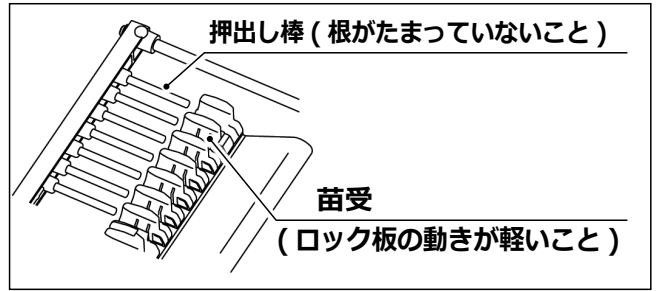


### ■ 植付部の水洗い

- 苗受・押し棒・タイミングベルト・ガイド板・苗支持板・苗のせ台・縦送り爪・植付爪・ストッパー爪等をよく水洗いしてください。
- 休憩・食事のとき・ほ場を変えるときなどには必ず洗ってください。

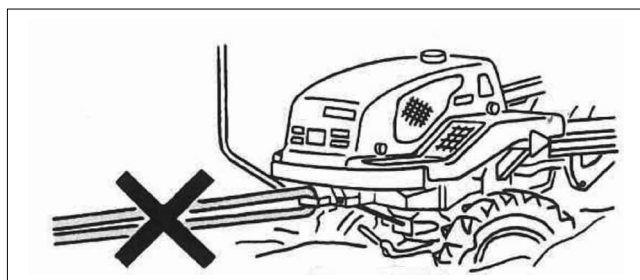
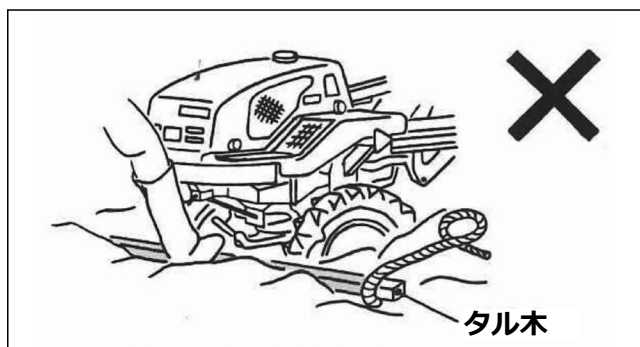
### 重要

- ガイド板に泥・異物がつまっていると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。(変形している場合は修正、または交換してください。)
- 苗支持板を変形させないように注意してください。植付不調になります。



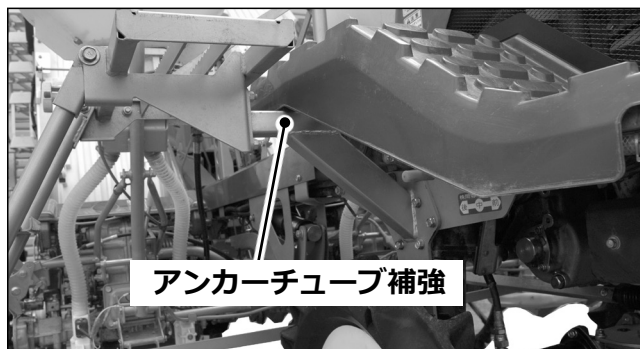
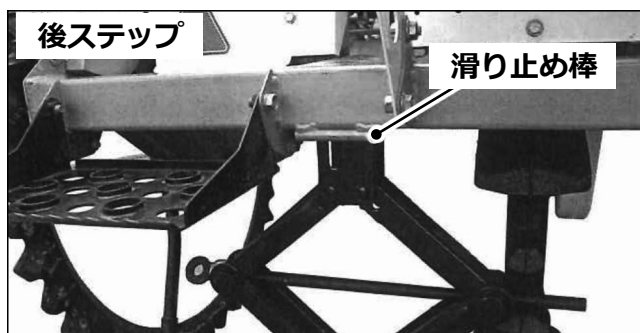
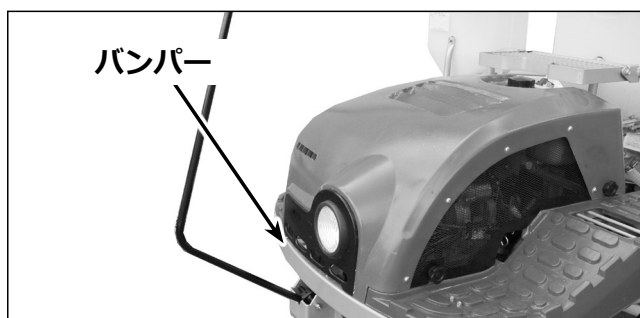
## ■ 湿田での脱出のしかた

- (1) 予備苗を全部降ろして本機を軽くします。
- (2) 車輪に負担をかけないように、油圧レバーを「下」、油圧感知調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りている状態にします。
- (3) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひきます。
- (4) V S 変速レバーを「低」から「高」繰り返し操作して、ゆっくりと自力で脱出させてください。



### 重要

- 深いほ場で沈んで、本機から異音がしたり、車輪がスリップして前進できなくなった場合は、絶対に本機をトラクター等で引っ張らないでください。本機が破損する恐れがあります。
- 機体前方のジャッキアップは、バンパー中央1ヶ所だけでは変形する恐れがあります。左右のアンカーチューブ補強板も利用して、無理のないように注意して引き上げてください。機体後方では後ステップ左右の滑り止め棒の所で行なってください。



# 保証とサービスについて

## ■商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

## ■サービスネット

ご使用中の故障や不審な点およびサービスに関するご用命は、販売店にお気軽にご相談ください。

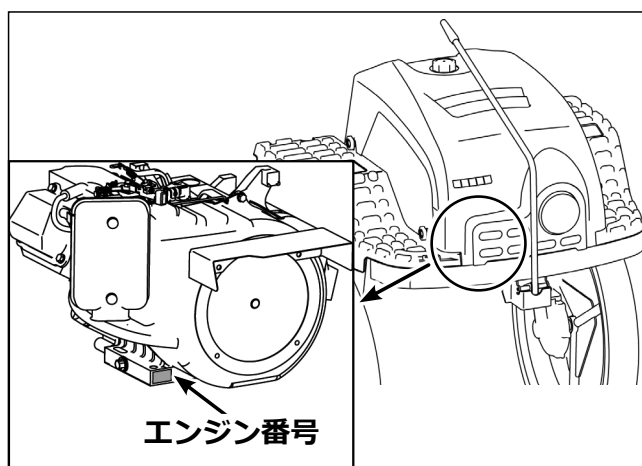
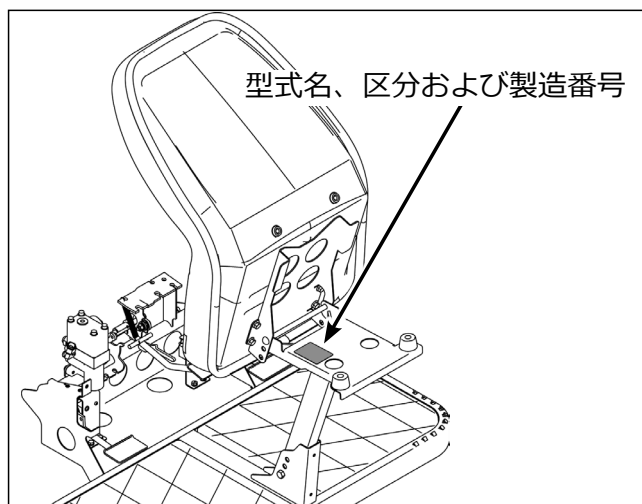
その際 (1) 型式名、区分および製造番号  
(2) エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

### (型式マーク)

農業機械の種類	
型 式	
区 分	
製 造 番 号	

区 分	装備内容	
	替ギヤー	苗とう載数
RXE61	5, 6, 11, 12	46
RXEH61	1, 3, 11, 12	54



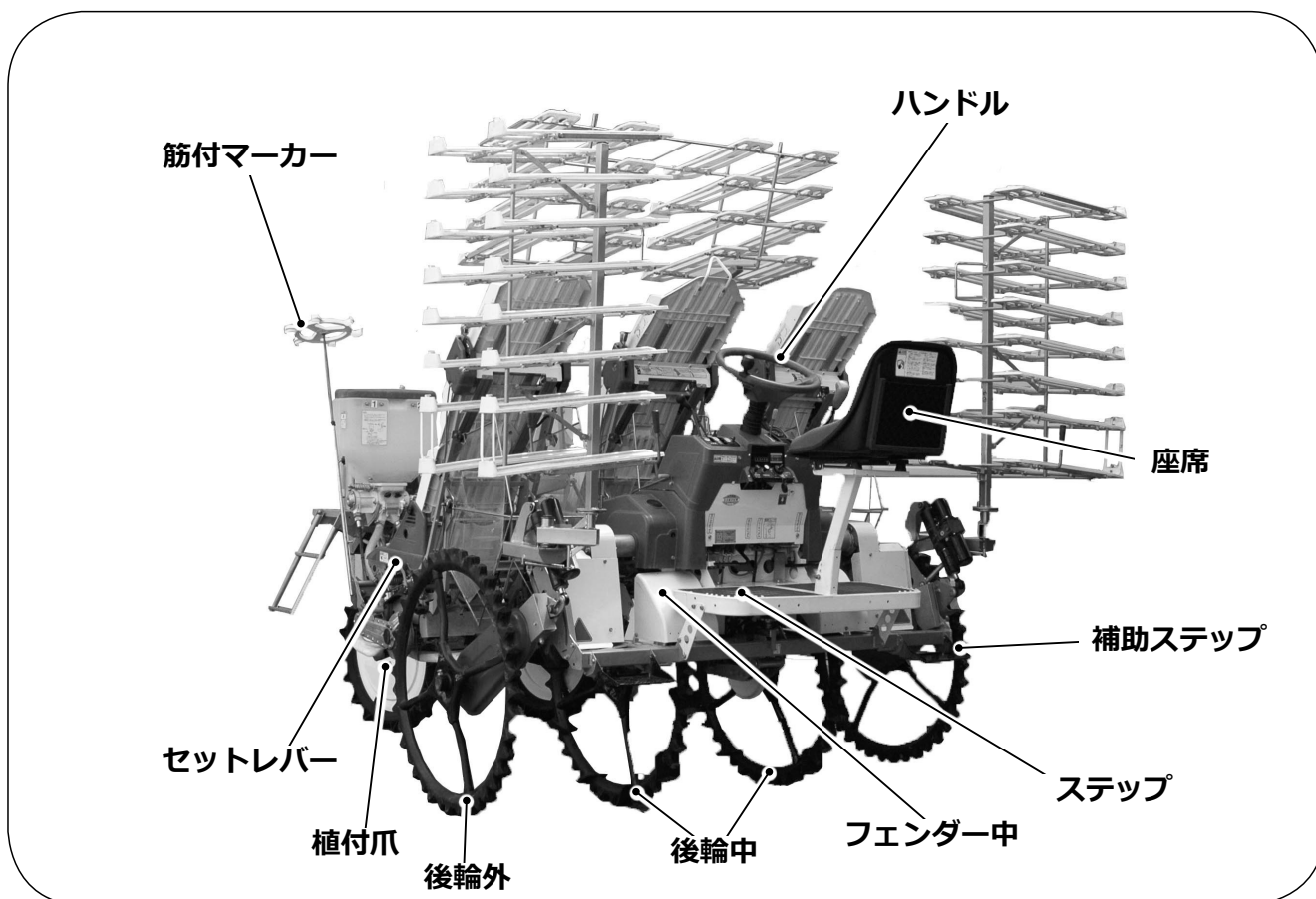
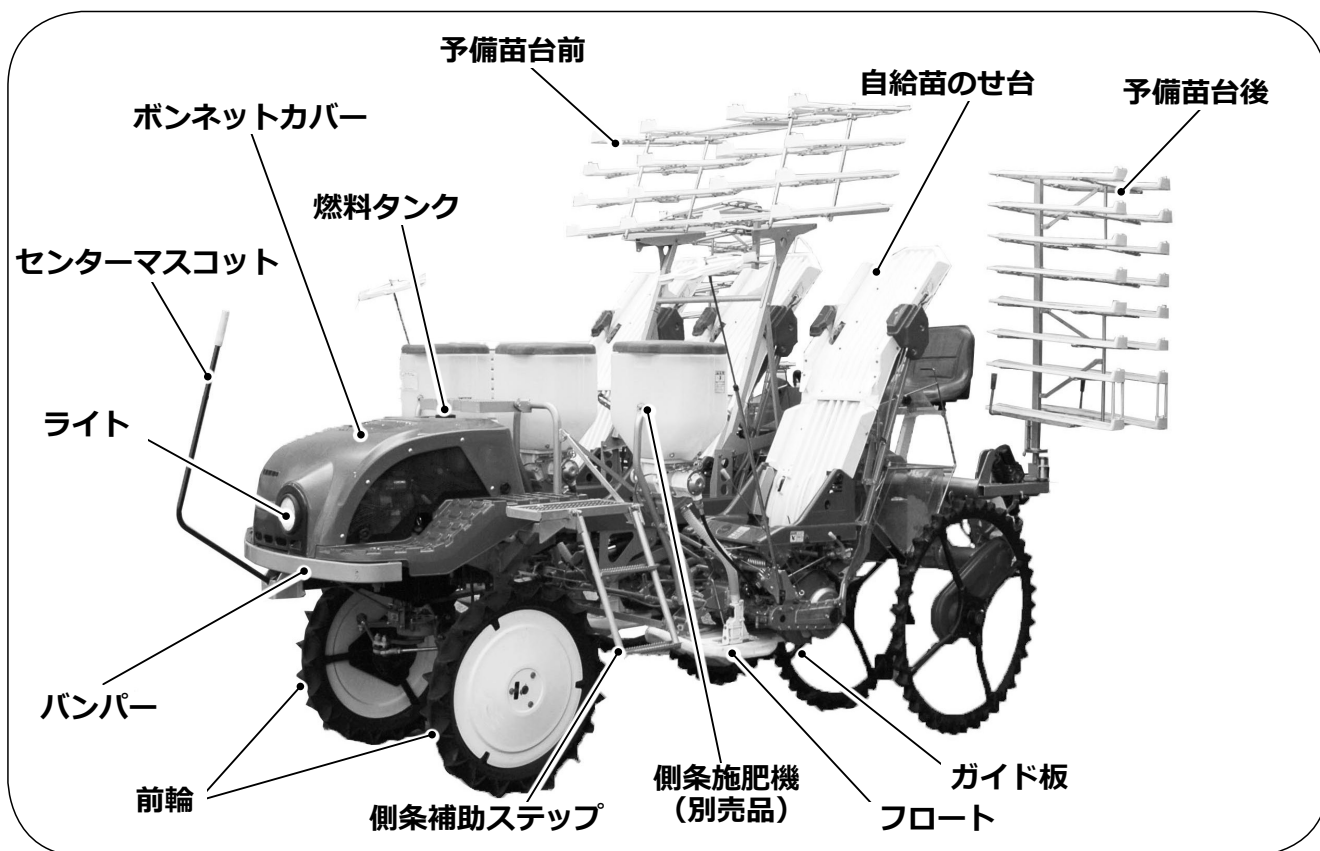
## ■補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給期間は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

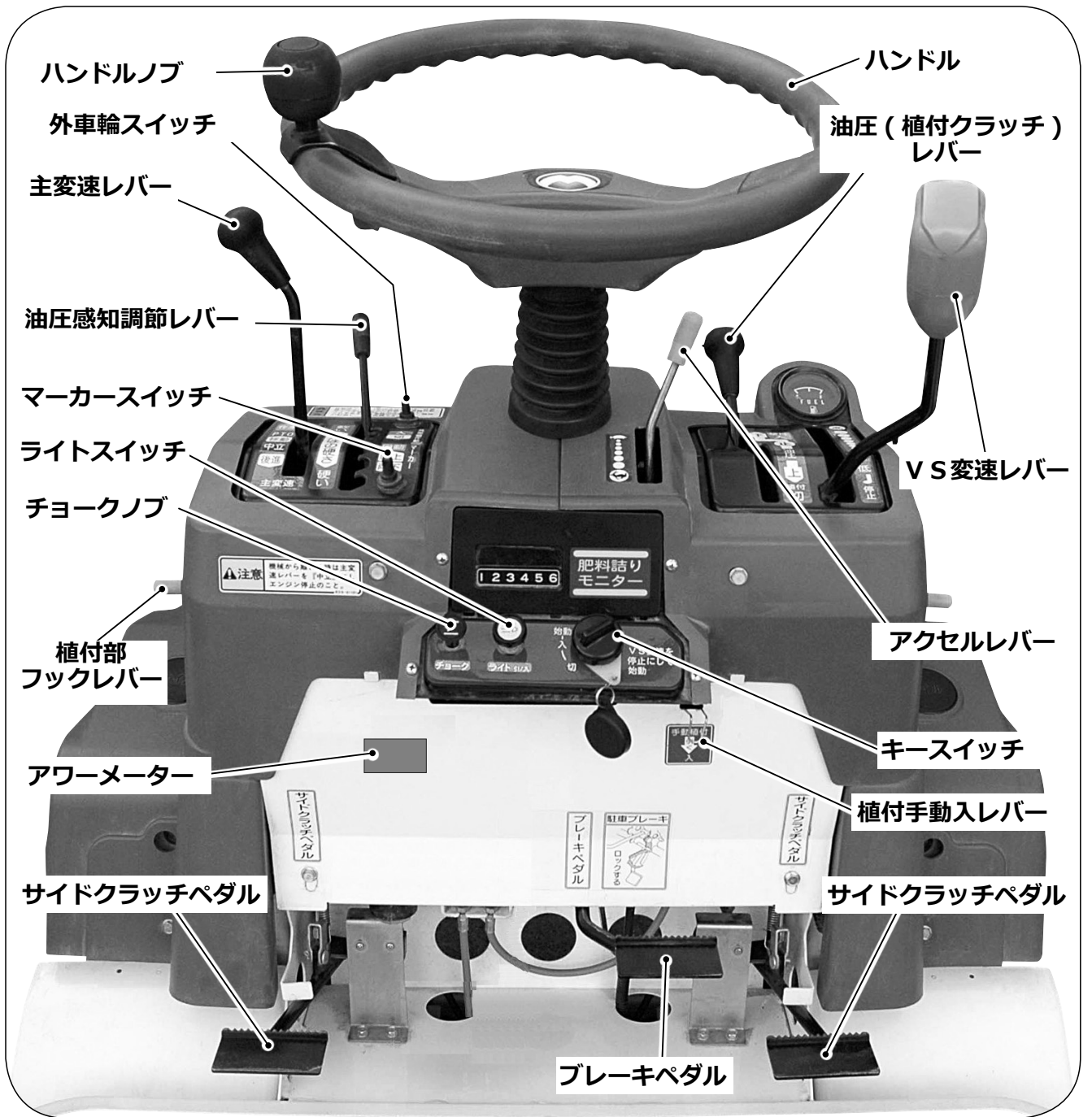
補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合は、納期および価格についてご相談させていただきます。

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の名称



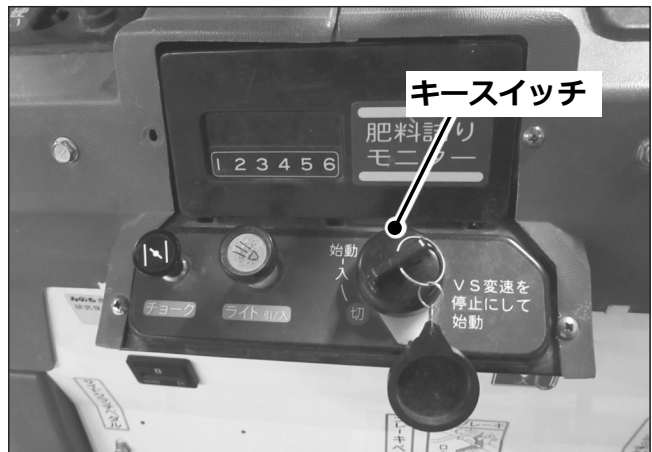
各部の名称と取り扱い



## 各部の取り扱い

### ■キースイッチ

- 切**……エンジンが停止します。  
ライト・苗供給ブザー・燃料ゲージ・側条施肥モニターは作動しません。
- 入**……エンジンが回転中の位置です。  
ライト等の電装品が使用できます。
- 始動**……V S変速レバーを「停止」にしてエンジンを開始します。  
手を離せば「入」に戻ります。



### 重要

- エンジン回転中はキースイッチを「始動」に絶対に回さないでください。
- 「始動」作動は1回5秒程度とし、始動しないときは10秒程度休止してから再び操作をくり返してください。
- エンジン高温時にエンジンを切るとアフターバーン（パンと音が鳴る）が発生することがありますが、機械使用上問題ありません。約1分間程度アイドリング回転で冷却した後にエンジンを切ることによって、アフターバーンは発生しにくくなります。

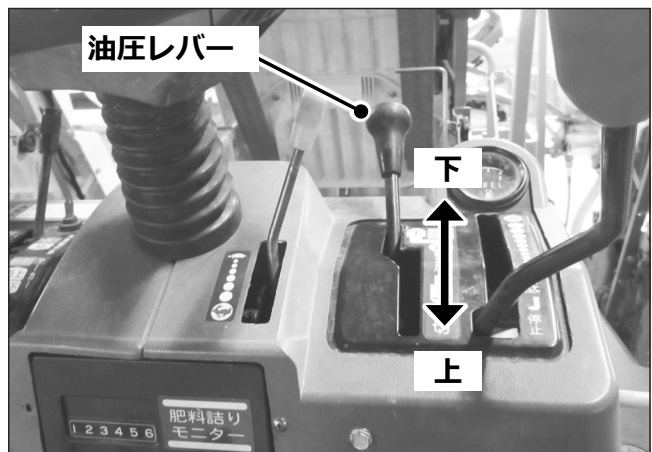
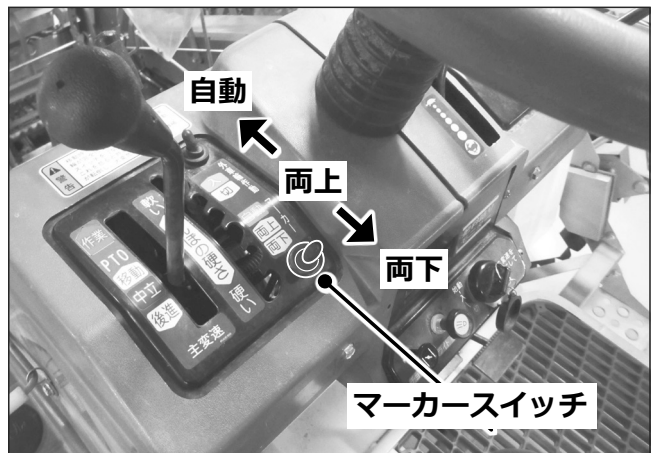
### ■マーカースイッチ

○田植作業中に左右の筋付マーカースイッチを上げ・下げするのに使います。



**自動** … 油圧レバーを「下」にすると片側の筋付マーカースイッチが下がります。  
筋付マーカースイッチの下げる方向を切り替える時は、油圧レバーを「上」にし、再度、油圧レバーを「下」にしてください。油圧レバーを「上下」操作するたびに、筋付マーカースイッチの下がる方向が交互に切り替わります。

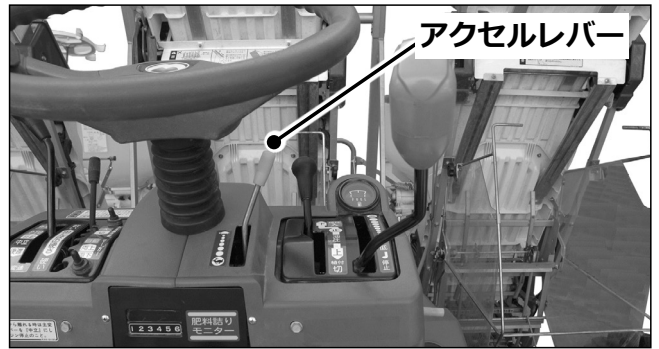
**両上** … 左右両方の筋付マーカースイッチが上がった状態で保持されます。  
あぜぎわや枕地で筋付マーカースイッチを使用しない時に切り替えます。

**両下** … 油圧レバーを「下」にすると、左右両方の筋付マーカースイッチが下がります。  
油圧レバーを「上」にすると、左右両方の筋付マーカースイッチが上がります。



## ■ アクセルレバー

- アクセルレバーを手前に引く（ 方向）とエンジン回転数が上がり、前方に押す（ 方向）とエンジン回転数が下がります。
- ほ場条件によるエンジン負荷に応じて、適当な位置に固定して使用します。



## ■ チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

### 重要

始動時以外は、使用しないでください。



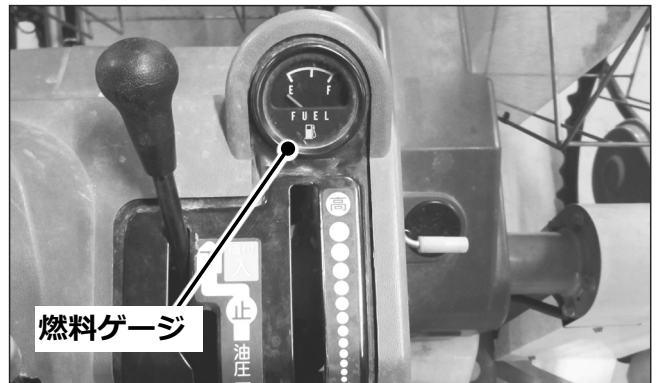
## ■ ライトスイッチ

- キースイッチを「入」にしてから使います。
- ノブを引くとライトが点灯します。  
ノブを押し込むとライトが消灯します。



## ■ 燃料ゲージ

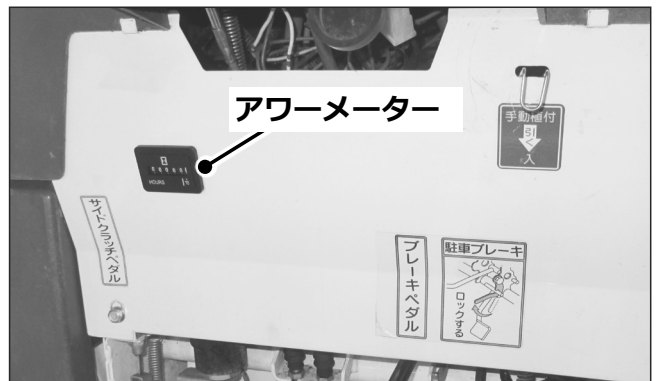
- キースイッチが「入」のときに動きます。



## ■ アワーメーター

- メインスイッチを「入」にすると稼働します。
- 現在までの積算稼働時間（メインスイッチが「入」の時間）を表示します。このとき、6桁目（右端）は、数字を6倍して【分】単位の表示となります。

【例】 13.6……………13時間 36分  
また、99999.9時間以上は0表示になります。



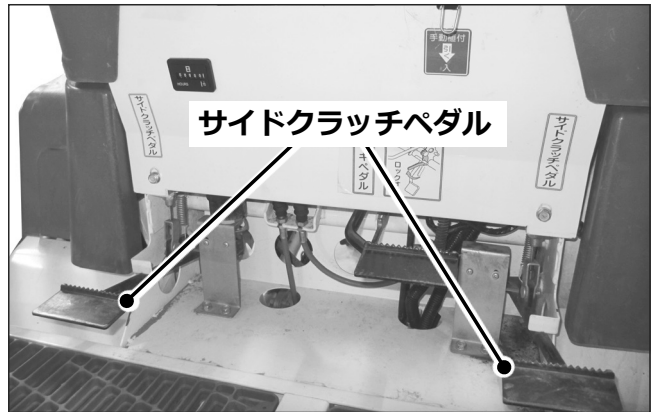
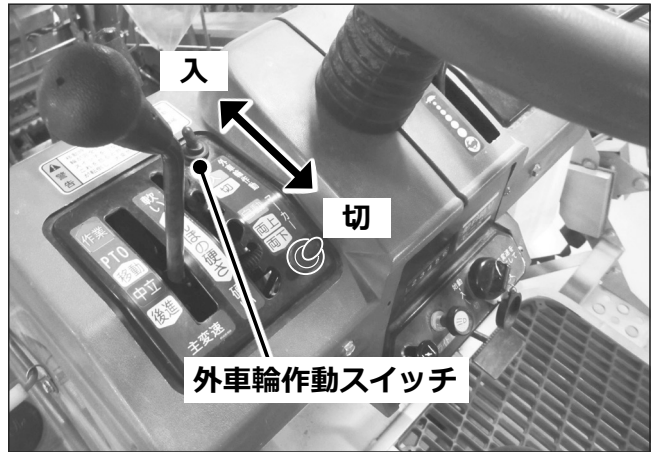
## ■外車輪作動スイッチ

後輪外車輪で植付した苗を踏み倒したり、  
旋回時に土が盛り上げる場合に使用します。

### ⚠ 警告

移動中・ほ場への出入りの際は、外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。これを怠ると外車輪が作動して、機械が転倒し、傷害事故をおこすおそれがあり危険です。

- 入 … 左側のサイドクラッチペダルを軽く踏むと左外車輪が、右側のサイドクラッチペダルを軽く踏むと右外車輪が約 30 cm 上がり、離すと下がります。
- 切 … サイドクラッチペダルを踏んでも、外車輪は作動しなくなります。外車輪が作動中にスイッチを「切」にすると、任意の高さで止めることができます。



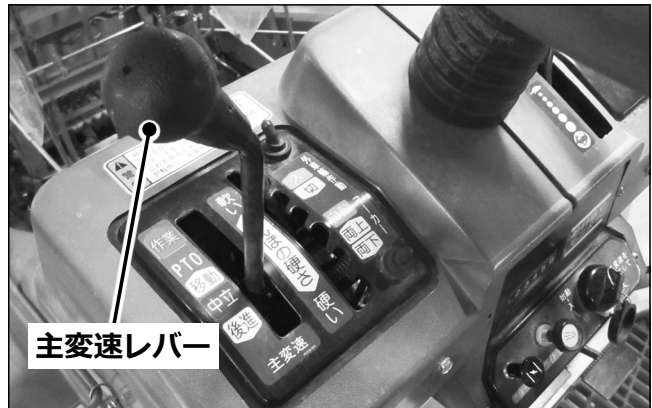
### 重要

外車輪を上げると機体が大きく傾くようなほ場では、下げた状態で作業してください。耕盤を傷めたり、本機が破損するおそれがあります。

## ■主変速レバー

- 車速を変更するレバーです。
- 前進 2 段（作業・移動）、後進 1 段と中立・PTO があります。

作 業	植付作業時に使用します。
P T O	植付部のみ動きます。
移 動	高速移動時に使用します。
中 立	走行・植付部とも動きません。
後 進	——



### ⚠ 注意

本機から離れるときは、主変速レバーを「中立」にし、エンジンを停止して、駐車ブレーキ（25 ページ参照）を掛けてください。これを怠ると本機が自然に動き出し大変危険です。

### 重要

- 主変速レバーの操作は、V S 変速レバーを「停止」にし、機械が完全に停止してから行なってください。走行中に操作すると機械の損傷につながります。
- 変速機の構造上、主変速レバーが切替わりにくい場合があります。切替わらない場合は、いったん V S 変速レバーを前方に操作したのち「停止」に戻し、再度主変速レバーの切替えを行なってください。

## ■ V S 変速レバー

- 発進・停止操作ができるとともに、主変速レバーと組み合わせて車速を調節するレバーです。
- レバーを前方に押すと発進し増速、手前に引くと減速し、いっぱい引くと停止します。

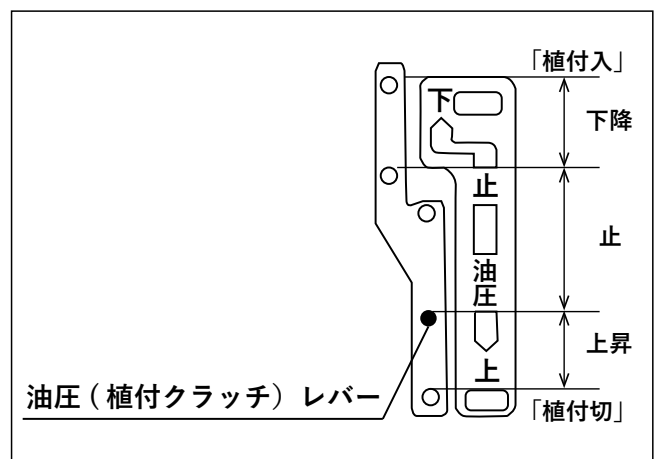
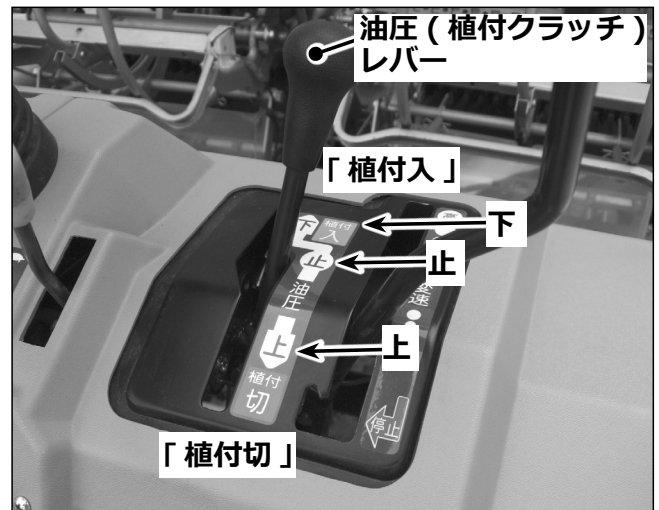
### 重要

- エンジン始動時はレバーを「停止」にしないと始動しません。
- V S 変速レバーは、エンジンに大きな負荷のかかる条件では高速側から自動的に低速側に戻る場合があります。



## ■ 油圧 (植付クラッチ) レバー

- このレバー 1 本で、植付部の上昇・下降と植付部への動力伝達の断続、および筋付マーカの上げ・下げができます。
- 油圧レバーを「下」にすると植付部が下降し、フロートが接地すると植付クラッチは自動的に「入」になります。
- 油圧レバーを「上」にすると植付部が上昇するとともに、植付クラッチは「切」になります。
- 植付部を上昇中に油圧レバーを「止」にすると、植付部を任意の高さで止めることができます。
- このレバーは、苗自給装置のスイッチも兼ねています。油圧レバー「下」の位置でスイッチが「入」となり、油圧レバー「止」、または「上」の位置でスイッチが「切」となります。

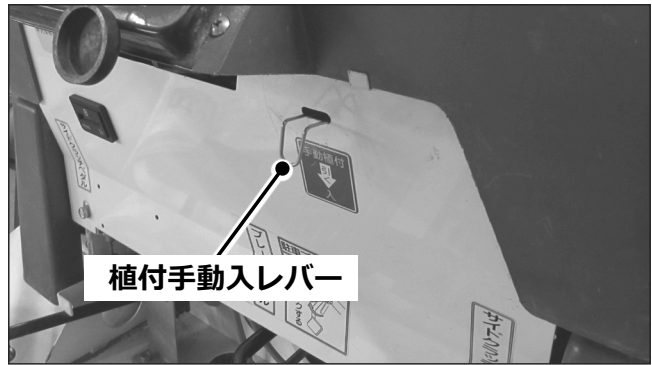


### 重要

油圧レバーを「止」にしても、植付部がわずかずつ下降することがありますので取扱上ご確認ください。

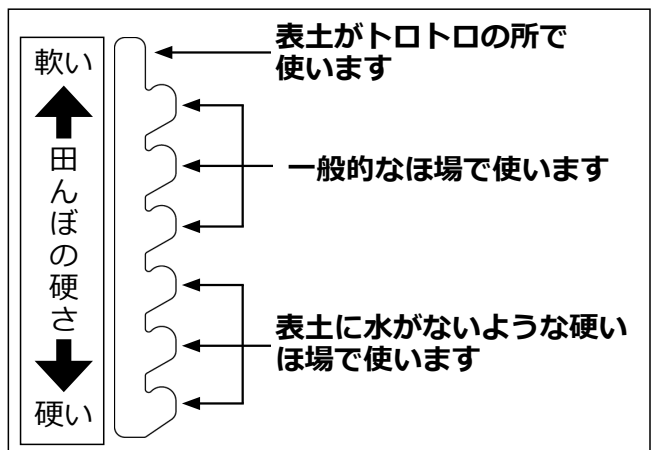
## ■ 植付手動入レバー

- 点検調整時等、フロートを接地させないで植付部を動かす場合に使います。
- レバーを引くと植付クラッチが「入」になります。
- 植付クラッチを切る場合は油圧（植付クラッチ）レバーを「上」にします。



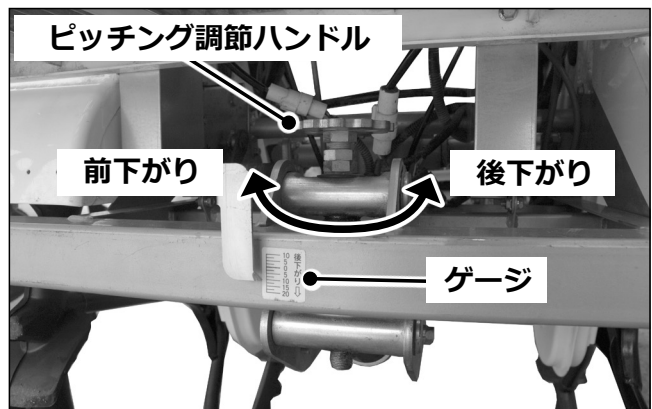
## ■ 油圧感知調節レバー

- フロートが泥を押ししたり、浮き上がったりしないように、ほ場条件に合わせて調節します。
- レバーを手前「硬い」にするとフロートがほ場表面を強く押し付けるようになります。前方「軟い」にするとフロートが浮き上がりやすくなります。



## ■ ピッチング調節ハンドル

- ほ場によって、植付部の前後姿勢を変えたほうが良い場合に、調節するハンドルです。
- フロート前部で泥を押ししたり、フロート後部が浮いて浅植え、ころび苗になる場合は、ハンドルを左へ回し、植付部の姿勢を後下がり（後ろ下がり）にします。
- フロート後部が大きく沈み、油圧自動スイングの感知が鈍くなり、深い溝を掘ってしまう場合はハンドルを右へ回し、植付部の姿勢を前下がり（前下がり）にします。

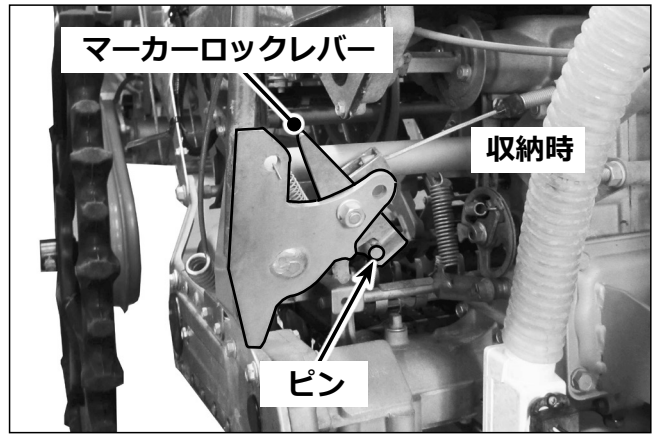


- 出荷時のゲージの目盛り  
側条施肥機付き… 後ろ下がり 10～15  
側条施肥機なし… 後ろ下がり 0～5  
ほ場の条件に合わせて、調節してください。

**重要**  
ピッチング姿勢の調節を行なう時は、植付部を表土から浮かして行なってください。

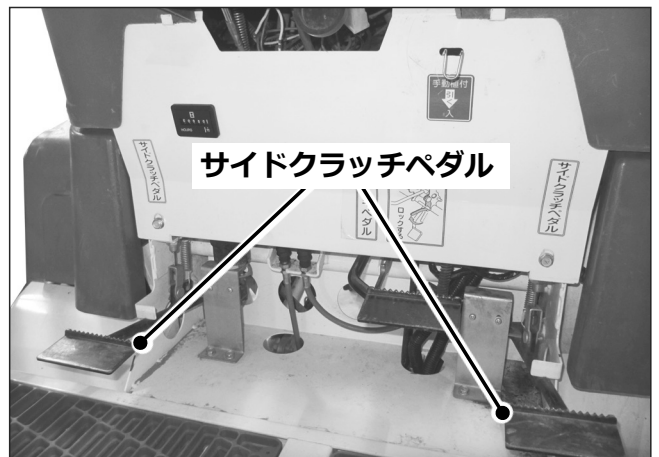
### ■ マーカーロックレバー

移動の時、またはあぜぎわ等の植えつけで筋付マーカーが障害物に当たる恐れのある場合はレバーをロックして使用してください。



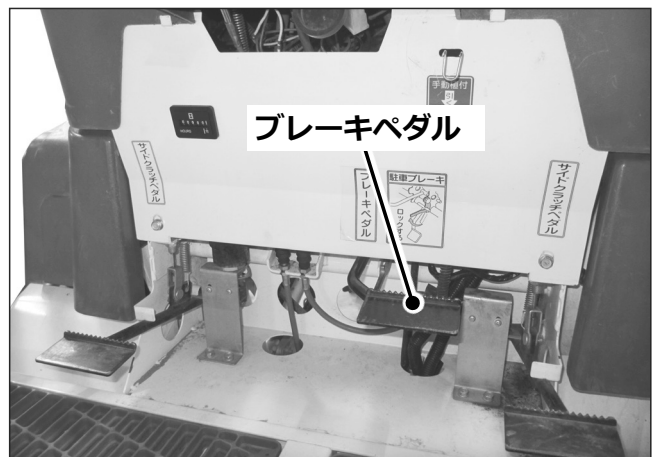
### ■ サイドクラッチペダル

- 左側のペダルを踏み込むと左後輪の、右側のペダルを踏み込むと右後輪のクラッチが切れます。
- 旋回するときは、旋回する側のペダルを踏み込んでください。



### ■ ブレーキペダル

- 踏み込むとブレーキがかかります。走行時に停止をするときはV S 変速レバーを「停止」にするとともに、ブレーキペダルを踏み込んでください。
- 駐車時には必ずブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキレバーでロックしてください。



#### ⚠ 警告

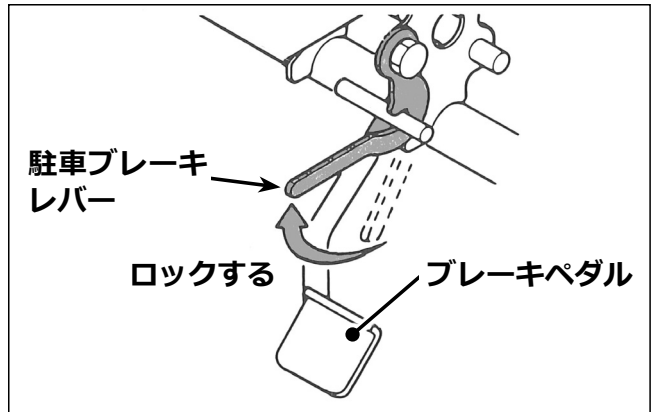
サイドクラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏まないでください。ブレーキが片ぎきして衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。

### ■ 駐車ブレーキレバー

- 本機を駐停止させておくためのレバーです。
- ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。

#### ⚠ 注意

駐車時、停止時には必ず駐車ブレーキレバーで駐車ブレーキを確実にかけてください。これを怠ると本機が自然に動き出し大変危険です。



#### 重要

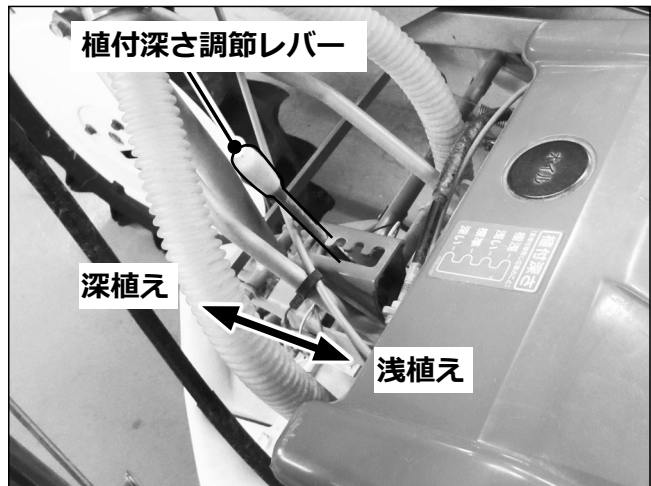
駐車ブレーキレバーをかけたまま走行すると、本機の故障の原因になります。

### ■ 植付深さ調節レバー

- 苗の植付深さを調節するレバーです。
- 植付深さ調節レバーを前の溝にセットすると深植えとなり、後の溝にセットすると浅植えとなります。

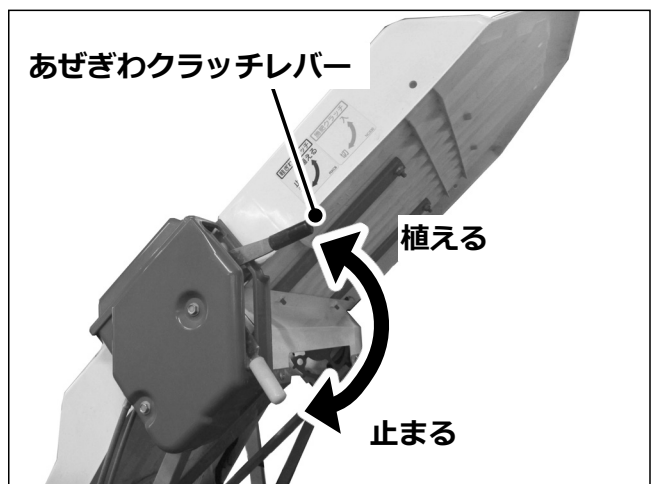
#### 重要

- 植付深さは必ず3ヶ所とも同じ位置にセットしてください。守らなかった場合は自動植付・自動油圧が正常に作動しません。
- ほ場の条件により変化するため、必ず試し植えを行って調節してください。



### ■ あげぎわクラッチレバー

- 2条ごとの植付を停止させるレバーです。
- 植終わりになる前工程で植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。

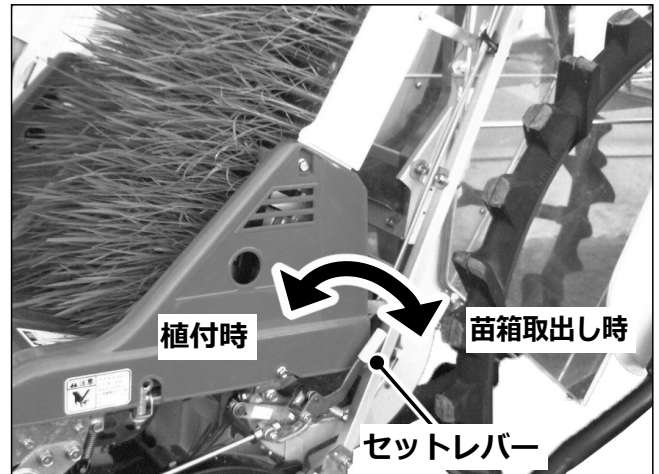


## ■セットレバー

- 後方に倒すと、植付中の苗箱を上方向に取り出せます。
- また1回だけ前後に動かすと、苗箱を1列ずつ送ることができます。

### ▲注意

苗箱の取り出しを行なう時は、必ずキースイッチを「切」にして行なってください。これを怠ると自動供給のモーターが作動して大変危険です。



### 重要

- 植付けをするときは、確実にセットレバーを前方に戻してから行なってください。
- セットレバーの操作は押し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。

## ■植付部固定フックレバー

- 移動時・点検整備時・保管時などに植付部が下降しないようフックをかけます。
- 田植作業時は植付部固定フックレバーを外します。

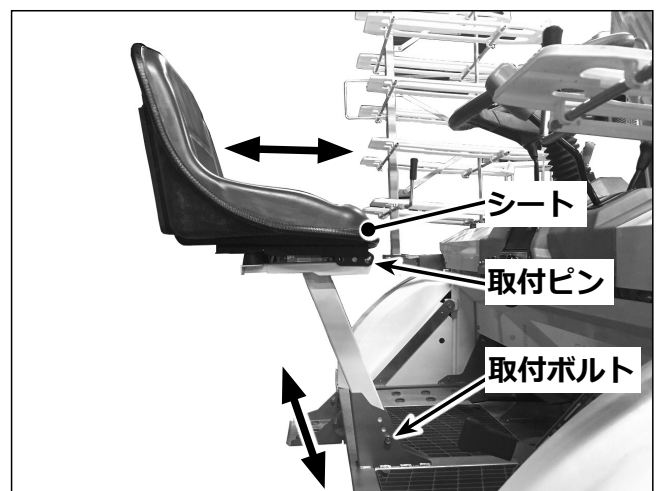
### 重要

- エンジンを停止するときは必ず植付部をフックで固定してください。これを怠ると機械が破損する恐れがあります。



## ■シート

- 作業しやすい前後位置になるように、シートの取付ピン位置を変更して調節してください。
- 作業しやすい高さ位置になるように、ステー元部のボルト位置を変更して調節してください。



# 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。  
作業前点検は毎日欠かさず行なってください。  
給油・注油および点検整備をするときは、次のことを守ってください。

## ⚠ 危険

くわエタバコなど火気厳禁。

## ⚠ 警告

- 植付部を植付部固定フックレバーで固定する。
- エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
- ヘルメット・安全靴・手袋など適正な防護具を着用する。

## ⚠ 注意

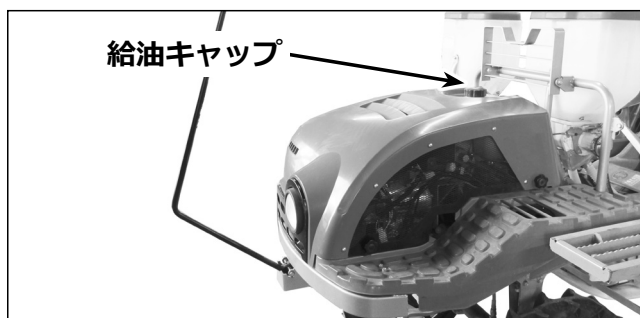
- 機械を明るく平坦な広い場所に置く。
- エンジンを停止し、駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックする。

## 給油・注油箇所の点検と補給

### ■ 燃料（無鉛ガソリン）の給油

○ 平坦な場所でエンジンを止め、燃料タンクの給油キャップを外して、必ずストレーナを通して無鉛ガソリンを給油してください。

燃料の種類	燃料タンクの容量
自動車用無鉛ガソリン	約 9.0L



## ⚠ 危険

- 燃料給油時には引火の恐れがありますので、火気を近付けしないでください。
- 燃料を補給するときは、エンジンを停止し、過熱部分が充分冷えてから行ってください。燃料のつぎこぼしなどにより火災の原因になり大変危険です。
- 燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。エンジンを始動するとき、引火し火災の原因となり大変危険です。
- ガソリンの保管は消防法で定められている金属製のガソリン専用容器を使用してください。

**重要**

- 燃料は自動車用無鉛ガソリンを必ず使用してください。また、下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。
  - 燃料タンク内に1ヶ月以上放置した燃料
  - 樹脂製タンクに長期間保管した燃料
  - ゴミや水など異物の混ざった燃料
  - 変色のひどい燃料
  - くさった古い燃料
- 1ヶ月エンジンを開始しないと、燃料は変質し、エンジントラブルの原因になります。
- 給油口のストレーナは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

**■エンジンオイルの点検**

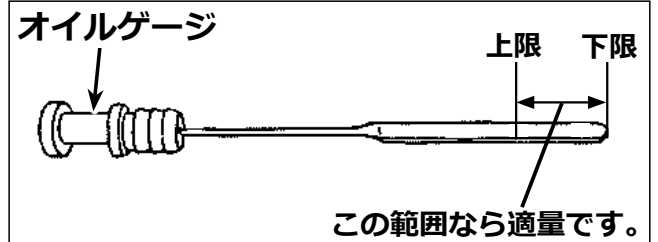
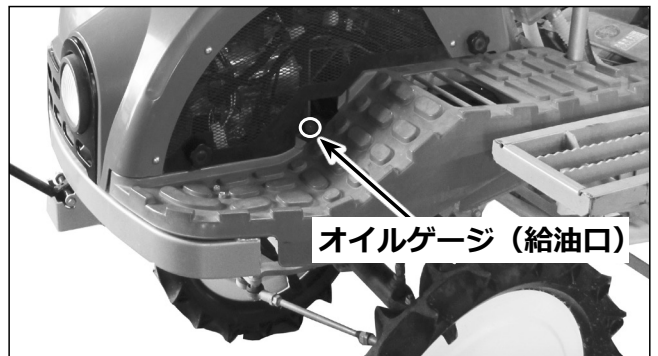
毎日作業前には機械を水平な所に置き、エンジンオイル量、汚れを点検してください。

**⚠ 注意**

エンジンオイルの点検・補給は必ずキースイッチを「切」にしてエンジンを停止し、充分冷えてから行なってください。これを怠ると、やけどをする恐れがあります。

**●点検と補給**

- (1) オイルゲージを外し、上限と下限の間に油量があることを点検します。
- (2) 下限以下の場合は、補給してください。オイルはAPI分類SE級以上のSAE30または10W-30のオイルを使用してください。



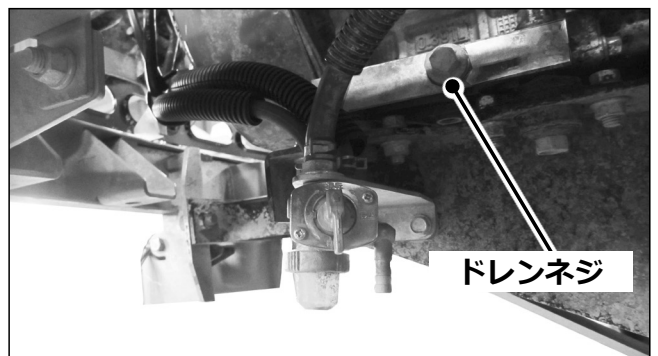
オイルの種類	オイル容量
SE 級以上 10W-30	約 1.0L

**重要**

「上限」以上、オイルを補給しないでください。

**●交換のしかた**

- (1) エンジンを暖気運転後、ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
- (2) ドレンネジを締め付け後、給油口から適量を給油してください。
- (3) オイルゲージの上限と下限の間に油量があるか調べます。適量入っていればオイルゲージを確実に押し込んでください。



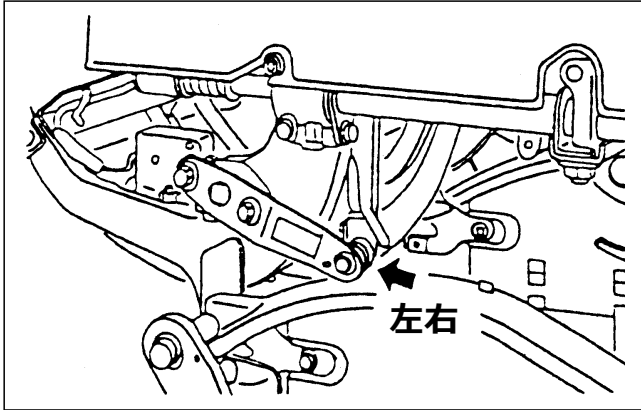
**重要**

- エンジンオイル補給後は、エンジンを始動させた後、いったんエンジンを停止させてオイルがオイルゲージの上限と下限の範囲内にあることを確認してください。

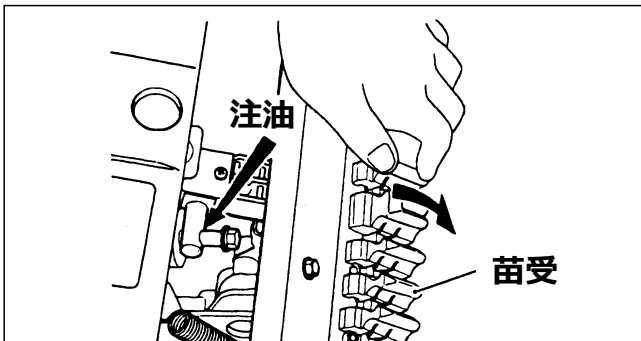
## ■注油箇所

(1) 次の箇所は毎日注油してください。

①縦送り爪下 (6ヶ所)



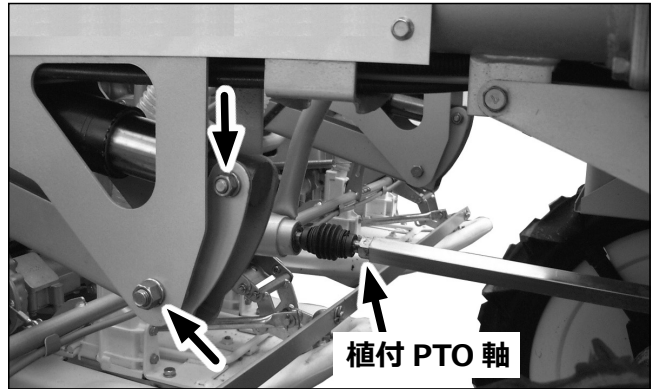
②上下送りバネ軸 (2ヶ所)



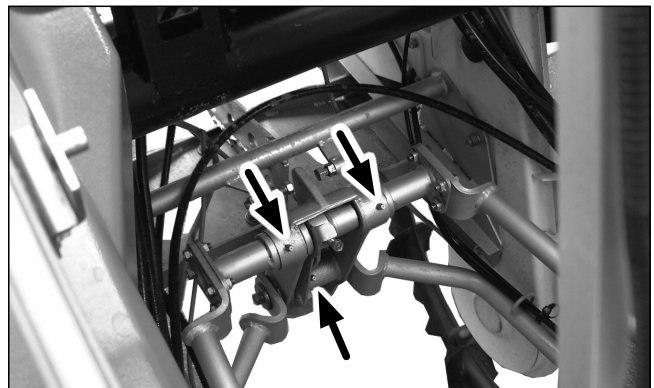
苗受を上げた状態にして、手で苗受を下方方向に押えて注油してください。

(2) 次の箇所はシーズン毎に注油してください。

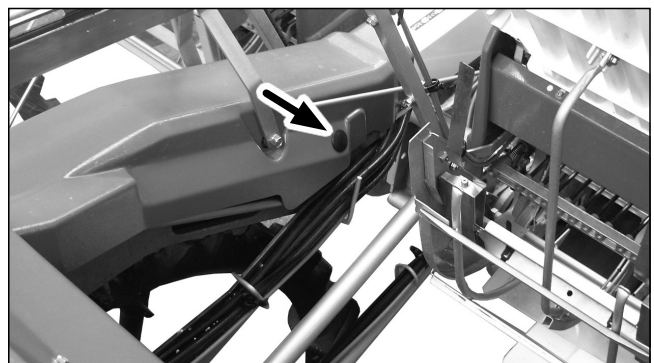
- ①シリンダーピン (4ヶ所)
- ②植付 P T O 軸 (グリス1ヶ所)



③スイングアームの支点 (グリス3カ所)  
(グリスニップルから注油)

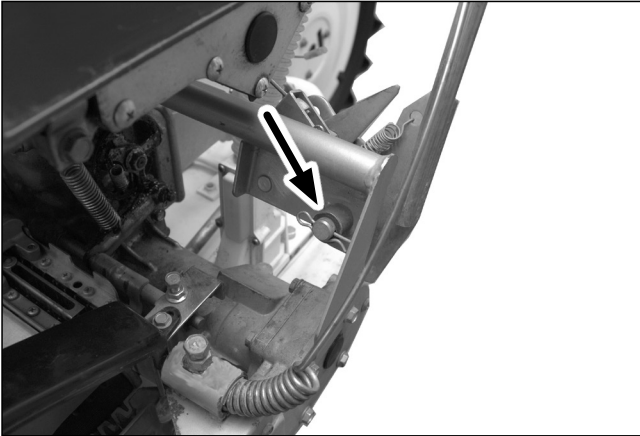


④V Sシフターロッド (グリス1ヶ所)

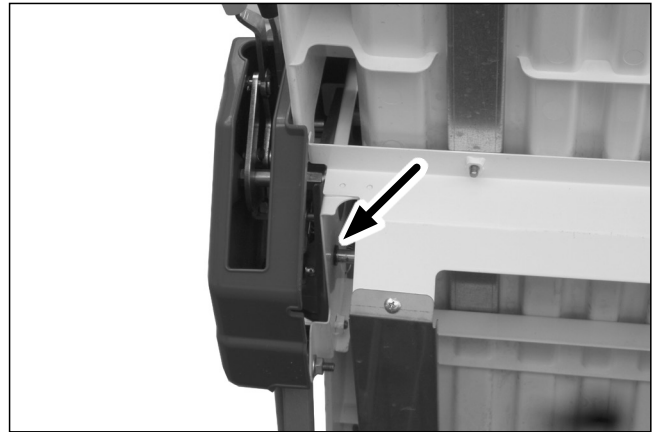


## 作業前点検

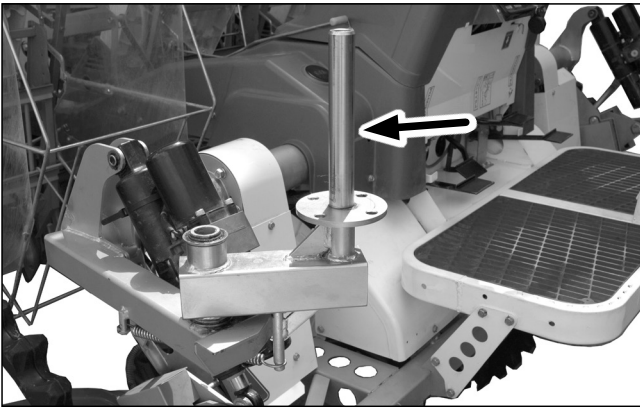
⑤筋付マーカ支点 (2ヶ所)



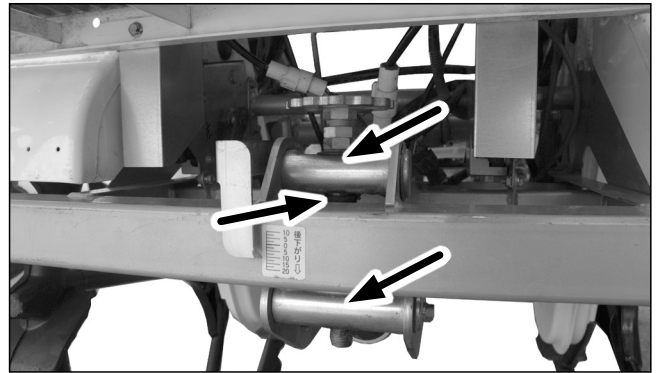
⑨自動供給モーター軸受 (3ヶ所)



⑥予備苗台支点 (グリス2ヶ所)

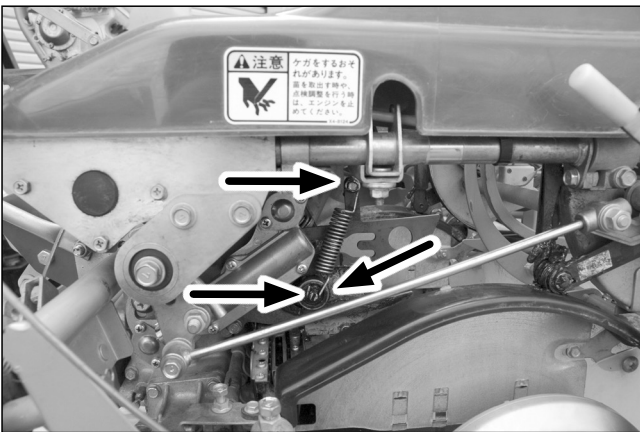


⑩ピッチングハンドル支点部 (3ヶ所)

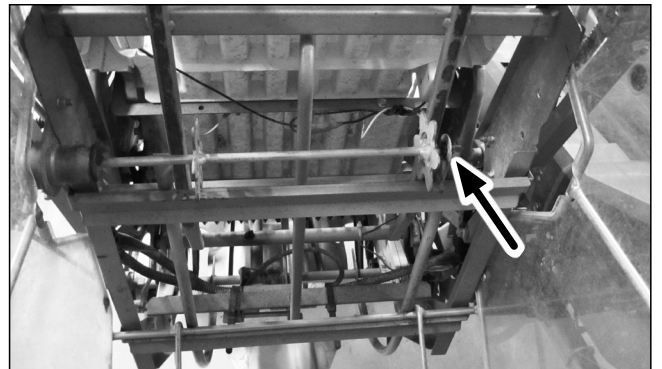


⑦苗受ローラーの外周 (グリス3ヶ所)

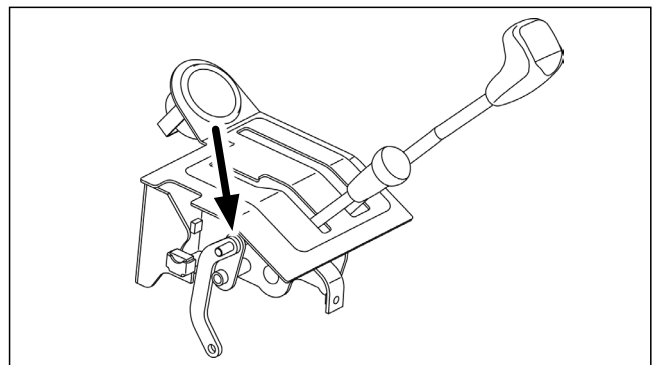
⑧苗受けローラーバネの両端 (グリス6ヶ所)



⑪空箱送り軸受部 (3ヶ所)



⑫植付レバー座軸 (1ヶ所)



## ペダル・レバーの点検

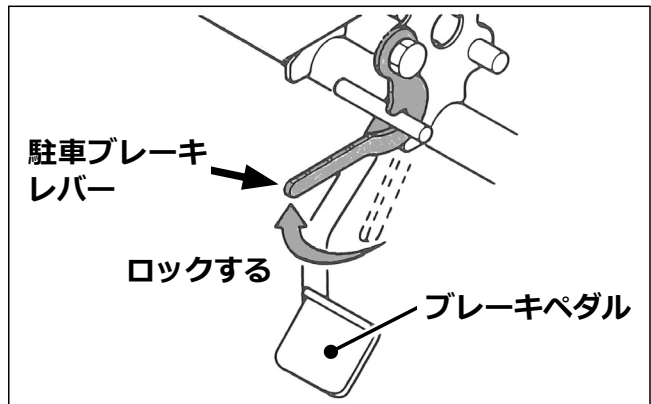
異常がある場合は、販売店に調整を依頼してください。

### ■ブレーキペダルの点検

- (1)ブレーキペダルを 147 ~ 196N (15 ~ 20kgf) で押さえた時、駐車ブレーキレバーでロックできるか点検してください。

#### 重要

- ブレーキペダルを駐車ブレーキレバーでロックした時、本機が動かないことを確認してください。

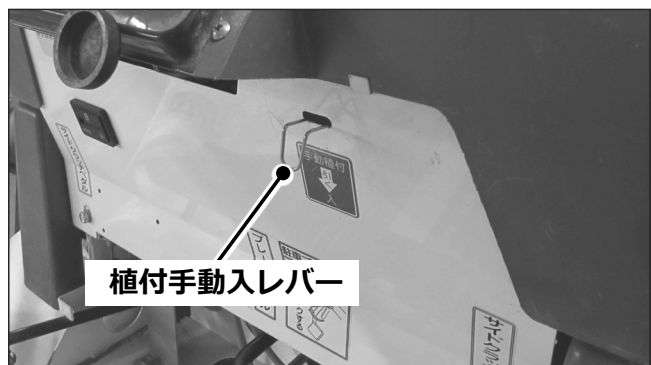
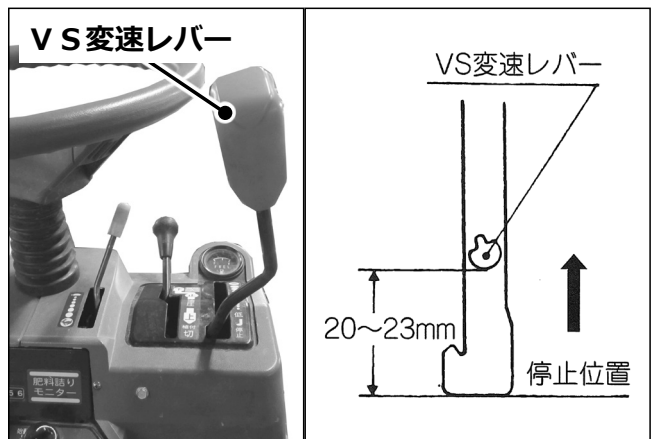


### ■V S 変速レバーの点検

#### 警告

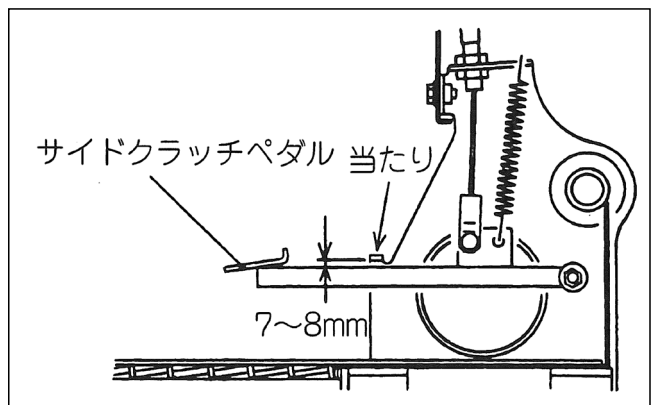
V S 変速レバーの点検を怠ると、本機が停止できず、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

- (1)エンジンを始動します。
- (2)植付部を植付部固定フックレバーで固定します。
- (3)主変速レバーを「PTO」にします。
- (4)植付手動入レバを引いて「入」にします。
- (5)V S 変速レバーを前方に操作しレバーガイドから 20 ~ 23mm の範囲で植付部が動き始めるか確認します。
- (6)V S 変速レバーを「停止」位置まで操作し、植付部が停止することを確認します。



### ■サイドクラッチペダルの点検

サイドクラッチペダルを軽く手で押さえた時、ペダルと当たりのスキマが 7 ~ 8 mm になっているか確認します。



# 運転のしかた

## ⚠ 警告

- 始動する前に安全カバー類が取り付けられていることを確認してください。
- 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を充分に行なってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起し大変危険です。
- エンジンを始動するときは、周囲の人に声をかけ、合図してください。
- 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて、安全靴・保護メガネ・手袋などを着用してください。

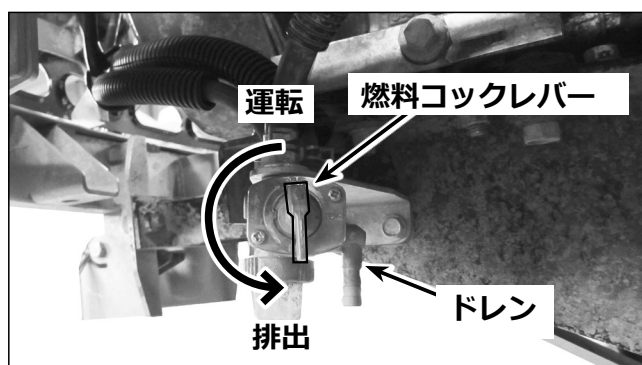
## ⚠ 注意

- エンジンを始動するときは、各レバー類の位置と周囲の安全を確認してから行なってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。

## エンジンの始動と停止のしかた

### ■ エンジンの始動

- (1) 燃料コックレバーを「運転」の位置にします。
- (2) ブレーキペダルがロックされていることを確認します。(25 ページ参照)
- (3) 主変速レバーを「中立」、V S 変速レバーを「停止」にします。



### 重要

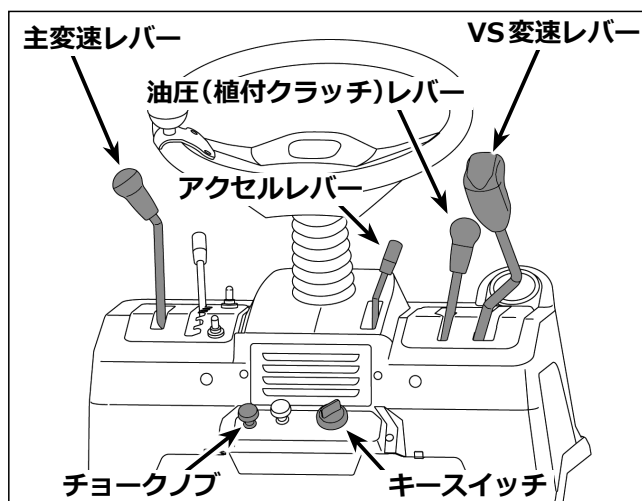
- V S 変速レバーを「停止」にししないとエンジンは始動しません。

- (4) 油圧（植付クラッチ）レバーを「止」にします。
- (5) アクセルレバーを中速程度にします。
- (6) チョークノブを引きます。

### 重要

- エンジンが冷えている場合に始動するときはアクセルレバーを中速程度にし、チョークノブをいっぱい引いてください。

- (7) キースイッチを「始動」に回します。
- (8) エンジンが始動したら、ただちにスイッチキーから手を離し、エンジンの調子を確認しながらゆっくりとチョークノブを押し込んだ後、約5分間は負荷をかけずに暖気運転を行なってください。



**重要**

- キースイッチを「始動」に回して5秒たっても始動しないときは、いったんキースイッチを「切」にして10秒ほど休止してからエンジンを再始動してください。5秒以上の使用は故障の原因になります。
- エンジンが始動しているのにキースイッチを回し続けたり、エンジン回転中にキースイッチを「始動」にしないでください。故障の原因になります。
- オイルを各部に充分ゆきわたらせるため、必ず暖気運転は行なってください。始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損などの故障の原因になります。
- 燃料キャップのエアー抜きがつまっていると始動不良になりますので、清掃してください。
- バッテリーの電圧が下がってエンジン始動ができない場合に、バッテリーを機械から取り外しブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると、電装品が破損するので絶対にしないでください。
- エンジン高温時にエンジンを始動するとパンと音が鳴ることがありますが、機械使用上問題ありません。

**■ならし運転について**

- (1)新車時の上手な運転操作やメンテナンスが機械の寿命に影響を及ぼします。新車の機械は厳重な検査のもとに出荷されていますが、機械の各部の部品はならし運転されていません。各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、作業は過負荷にならないよう注意して行なってください。
- (2)毎年使用前には、必ず5～10分程度エンジンを最低回転でならし運転をしてから使用してください。

**■エンジンの停止**

- (1)VS変速レバーを「停止」にします。
- (2)アクセルレバーを前方に押して、エンジン回転数を下げます。
- (3)キースイッチを「切」にしてエンジンを停止します。



**重要**

- エンジンを停止するときは、植付部をいったん上げた後、植付部固定フックレバーを「かける」にして、植付部を下げて固定してください。これを怠ると機械が損傷する恐れがあります。
- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- エンジン高温時にエンジンを切るとアフターバーン（パンと音が鳴る）が発生することがありますが、機械使用上問題ありません。エンジンを約1分間程度最低回転で運転した後にエンジンを切るにより、アフターバーンは発生しにくくなります。
- エンジン停止中に、キースイッチ「入」の状態でも長時間放置するとバッテリーあがりの原因となります。
- キースイッチのキーを外したときは、必ずゴムキャップをかぶせてください。（特に水洗い、保管時）

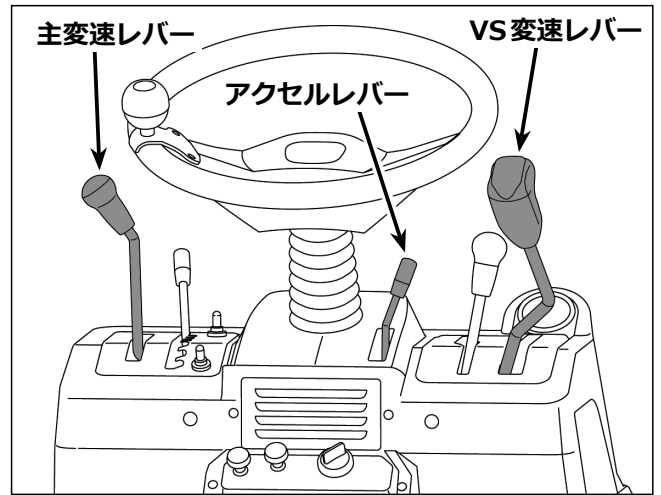
## 発進・停止・駐車のしかた

### ■発進のしかた

#### ⚠ 注意

- 始動操作は、必ず運転席で行なってください。
- 急発進は危険ですので周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進してください。

- (1) V S 変速レバーが「停止」になっていることを確認します。
- (2) エンジンを始動します。(32 ページ参照)  
低温始動時には、十分に暖気運転を行なってください。充分でないと、発進時にエンストする場合があります。
- (3) 走行場所に合わせて主変速レバーをセットします。
- (4) アクセルレバーを中速程度にセットします。
- (5) ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。
- (6) V S 変速レバーをゆっくり前方へ操作し発進します。



#### 重要

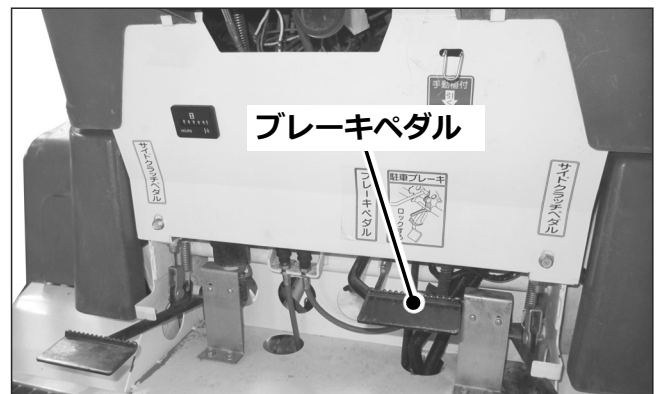
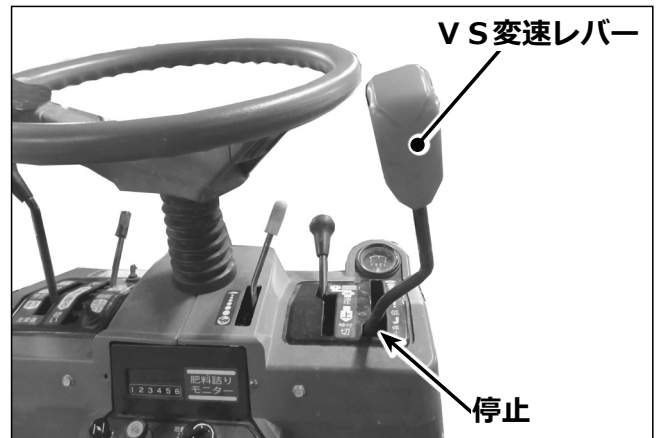
- 主変速レバーの切替えは平坦な場所で V S 変速レバーを「停止」にし、走行をいったん止めてから行ってください。これを怠ると故障の原因となります。

### ■停止のしかた

#### ⚠ 警告

- 急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。

- (1) 田植作業・移動とも、通常の停車時は V S 変速レバーを「停止」にします。
- (2) 急停車する場合は、V S 変速レバーを「停止」にするとともに、ブレーキペダルを踏み込んでください。

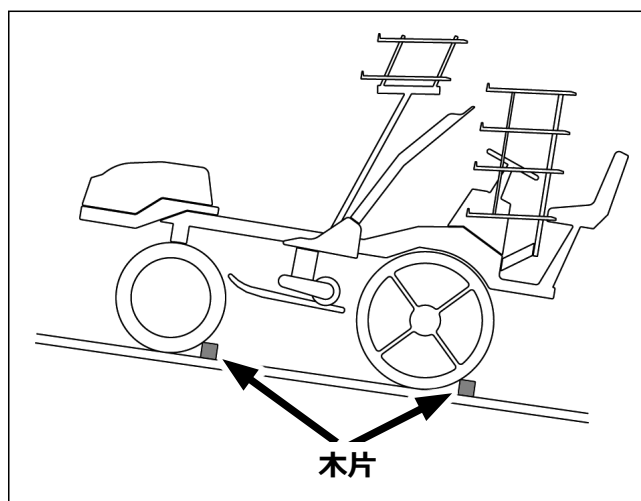
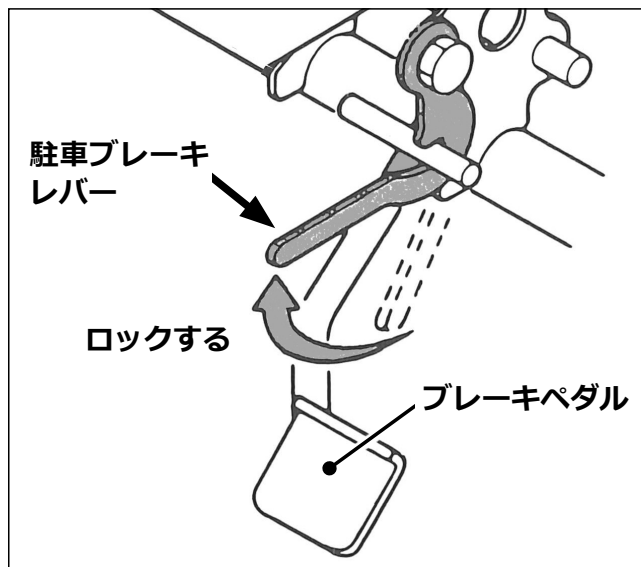


## ■ 駐車のしかた

### ▲ 注意

- 機械を離れるときは、平たんで安全な場所におき、植付部を植付部固定フックで固定し、駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックし、エンジンを止めてください。
- 坂道で駐車するときは、駐車ブレーキレバーでロックし、木片などで車輪止めをし、暴走を防いでください。

- (1) V S 変速レバーを「停止」にします。
- (2) 植付部を植付固定フックレバーで固定します。
- (3) エンジンを停止します。
- (4) 主変速レバーを「中立」にします。
- (5) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキレバーでロックします。



## 移動・運搬のしかた

### ■移動のしかた

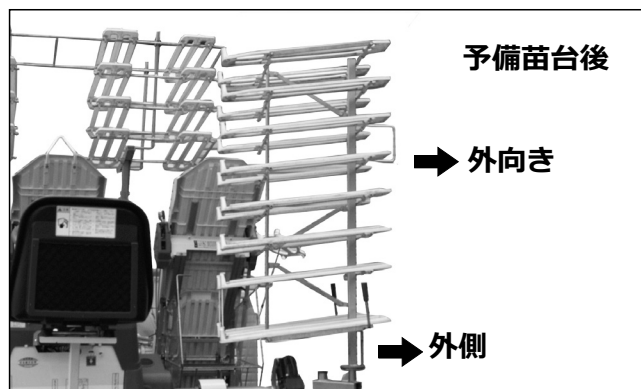
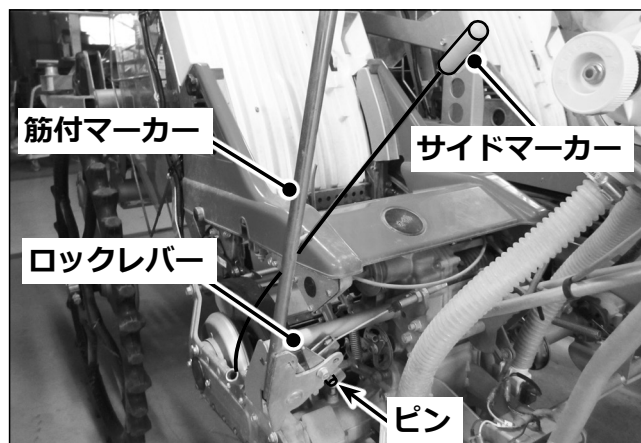
#### ⚠ 警告

移動するときは運転者以外は絶対に人を乗せないでください。

#### ⚠ 注意

移動するときはエンジン回転を落とし、V S変速レバーもなるべく低速で行ってください。特に凹凸の激しい場所・地面の軟弱な場所・傾斜地などでは慎重に移動してください。これを怠ると、転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) 外車輪が下降位置で外車輪作動スイッチが「切」になっていることを確認します。(21ページ参照)
- (2) 左右の筋付マーカをロックレバーで固定します。
- (3) サイドマーカを左右とも収納します。
- (4) 予備苗台後を左右とも外側外向きにします。(47ページ参照)
- (5) 油圧(植付クラッチ)レバーを「上」にして植付部をいっぱい上げ植付部固定フックをかけます。(26ページ参照)
- (6) 側条施肥機付きの場合は必ずホッパー内の肥料を抜き取ります。また、水洗装置付の場合は必ずタンク内の水を抜き取ります。
- (7) 油圧(植付クラッチ)レバーを「下」にして左右のフックが確実にかかっていることを確認します。
- (8) 移動場所に合わせて主変速レバーで速度を選びます。
- (9) 駐車ブレーキレバーのロックが外れていることを確認してから、V S変速レバーをゆっくり操作して発進します。特に側条施肥機付の場合は低速走行してください。



#### 重要

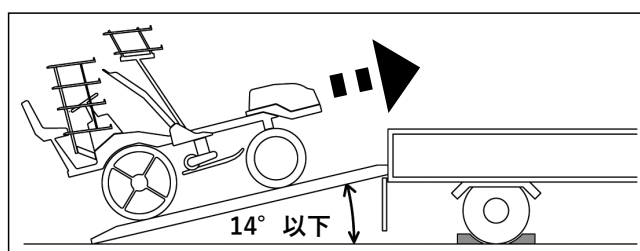
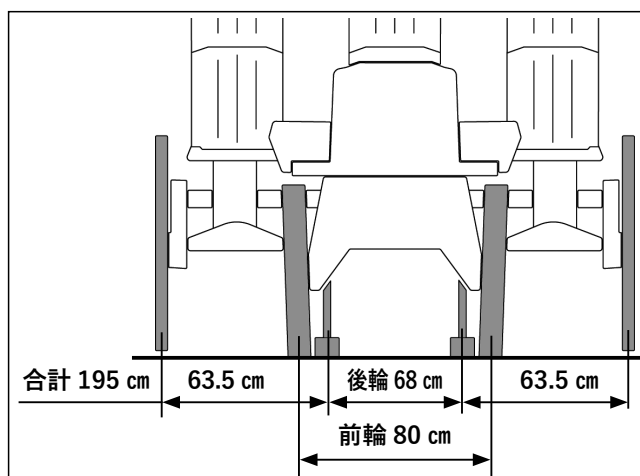
- 植付部を下降した状態で走行すると、植付部が破損する恐れがあります。
- この機械は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、移動するときはトラックなどで輸送してください。

## ■トラックへの積み降ろし

### ⚠ 警告

- 積み降ろしは平坦な場所を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかりとかけ、車輪止めをしてください。
- アユミ板はフックが付いているもので、十分な強度、幅、長さのある、基準にあったすべり止め付きのものを使用し、機械の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- アユミ板を荷台にかけるときは、段差がなく平行で、左右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。
- 積み込みは前進、低速で行なってください。
- 積み・降ろし作業は誘導者を付けて、周囲の安全を充分確認して行ってください。また、誘導者は機械に近付き過ぎないでください。
- アユミ板の途中で急なハンドルの操作や主変速レバーの操作をすると機械が落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。
- 積み・降ろし中は、サイドクラッチペダルを踏み込んだりしてはいけません。
- 荷台上では駐車ブレーキをかけ、車輪止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。以上の確認・注意を怠ると、死亡または重症を負う危険性があります。

- (1) 万一に備えて本機の周辺には人を近づけないでください。
- (2) 外車輪作動スイッチが「切」になっていることを確認します。(21 ページ参照)
- (3) 左右の筋付マーカー、サイドマーカーを収納します。
- (4) 左右の予備苗台を取り外します。
- (5) 油圧(植付クラッチ)レバーを「上」にして植付部をいっぱい上げ、植付部固定フックレバーで固定します。(26 ページ参照)
- (6) 油圧(植付クラッチ)レバーを「下」にして左右のフックが確実にかかっていることを確認します。
- (7) 主変速レバーはトラックに積み込むときは「作業」、降ろすときは「後進」にセットします。
- (8) アクセルレバーを中速程度にセットします。
- (9) 直進性を見定めて、V S 変速レバーを「低」でゆっくり積み・降ろしします。
- (10) 積み・降ろしの途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、徐々にブレーキをゆるめて一度道路まで降り、あらためてエンジンを始動してください。



#### <アユミ板の基準>

- 長さ：車の荷台の高さの4倍以上
- 幅：30cm以上
- 数量：2枚
- 強度：1枚の強度が900kg以上の質量に耐えうるもの
- すべり止めのあるもの
- フックのついたもの

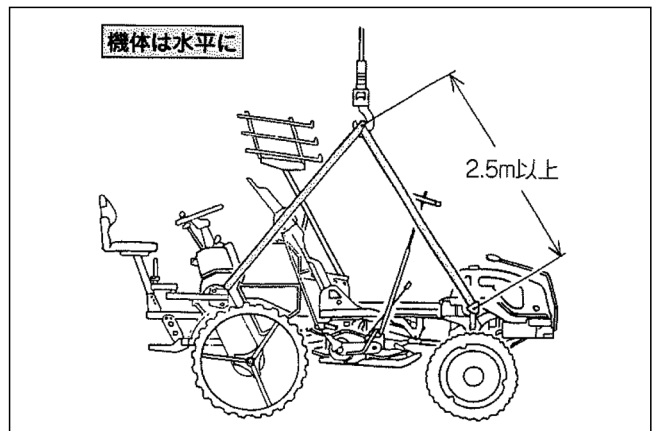
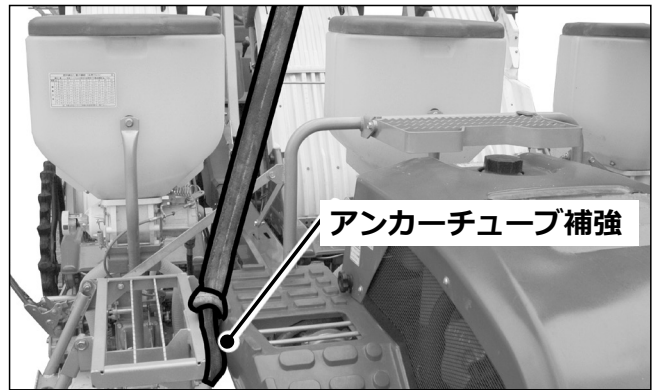
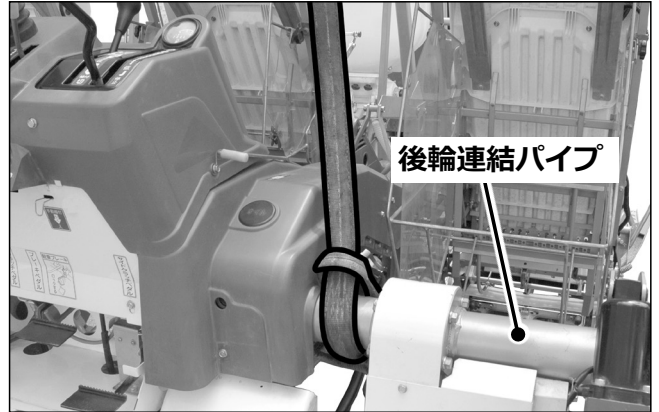
## ■ 本機の吊り上げかた

### ⚠ 警告

- 吊り上げ作業を行なう時は、エンジンを停止し左右の予備苗台後を取り外してから行ってください。
  - 吊り上げ作業中は、機械の上下及び周辺に人を近づけないでください。
- 以上の確認・注意を怠ると、思わぬ傷害事故の原因となり大変危険です。

- (1) エンジンを停止し、左右の予備苗台後を取り外します。
- (2) 機体後部は後輪連結パイプの内側に、機体前部はアンカーチューブ補強の角パイプにそれぞれしっかりとベルトを固定します。
- (3) ベルトの長さは固定部から集合部までの長さをできるだけ長く（2.5m 以上）とり、機体に無理な力が加わらないように、また機体が水平になるようにベルト長さを調節し、吊り上げてください。

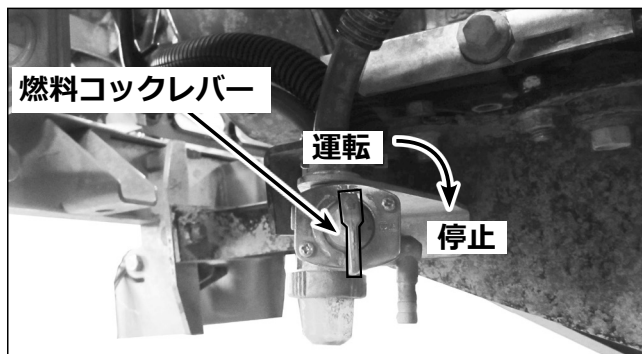
- ベルトの強度は1本が900 kg以上の質量に耐えられるものを使用してください。



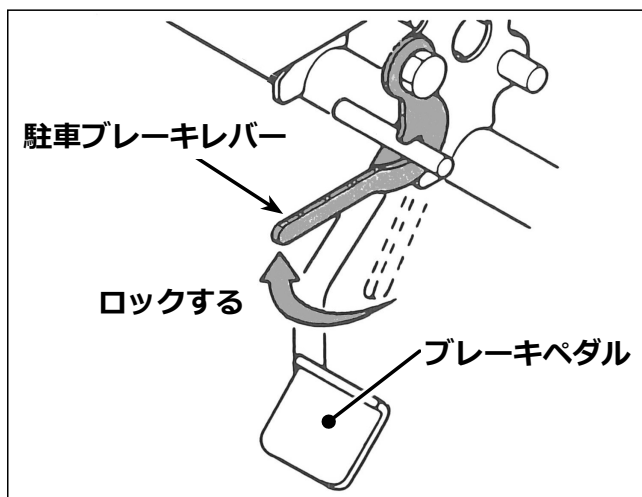
■ 運搬中の固定のしかた

**危険**

- 燃料コックレバーを「停止」にしないと、トラック輸送時に燃料もれの原因になり危険です。必ず「停止」にしてください。



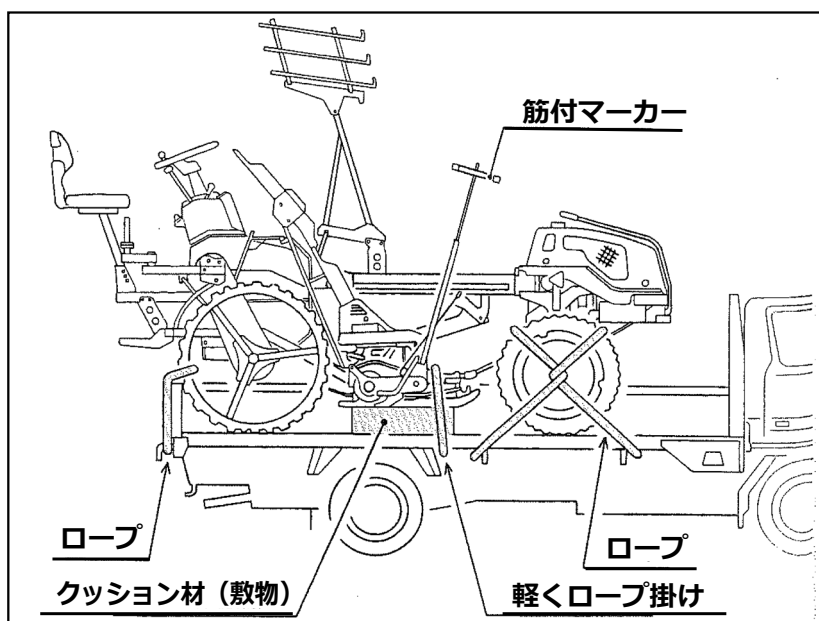
- (1) エンジンを止め、燃料コックレバーを「停止」にします。
- (2) 後輪を車の後部に引き付けて、ロープで固定します。
- (3) 前輪をロープで固定します。
- (4) フロートの下に敷物を置いて植付部を下ろし、植付部が跳ね上がらない程度にロープ掛けします。
- (5) 筋付けマーカ、サイドマーカを左右ともひも等で固定します。
- (6) 主変速レバーを「中立」にします。
- (7) ブレーキペダルを踏み込み駐車ブレーキレバーでロックします。



**重要**

- 悪路はゆっくりと運搬してください。
- 植付部は強い力でロープ掛けしないでください。
- 側条施肥機付の場合、必ずホッパー内の肥料を抜いてください。守らないと肥料がホッパー内で固まり施肥ムラになったり、駆動ワイヤーが欠損したりする恐れがあります。
- また、水洗装置付の場合は必ずタンク内の水を抜き取ります。

- 荷台の長さ方向のはみ出しは自動車長さの 1 / 10 以下にしてください。その他、道路交通法を順守してください。



## ほ場への出入りのしかた

### ⚠ 警告

- ほ場への出入り際には、予備苗台および苗のせ台には苗をのせないでください。また機械に荷物を積まないでください。
- 外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。思わぬ事故やケガの原因になります。

### ⚠ 注意

- ほ場との高低差が大きい場合は、アユミ板を使用してください。

### ■ほ場への入りかた

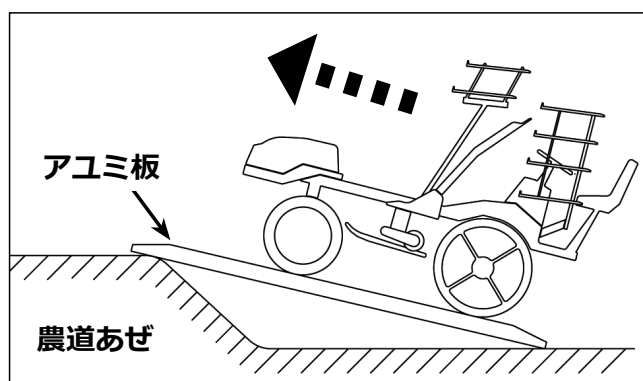
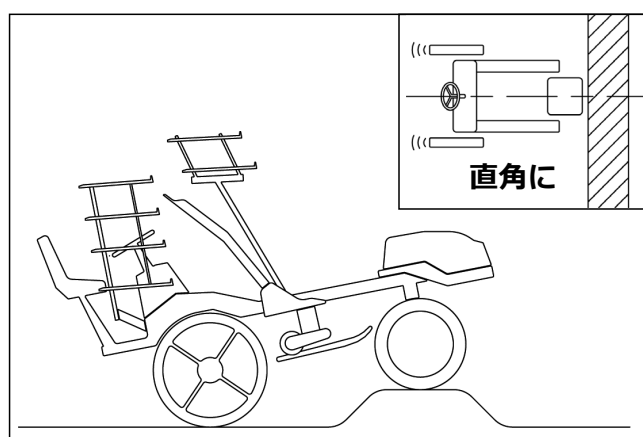
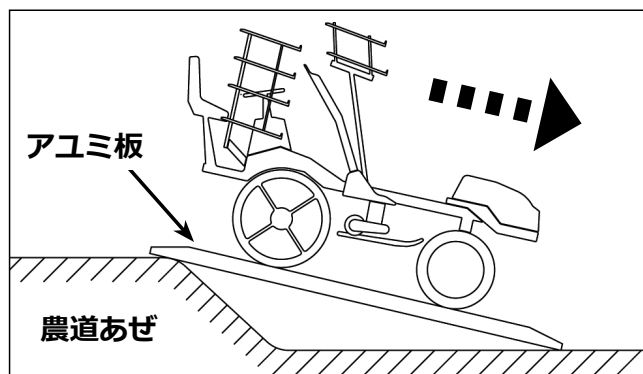
### ⚠ 警告

- ほ場への出入りや畦越えをする場合には、アクセルレバー・V S変速レバーを低速にして、必ず畦に直角にゆっくり進んでください。
- 斜めになるとスリップや横転の原因となり大変危険です。

- (1) 植付部を植付部固定フックレバーで固定して行ないます。(26ページ参照)
- (2) 主変速レバーを「作業」にし、V S変速レバーをゆっくり操作して、前進でゆっくりとほ場に入ってください。

### ■ほ場からの出かた

- (1) 植付部を植付部固定フックレバーで固定して行ないます。(26ページ参照)
- (2) 主変速レバーを「作業」にし、V S変速レバーをゆっくり操作して、前進でゆっくりとほ場から出てください。



# 作業のしかた

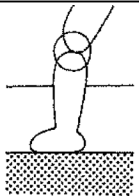
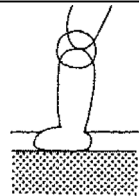

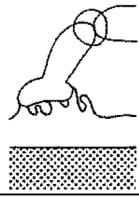
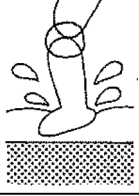
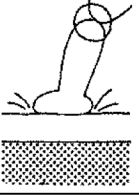
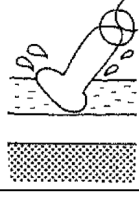
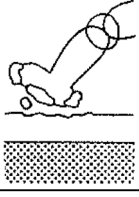

本機が使用できる耕盤の深さは40 cmまでです。

泥炭地・基盤整備ほ場等で本機が沈むような耕盤の不安定な悪条件のほ場では使用できなかつたり、本機の早期破損の原因となります。また、本機の特性を良く知って、それにできるだけ合わせた苗およびほ場の準備をしていただくことが大切です。

## ほ場と苗の準備

本機が使用できる耕盤の深さは40 cmまでですが、ほ場の条件、苗の条件が良くなければ植付け作業が行えないことがあります。

次のような条件が予想される場合は事前に販売店にご相談ください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）			
深さ		①耕盤までの深さが30 cm以上ある深いほ場		②耕盤までの深さが10 cm以下の浅いほ場
土質		①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほど硬いほ場）		②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）
硬さ		①代かき直後のほ場、または代かき後いく日たっても固まらないトトロ口の軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）		②代かき後、日数がたって硬くなったほ場、又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）
水深		①水深の平均が3 cmを超える水の多いほ場。		②水気がなく、車輪に泥がまとわりつくようなほ場
夾雑物		①裏作後などで、刈り株・排わら又は雑草が充分腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場		

## ■ほ場の準備

ほ場づくりは、植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄りの指導機関（JA〔農協〕や普及センターなど）や経験者に相談して、適したほ場づくりをおこなってください。

## ■ 苗の準備

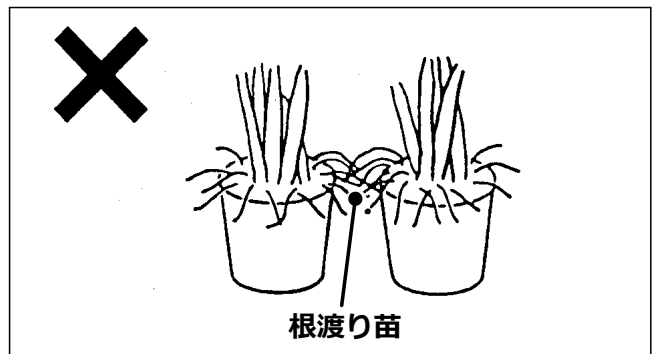
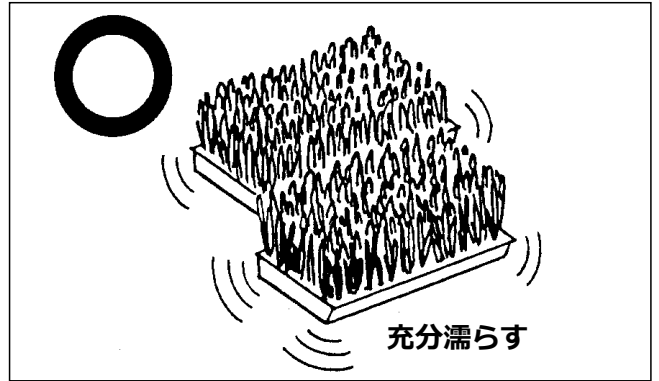
### 重要

- 苗は使用する前に必ず、ポットの中に水が充分浸透するまで濡らして植付けをします。特に根張りのよい苗は、充分つけておきます。濡らしかたが不足すると、苗の押出し不良・ロック板の作動不良・縦送り・横送り不良となります。

濡らして使用する場合は絶対条件ですが、非常に根張りの悪い場合や、ポットがくずれ易い土を使用している場合は、濡らしかたに注意してください。

- 特に次のような苗では、田植機による植付けができない場合があります。

○ 根渡り苗は植付けできないことがあります。

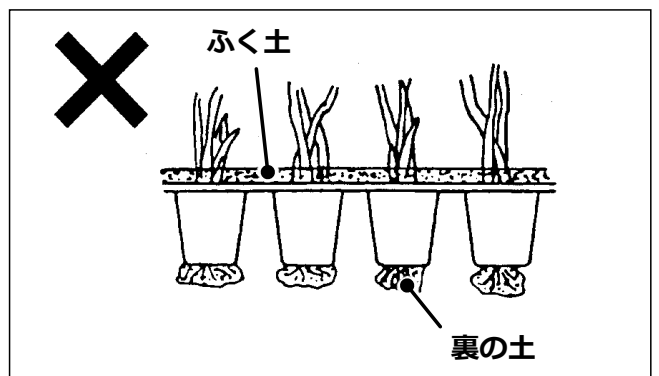


○ 土は適度な弾力とねばりのある培土を使用して下さい。砂質土・火山灰土を使用しますとポットがくずれやすく、植付不調となります。培土に関しては、購入先にご相談ください。



### 重要

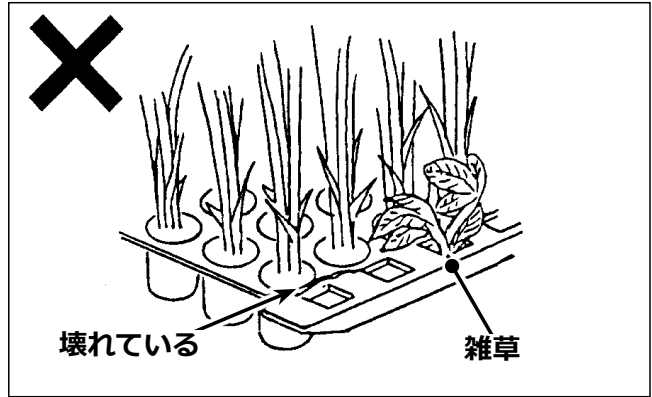
- 苗箱の上面に余分なふく土をかけないようにまた、必ず根切りネットを使用して育苗してください。余分なふく土や裏の土は洗い流してから使用してください。守らないと苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。



**重要**

- 箱のふちや角穴が壊れている苗箱は使わないでください。また、苗箱の角穴が土や雑草でふさがっている場合は取り除いてください。これらを怠ると苗が植付部へ送り込まれなかったり、空箱ガイドで空箱がつまって、苗箱が破損したり、連続欠株となる場合があります。

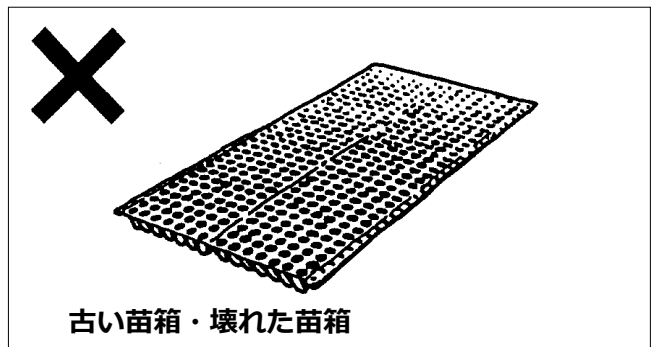
○ 苗取り・運搬・苗の補給時などには特に苗箱の角や耳部を破損させないように、取り扱いには充分注意して行ってください。



**重要**

- 10年以上経過した古い苗箱や、新しくても保管状態の良くない苗箱は材質がもろくなっています。苗供給時・苗箱送り時に破損して苗箱の送りができなくなり連続欠株の原因となります。古い苗箱は、計画的に新しい苗箱に更新するようにしてください。

○ 育苗のとき、苗箱のふちを変形させないように注意してください。ふちが変形してしまった苗箱は破損していても、使わないでください。苗箱送りが確実にできず、連続欠株の原因になります。



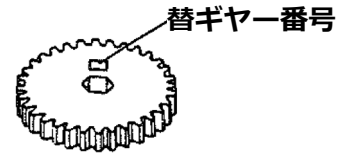
## 植付作業前の準備

### ■ 植付株間の決めかた

替ギヤの交換と切替レバーの位置により植付株間が変更できます。■印が標準付属品で調節できる株間を示し、その他の株間は注文部品（86 ページ参照）が必要となります。

#### ● R X E 6 1 型の場合 [ 標準仕様 ]

出荷時株間



株間 (cm)	12.4	13.2	14.1	13.0	13.8	14.7	14.5	15.5	16.5	15.7	16.8	17.9	20.7	21.9	23.4	24.9	26.5	28.2	
植付株数 (株 / 3.3 m <sup>2</sup> )	83	77	72	77	72	67	72	67	63	63	59	56	48	45	44	40	38	36	
苗箱数 (10a 当たり)	56	52	48	52	48	45	48	45	42	42	40	38	32	31	30	27	26	24	
替ギヤ番号	後	3			3			12			11			5			4		
	前	10			1			11			12			6			8		
切替レバー	前	●			●			●			●			●			●		
	中		●			●			●			●			●			●	
	後			●			●			●			●			●			●

替ギヤ 11、12 は本機に装着。替ギヤ 5、6 は工具袋に入っています。

#### ● R X E H 6 1 型の場合 [ H仕様 ]

出荷時株間

株間 (cm)	12.4	13.2	14.1	13.0	13.8	14.7	14.5	15.5	16.5	15.7	16.8	17.9	20.7	21.9	23.4	24.9	26.5	28.2	
植付株数 (株 / 3.3 m <sup>2</sup> )	83	77	72	77	72	67	72	67	63	63	59	56	48	45	44	40	38	36	
苗箱数 (10a 当たり)	56	52	48	52	48	45	48	45	42	42	40	38	32	31	30	27	26	24	
替ギヤ番号	後	3			3			12			11			5			4		
	前	10			1			11			12			6			8		
切替レバー	前	●			●			●			●			●			●		
	中		●			●			●			●			●			●	
	後			●			●			●			●			●			●

替ギヤ 1、3 は本機に装着。替ギヤ 11、12 は工具袋に入っています。

### 重要

- 表中の株間は、標準車輪での一般的なスリップを想定して算出しています。ほ場条件（土質、深さ、水の有無）および植付速度によりスリップ率は変化しますので、植付作業を開始して希望の株間になっているか確認してから連続作業してください。
- 表中の苗箱数は、ほ場の条件によっていくぶん異なりますので、10a 当たり 2 ～ 3 枚程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 株間 12 cm で使用する時は V S 変速を中速以下で使用してください。守らないと機械が破損する原因となります。また苗箱の送り不良で連続欠株となる恐れがあります。

## ■ 替ギヤの交換・株間切替レバーの切り替えかた

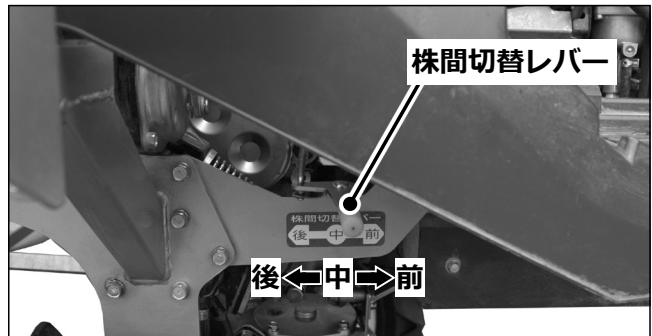
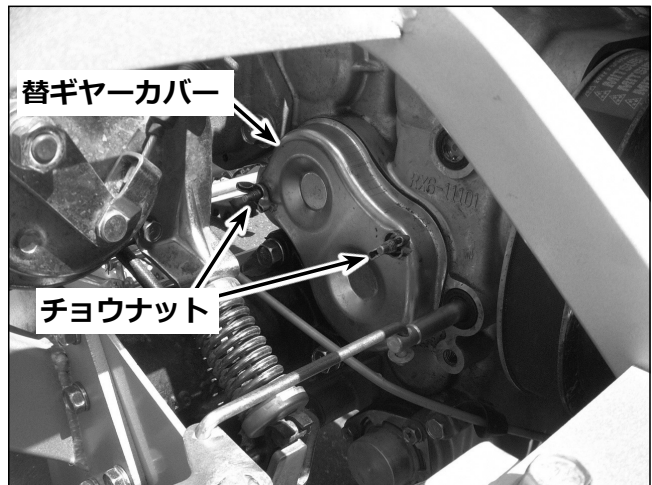
### ⚠ 警告

替ギヤの交換・株間切替レバーの切り替えをするときは、エンジンを止め、冷機状態で行ってください。これを怠ると傷害事故の原因になります。

- (1)主変速レバーを「中立」にします。
- (2)チョウナットを取り、替ギヤカバーを外し、希望の植付株間のギヤを取り付けます。
- (3)替ギヤにグリスを塗り、替ギヤカバーをしっかりと取り付けます。
- (4)株間切替レバーを操作し、希望の植付株間になるようにします。

### 重要

- 株間切替レバーが確実に切り替わっておらず、中間位置になった時は、前進はしますが植付部は動きません。
- 株間切替レバーが切り替わりにくいときは、エンジンを始動させた後、主変速レバーを「PTO」にして、いったんV S変速レバーを「前進」側に操作し、再度「停止」に戻してからエンジンを停止し、株間切替レバーを操作してください。



## ■ 植付深さの調節のしかた

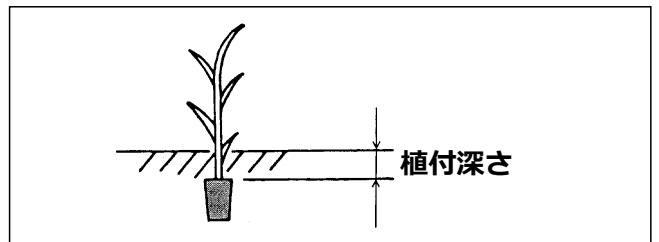
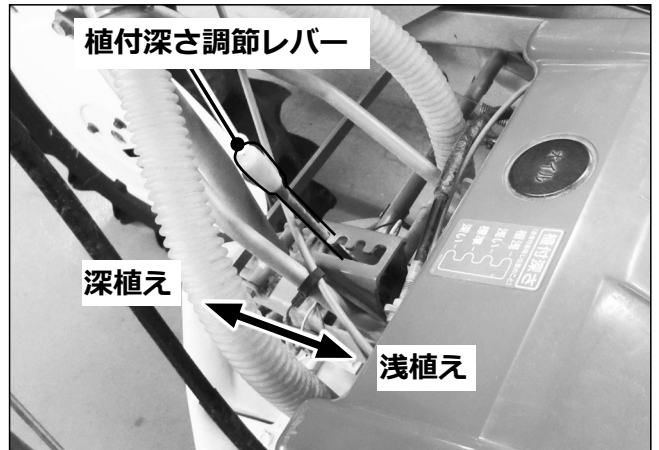
植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは4段階に選べます。

### ⚠ 注意

植付深さの調節はエンジンを停止して行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

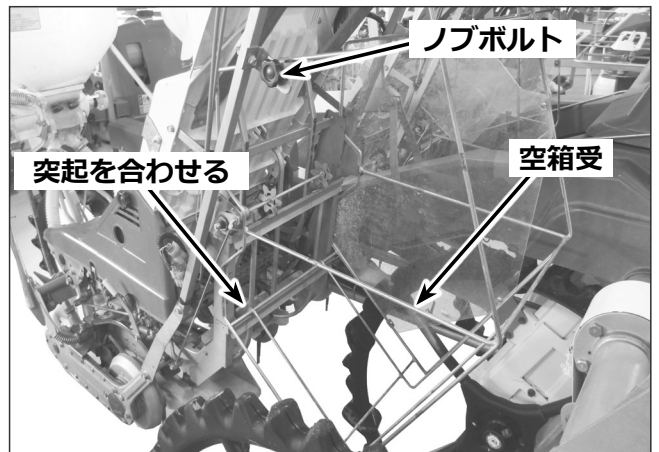
### 重要

- 調節する時は、植付部を表土から浮かして行なってください。
- 植付深さは必ず3ヶ所とも同じ位置にセットしてください。守らなかった場合は自動植付・自動油圧が正常に作動しません。
- 植付深さは必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- 浅植えになるほど、良いほ場条件が必要です。特に「極浅」は表土がトロトロの所や水深3cm以上の所では、浮き苗・ころび苗になり使用できません。



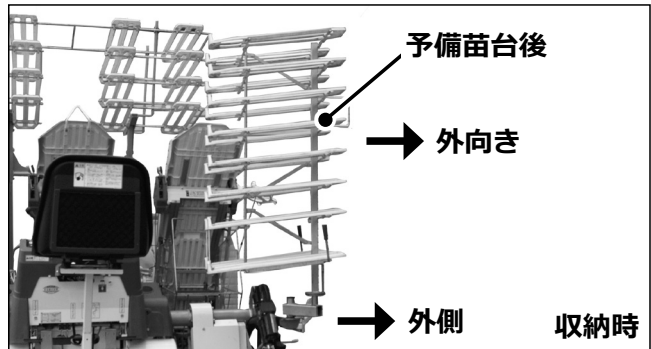
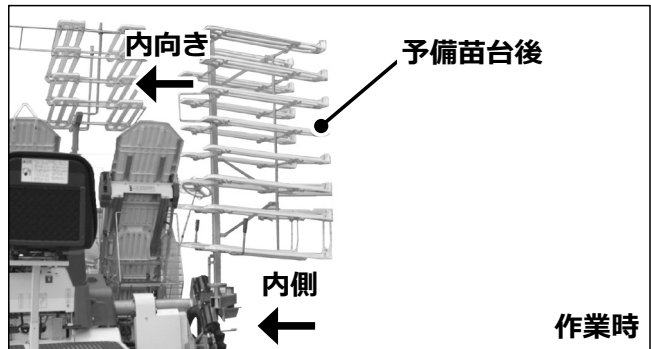
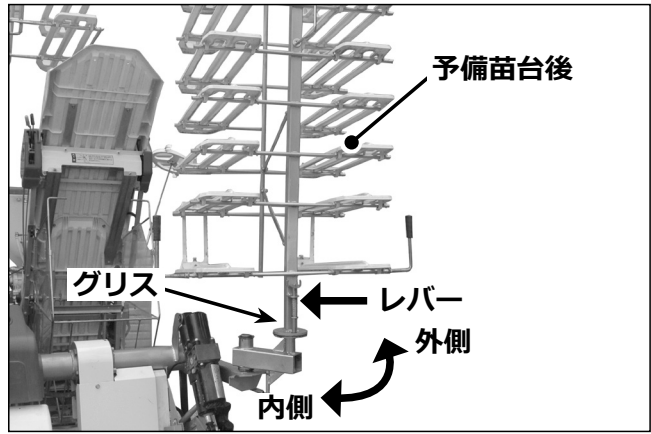
## ■ 空箱入れの取り付け

空箱ガイドに空箱受下側の突起を合わせて差し込み、上側のノブボルトで固定します。

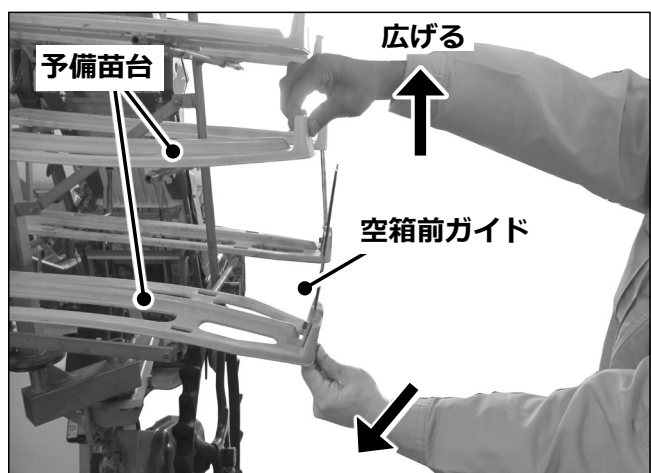


■ 予備苗台後の取り付け

- (1) 左右の予備苗台支持座にグリスを塗って差し込んで使用します。
- (2) 予備苗台支持座は 90°回動します。また予備苗台後は 4ヶ所で回転固定できます。
- (3) 予備苗台後はレバーを上げると回転ロックが外れて回転します。レバーを離すと 4ヶ所で回転固定します。
- (4) 予備苗供給時は外側後ろ向き、作業時は内側内向き、移動の時、またはあぜぎわ等の植え付けで予備苗台後が障害物に当たる恐れのある場合は、外側外向きにして使用します。



- (5) 水洗い等により、予備苗台を取り外す際は、予備苗台前後の間を広げ、空箱前ガイドの差し込みを外した状態で、予備苗台を取り外してください。



## ■ 苗支持板の調節のしかた

### ⚠ 注意

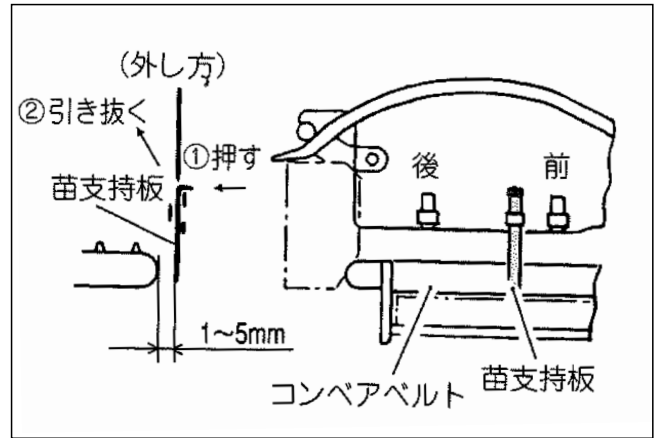
苗支持板の調節はエンジンを停止し手袋をして行なってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。

苗支持板は植付爪で苗を取るわずかの間、苗を支持する役目をしています。

- (1) 苗丈が 8 cm 以下の場合は前の位置にします。
- (2) 苗丈が 25 cm 以上の場合は後の位置にします。

### 重要

- 苗支持板を何かに引っ掛けたりして大きく変形させた場合は、外して直してください。変形していると植付姿勢が悪くなります。



## 植付作業の手順

### ⚠ 警告

- 夜間作業は行なわないでください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。
- 後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないように充分注意してください。
- 機体への乗り降りや機体の上で作業を行なうとき（苗の補給時など）、V S 変速レバーに体の一部が接触すると、機体が発進する恐れがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。
- 異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。
- 小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。
- 作業中は、植付部の回転部分やエンジン、マフラーなどの過熱部分には手を触れないでください。以上の確認・注意を怠ると思わぬ事故の原因となり大変危険です。

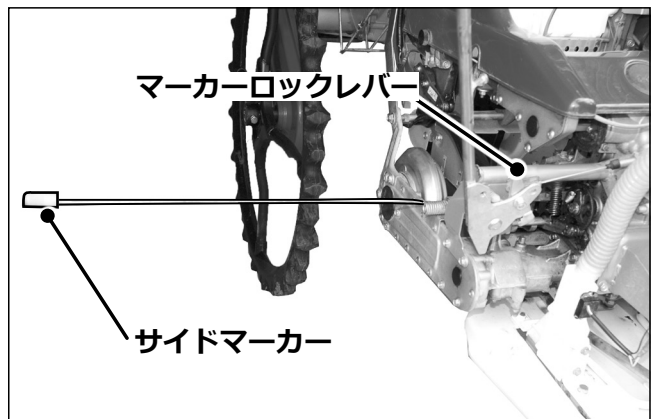
### ⚠ 注意

- 補助者と共同作業を行なうときは、お互いに充分注意・合図をし合って安全に作業を行なうようにしてください。
- 運転席を離れるとき、運転操作をしないときはV S 変速レバーを「停止」、主変速レバーを「中立」にして駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止してください。

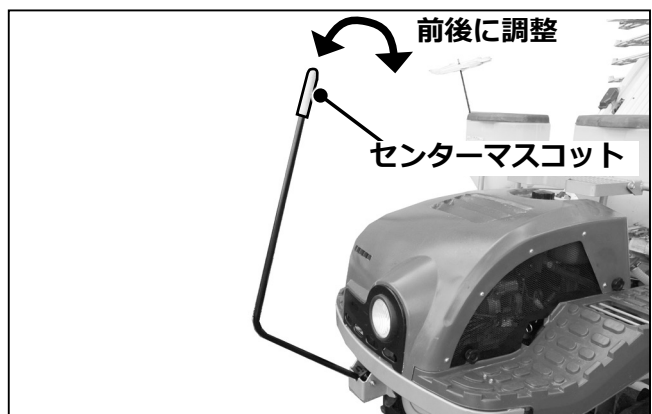
(1) ほ場に入りアクセルレバーを「低」、主変速レバーを「中立」、V S 変速レバーを「停止」にします。（20～22 ページ参照）

(2) 筋付マーカのロックを外し、作業状態にします。

(3) サイドマーカは左右とも出しておき、隣接苗の2列目に合わせて使用します。

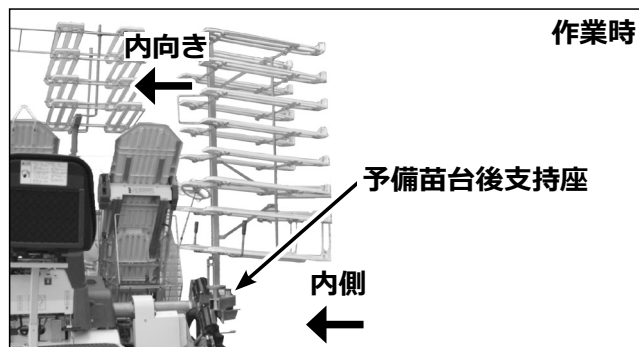
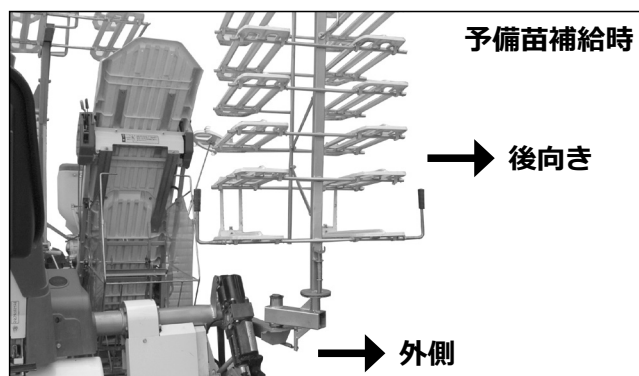


(4) センターマスコットは見やすい角度になるよう調整して使用します。



## 作業のしかた

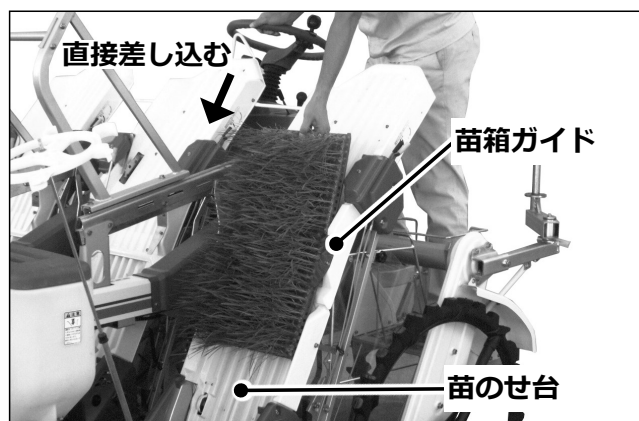
- (5) あぜぎわで予備苗の補給を行なう時は、予備苗台後を外側後ろ向きにします。  
(47 ページ参照)
- (6) 苗は上の段からのせ、下の段から使います。  
これを怠ると苗の葉先が傷んだり、ポットから苗が抜け落ちることがあります。
- (7) 予備苗台支持座を内側に回動させ、予備苗台後を内側内向きとします。



- (8) 各植付部の最初の苗は苗箱ガイドの下を通して直接苗のせ台へ手でまっすぐ差し込みます。

### 重要

- 植付部の状態によって苗箱が苗のせ台の上方で止まったり奥まで入ったりしますが、上方で止まった時無理に押し込まないでください。植付不調の原因になります。



- (9) 各植付部 2 枚目の苗は植付部上部の自給苗のせ台にまっすぐていねいにのせます。

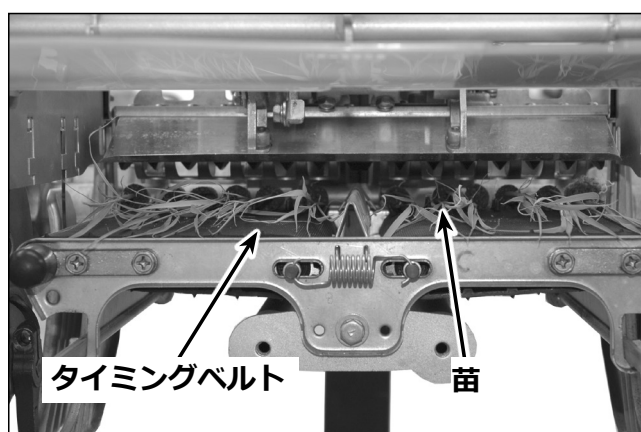
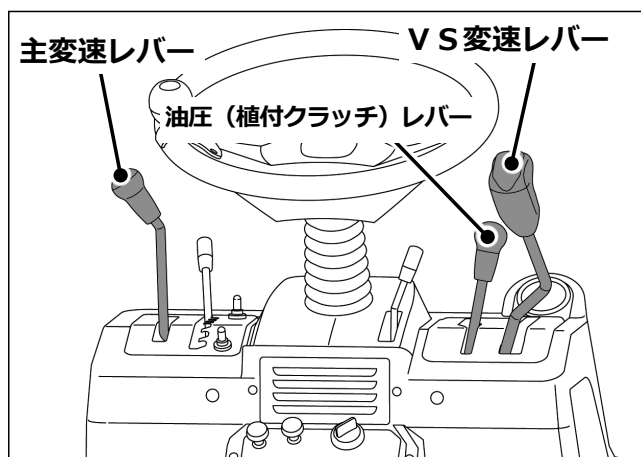
### 重要

- 中植付部はブザーが鳴ってから苗補給すると、前方の見通しが良い状態で作業できます。



## 作業のしかた

- (10) 主変速レバーを「作業」、VS 変速レバーを「低」にして植え付けを始める所へ移動します。
- (11) 主変速レバーを「PTO」にします。
- (12) マーカースイッチを「自動」にします。(19 ページ参照)
- (13) 植付部フックを外し、油圧（植付クラッチ）レバーを「下」にするとフロートが接地して植付クラッチが入り、片側の筋付マーカが下がります。
- (14) 逆側の筋付マーカが下がった場合は、いちど油圧レバーを「上」にしてから「下」にするとマーカの出る方向が変わりません。
- (15) VS 変速レバーを「低」にすると植付部が回って苗箱が自動的に送り込まれます。コンベアベルトの上に苗がのった時に、VS 変速レバーを「停止」にして、主変速レバーを「作業」にします。
- (16) エンジン回転を上げ、VS 変速レバーを操作して植え付けを開始します。
- (17) 植付状態を確認して「油圧感知調節レバー」と「植付深さ」を適正位置にします。



### 重要

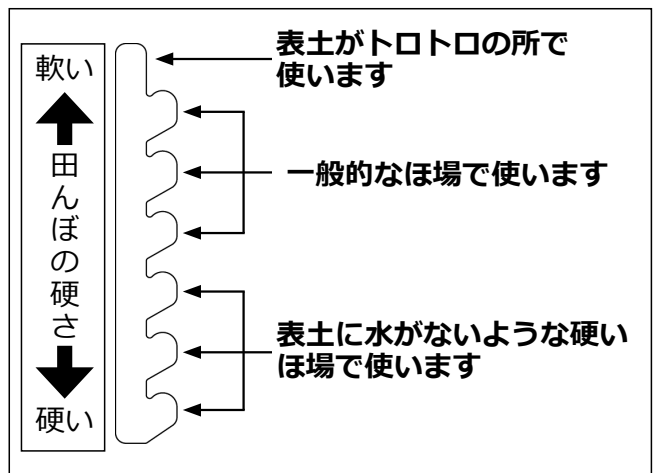
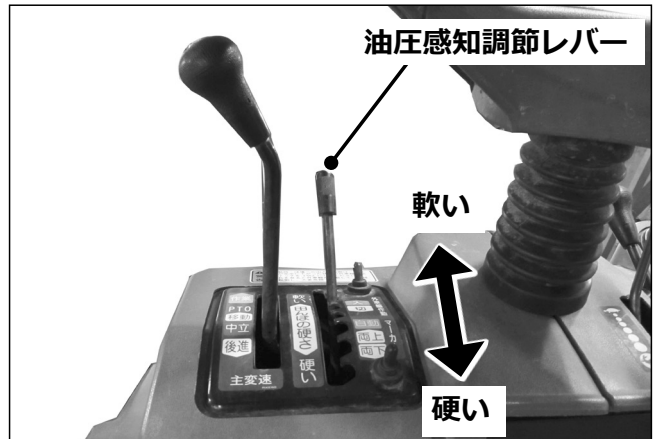
- 植付作業を開始して、各調節が希望する値になっていることを確認してから連続作業を行なってください。
- ほ場の状態・苗の条件によって植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最もよい速度を選んでください。
- 株間 12cm で使用する時は VS 変速を中速以下で使用してください。守らないと機械が破損する原因となります。また苗箱の送り不良で連続欠株となる恐れがあります。
- 次のような条件のとき、植え傷み苗になることがあります。このような場合は植付速度を落としてゆっくり作業してください。
  - 貧弱な苗
  - 根張りが悪い苗
  - ガイド板が変形している。(広くなった時)
  - 苗支持板が変形・欠落している。
- ほ場の出入り口等、不整地では絶対に植付部を下げないでください。また、ほ場内でエンジンを停止する時は必ず植付部を上昇させ植付部フックをかけておいてください。(26 ページ参照) 機体が前後に傾いたり、エンジンが停止した状態で植付部を下げると、フロート支持部が破損する恐れがあります。

## ■油圧感知調節のしかた

- (1) 感知は油圧感知調節レバーを前後にずらすことにより7段階に選べます。
- (2) フロートが泥を押す場合はレバーを前方へ移動させます。
- (3) フロートでは場の凹凸をならしきれなかったり、フロートが浮く場合はレバーを後方へ移動させます。

### 重要

- フロートの泥押しをさけるため油圧感知調節レバーをいちばん「軟い」にすると、ころび苗が出る場合があります。この場合は植付深さ調節レバーをもう一段「深い」側に動かしてください。

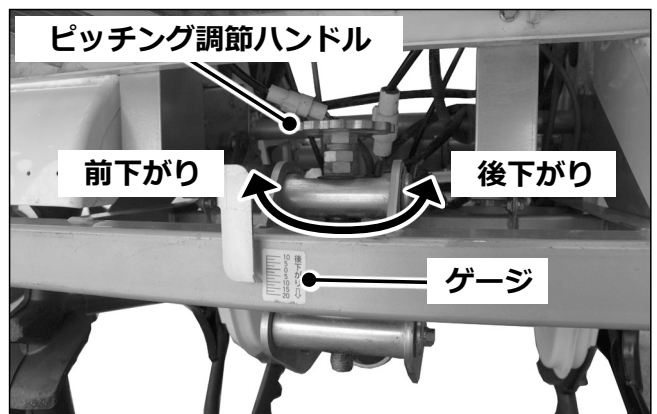


## ■ピッチング姿勢の調節のしかた

- (1) フロート前部で泥を押したり、左右どちらかのフロート後部が浮いて浅植え、ころび苗になる時はピッチング調節ハンドルを左へ回し、植付部の姿勢を後ろ下がりにします。
- (2) 油圧自動スイングの感知が鈍くなり、フロート後部が大きく沈み、深い溝を掘ってしまう時はピッチング調節ハンドルを右へ回し、植付部の姿勢を前下がりにします。

### 重要

- ピッチング姿勢の調節を行なう時は、植付部を表土から浮かして行なってください。



## ■ フロート引きバネの調節

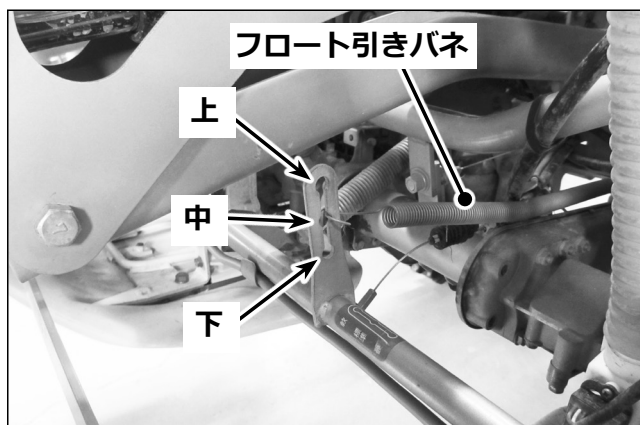
(植付部の左側のみ付けています)

(側条施肥機付の場合は両側に付けています)

### ▲ 注意

フロート引きバネの調節はエンジンを停止して行なってください。

これを怠るとケガをする恐れがあります。



油圧感知調節レバーと同じように、ほ場条件に合わせてフロートの接地圧を加減します。

通常は「中」にしておきます。

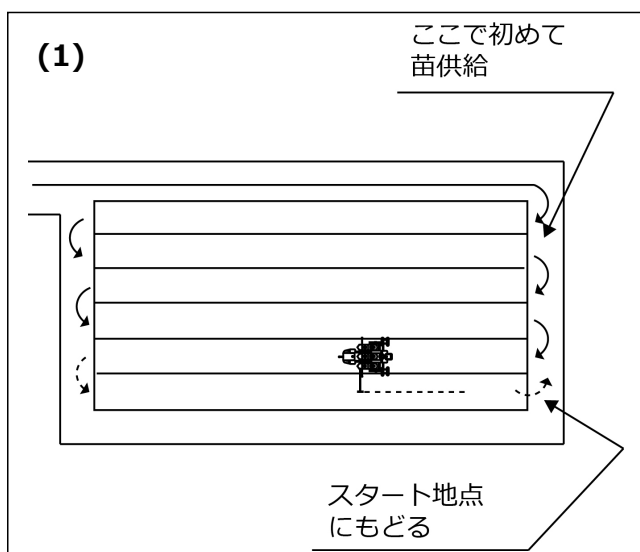
「上」……ほ場全体がトロトロの場合、  
または側条施肥機を付けた時。

「下」……ほ場全体が硬い場合。

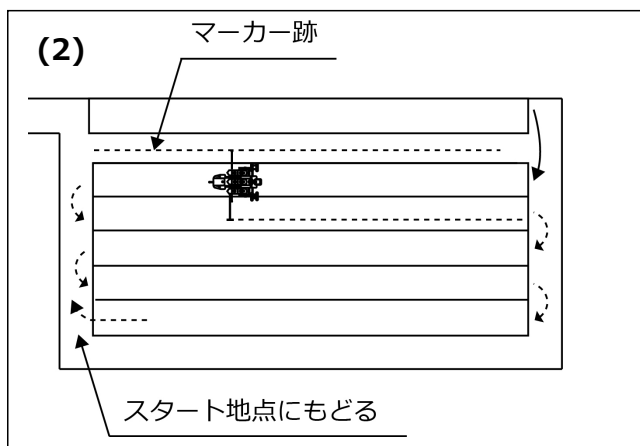
## ■ ほ場での植えかた

枕地の条件の良し悪し、出入口等を考慮して植え進みかたを決めてください。

(1) 周囲を6条分残して植え、最後にスタート地点(出入口)から1周植えて終了します。枕地6条の場合は、旋回後、条合わせの時1回後進が必要です。



(2) (1)と同じ方法ですが、あぜぎわから植えて6条あけて帰ります。この時、マーカースイッチを「両下」にして、左右の筋付マーカーを同時に出して、片側をマーカー跡に合わせて植え進みます。



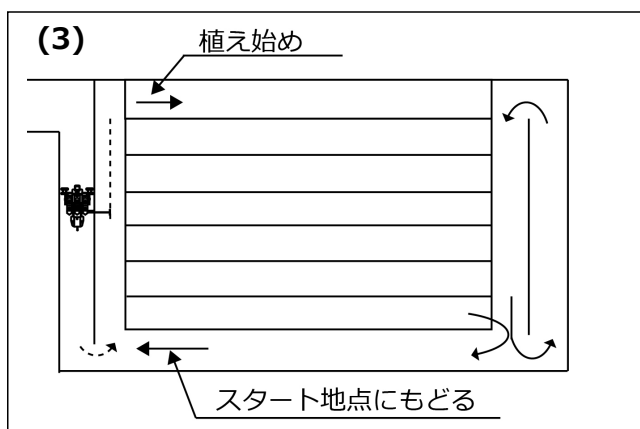
### 重要

四隅を旋回しながら植付けすると、機械の破損の原因となります。

(3) 枕地を12条分残して植えると、旋回が容易にできます。

### 重要

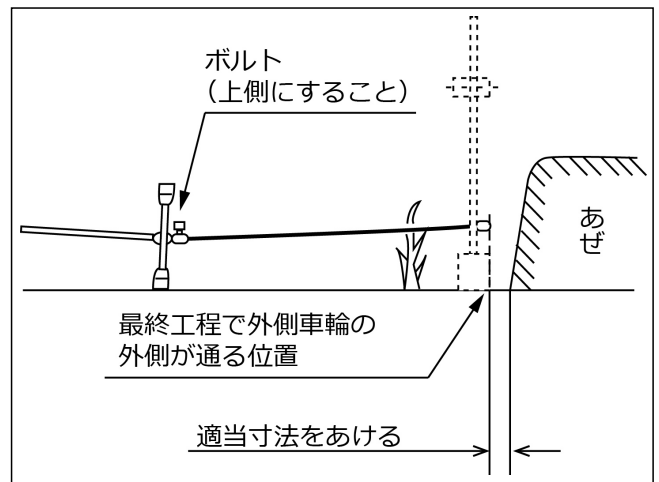
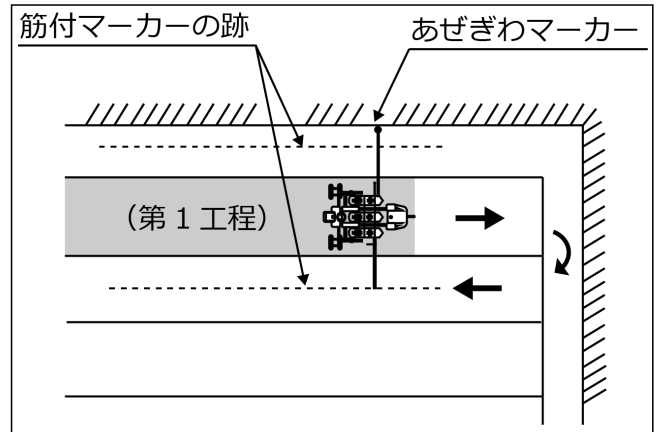
特に旋回時、外車輪で土を持ち上げる時は枕地12条植をしてください。



## ■ あぜぎわマーカースの使いかた

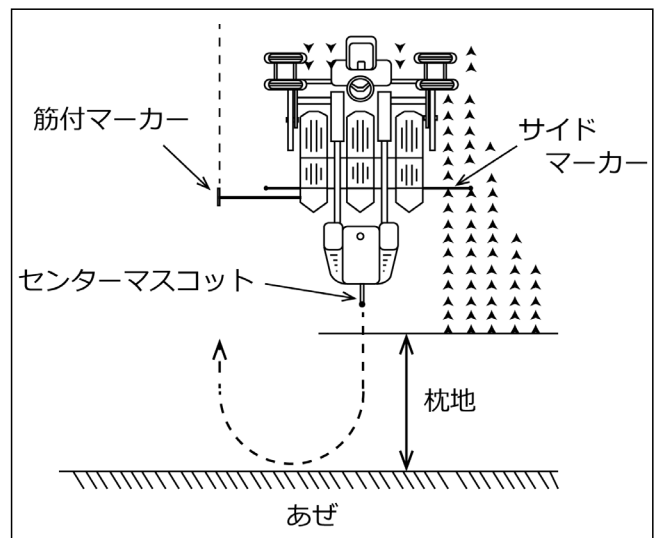
最初の6条分を残す方法として、最初の1工程を植える時、マーカースイッチを「両下」にして左右の筋付マーカースを同時に出しますが、あぜぎわとなる方の筋付マーカースの先に、あぜぎわマーカースを取り付けてめやすとする方法もあります。

- (1) あぜぎわマーカースは筋付マーカースの先に奥まで押し込み、ボルトが上側にくるように、しっかりと固定します。
- (2) あぜぎわマーカースの先端位置が、最終行程で通る外側車輪の外端を示していますので、あぜから適当寸法をあける様にして第1行程を植えます。
- (3) 最初の1行程目が終わったら、あぜぎわマーカースを外しておきます。



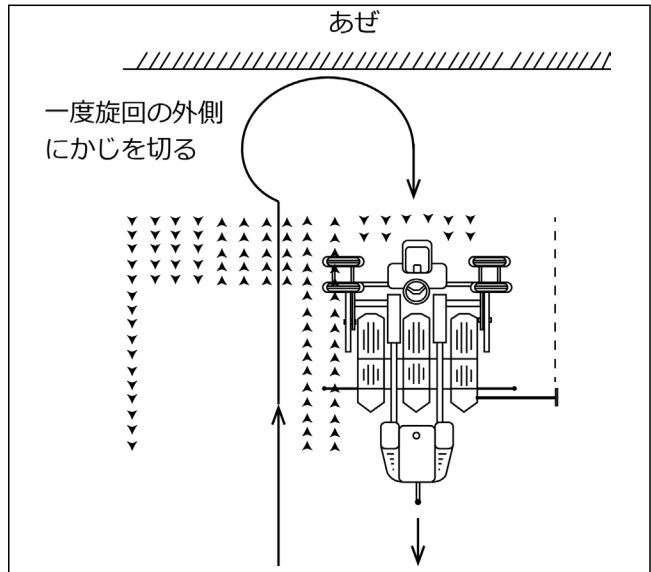
## ■ 旋回のしかた

- (1) あぜに近づいたらスピードを下げます。
- (2) 油圧 (植付クラッチ) レバーを「上」にし、旋回する側のサイドクラッチペダルを踏んでハンドルを操作し、旋回します。
- (3) 旋回後、サイドマーカースとセンターマスケットで条間を合わせて油圧 (植付クラッチ) レバーを「下」にします。
- (4) センターマスケットと、1行程前に筋付マーカースでつけたマーカース跡を合わせて植え進みます。



**重要**

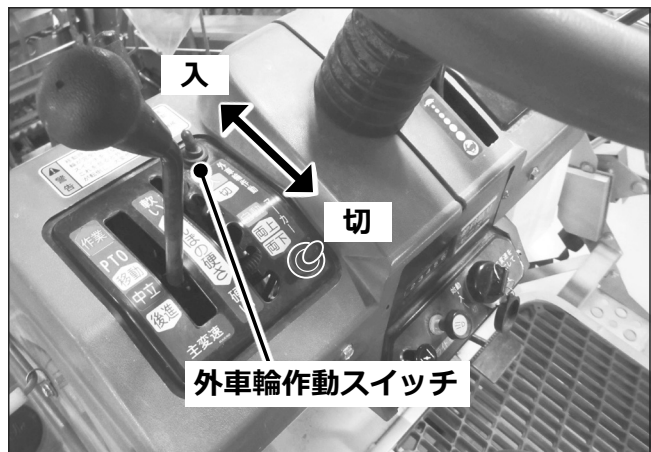
- ほ場が浅い場合 (20cm 以下) には、左右のサイドクラッチペダルを同時に踏んでハンドルを操作すると旋回半径がやや小さくなります。
- 右図のように一度旋回の外側にかじを切ってから旋回すると、楽に条合わせができます。
- ハンドルの操作を繰り返していると、ハンドル (グリップ) の位置が少しずつずれますが、異常ではありません。
- 耕盤の不安定なほ場での後進はできるだけさけ、やむなく行なう時はアクセルレバー・V S 変速レバーとも「低」にし、ゆっくり後進すると前輪の沈み込みが少なくなります。



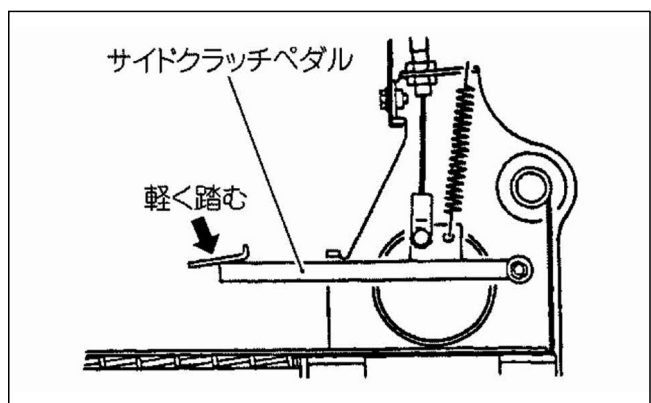
**■外車輪作動スイッチの使いかた**

**警告**

- 移動時・ほ場への出入りの際は、外車輪が完全に下がった状態で外車輪作動スイッチを「切」にしてください。これを怠ると外車輪が作動して、機械が転倒し、大変危険です。

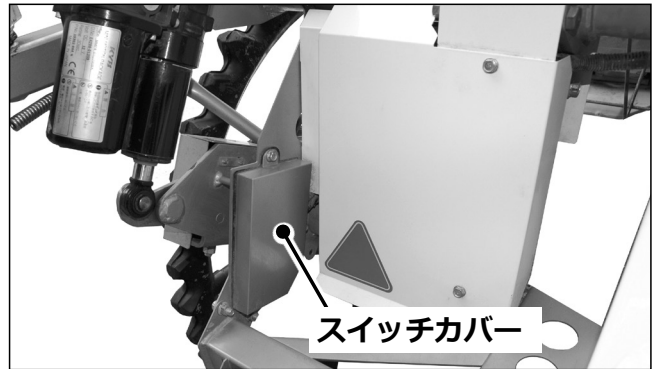


- (1) 外車輪作動スイッチを「入」にし、旋回する約 5m 手前で旋回側のサイドクラッチペダルを軽く踏み外車輪を上げます。
- (2) 旋回時には、サイドクラッチペダルを踏み込み、旋回側の後輪のクラッチを切って旋回します。
- (3) 旋回後は、サイドクラッチペダルから足を離し、外車輪を下げます。
- (4) 外車輪作動スイッチを「切」にするとサイドクラッチペダルを踏んでも、外車輪は作動しなくなります。
- (5) 外車輪が作動中にスイッチを「切」にすると、任意の高さで止められます。



**重要**

- 外車輪を上げると機体が大きく傾くようなほ場では、耕盤を傷めたり、田植機が破損する恐れがありますので、下げた状態で作業してください。
- ほ場で機体後部が沈み、外車輪が上昇・下降しなくなった時はスイッチカバーを外し、スイッチ部に付着している泥を水洗いしてください。



**警告**

- スwitchカバーを外す時は、キースイッチを「切」にしてください。これを怠ると傷害事故の原因になります。

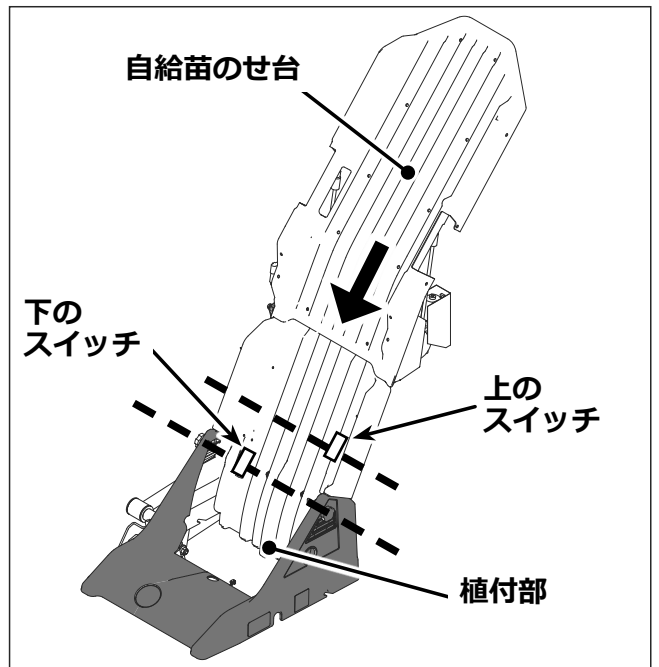
**■ 苗の補給のしかた**

(1) 植付部の苗が残り少なくなると、ブザーが鳴ると同時に苗自動供給のモーターが動き、自給苗のせ台の苗箱が2段階で植付部へ送り込まれます。

※ 苗箱破損防止のため、「上のスイッチ」で1回止まり、その後、再度ブザーがなって植付部へ送られます。

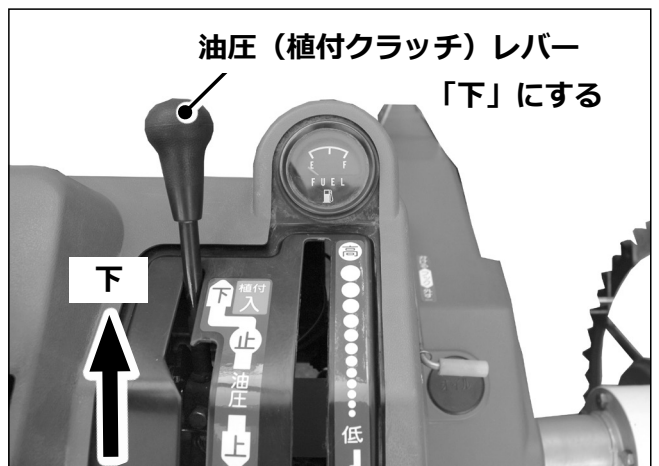
(2) 自給苗のせ台の苗箱がなくなったら、予備苗を自給苗のせ台へ、まっすぐていねいにのせます。

(3) 自給苗のせ台の苗がなくなり、苗箱が植付部の「下のスイッチ」から離れてから、VSレバーで機械を停止させると、自給苗のせ台へ続けて2枚の苗箱を補給する事ができます。



**重要**

- 予備苗の補給はキースイッチ「入」、油圧（植付クラッチ）レバー「下」で行なってください。油圧（植付クラッチ）レバーを「中立」または「上」にすると、ブザーが鳴りやみ、自動供給も動きません。
- 中植付部はブザーが鳴ってから苗補給すると、前方の見通しが良い状態で作業ができます。

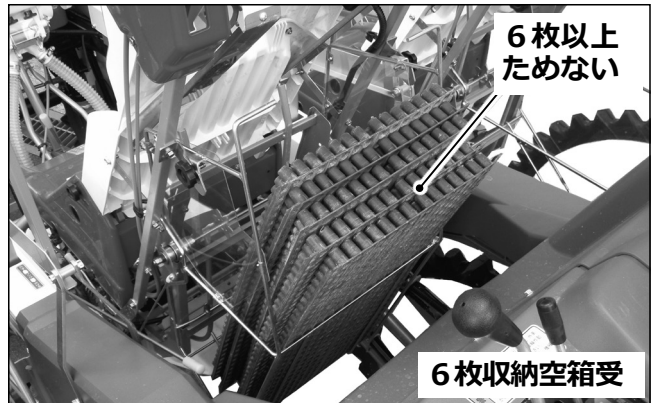
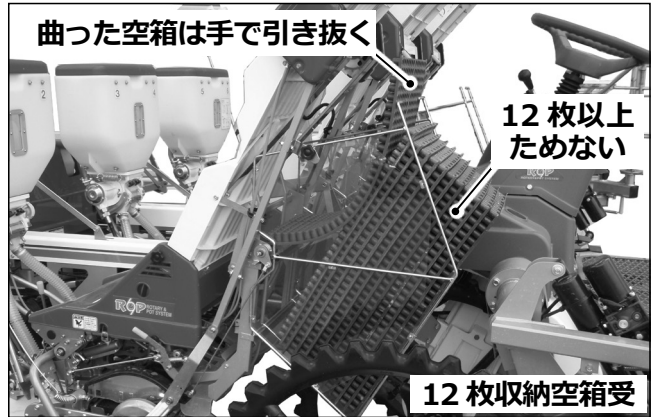


## ■ 空箱の取り出しかた

(1) 空箱は自動的に空箱受に収納されます。

### 重要

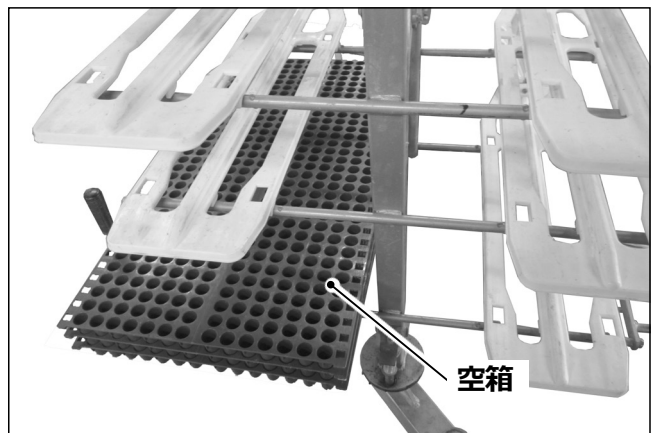
6枚収納空箱受には6枚以上空箱をためないでください。また、12枚収納空箱受には12枚以上空箱をためないでください。箱がつまって植付不調・苗箱の破損の原因になります。



(2) 空箱受にたまった空箱は、植付部をいっぱい上昇させて取り出し、予備苗台後のいちばん下の段に入れてください。

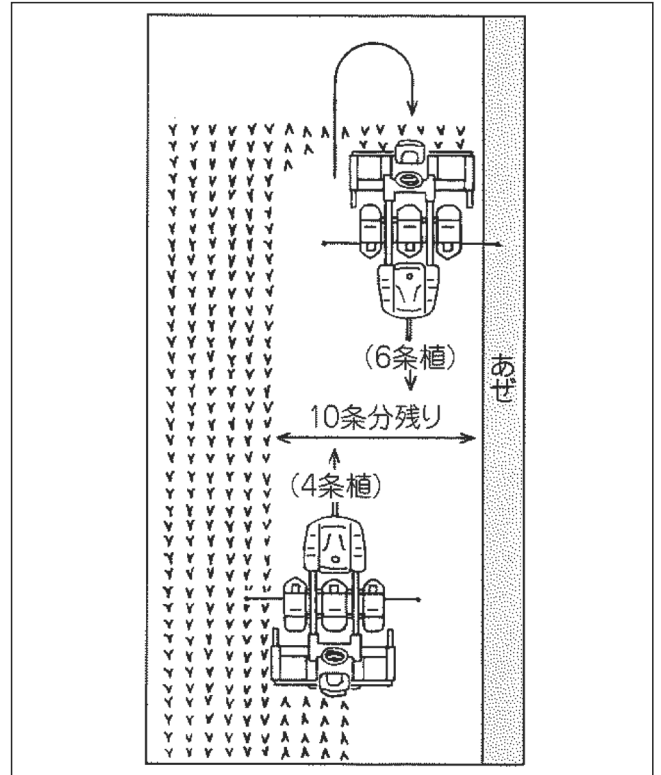
### 重要

● 休憩の後で作業を再開する時、植付部から出てくる空箱に曲りグセがついている時、また部分的に変形・破損した空箱は空箱受への受け渡しが確実でなかったり、きちんと空箱受へ入らない事があります。このような空箱は直接手で引き抜いてください。



## ■ 植えじまいのしかた

(1) 植え付けの最終工程（あぜぎわでの植え付け）を使用田植機の条数に合わせるためには、前行程で植付条数の調整をする必要があります。



(2) 最終工程での植付条数の決めかた

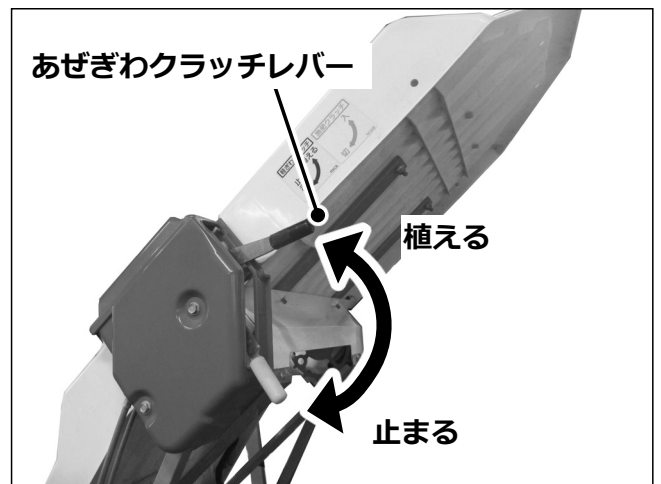
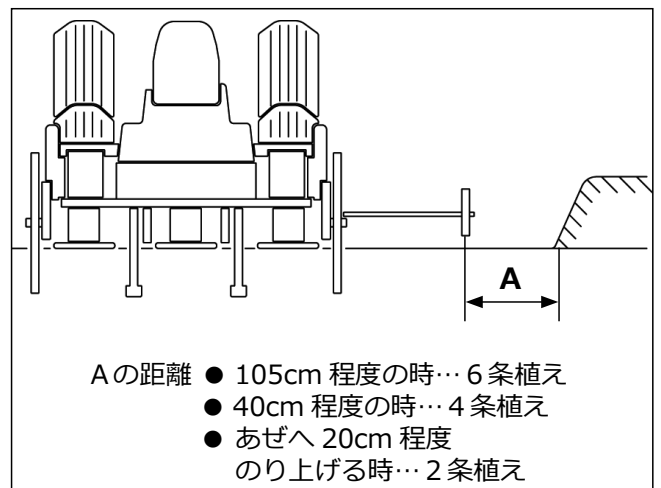
- ① サイドマーカーで条合わせした後、筋付マーカーを出して植付条数を決めます。
- ② 各植付部のあぜぎわクラッチレバーを「止まる」にすると各2条の植え付けを停止することができます。

### ▲ 警告

あぜぎわクラッチレバーの操作を行う時は必ずエンジンを停止してください。

### 重要

- あぜぎわクラッチを「止まる」の操作後、送り途中の苗を14株程度植え付ける場合があります。
- また「植える」の操作後、植付爪に苗が出てくるまで待つてから植え付けてください。
- あぜぎわクラッチを「止まる」位置で使用した後は必ず「植える」の位置に戻してください。

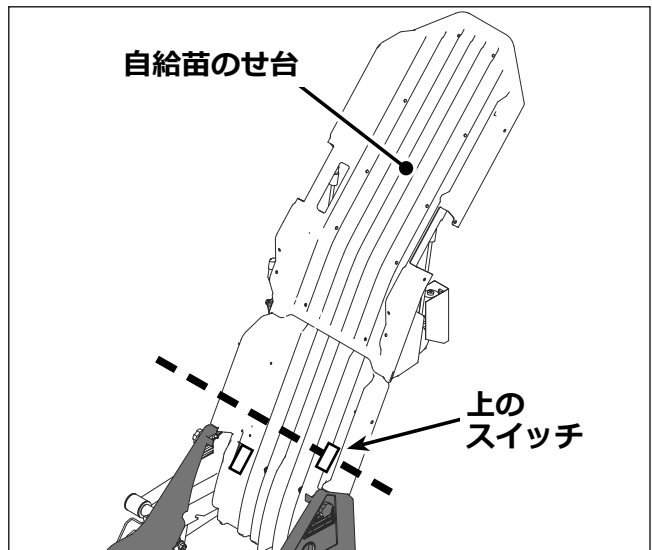
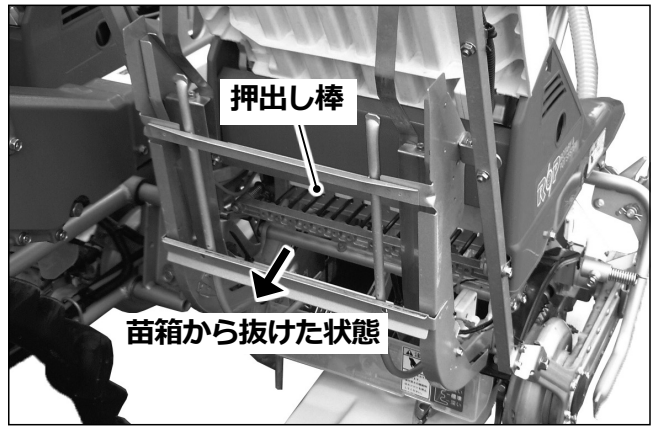


■ 残り苗の取り出ししかた

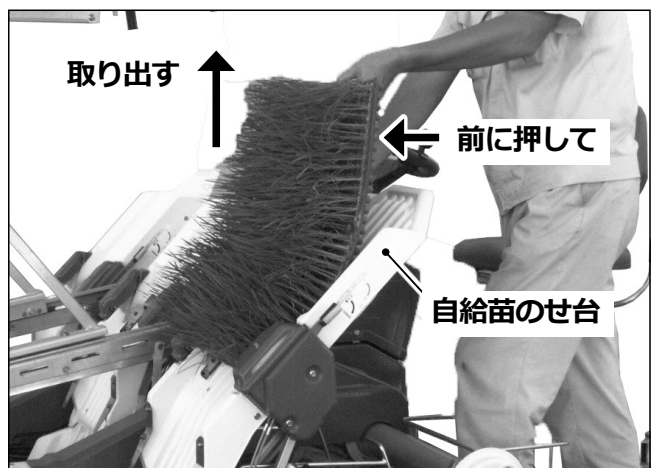
**⚠ 注意**

苗箱を取り出す時は、必ずキースイッチを「切」にして行なってください。これを怠ると自動供給のモーターが作動して大変危険です。

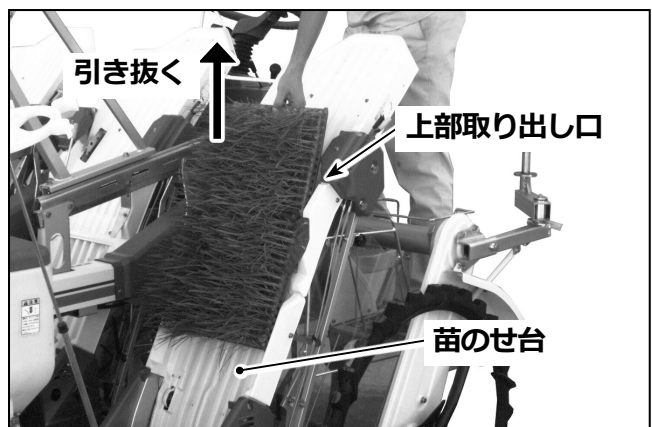
- (1) 植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合は、押し棒が苗箱から抜けた状態にしてください。また、自給苗のせ台に「上のスイッチ」で止まった状態の苗箱は、植付部に送ってください。その後、必ずエンジンを停止し、キースイッチを「切」にしてください。



- (2) 自給苗のせ台の苗は上へ取り出します。万一苗箱の角穴が、スプロケットにかかり抜けられない時は、苗箱を前に押し、かみ合いがはずれ、上に取り出す事ができます。



- (3) 植付部の苗のせ台で、縦送り爪まで送られていない苗箱は、苗のせ台にそわせて引き上げ、上部取り出し口から引き抜きます。

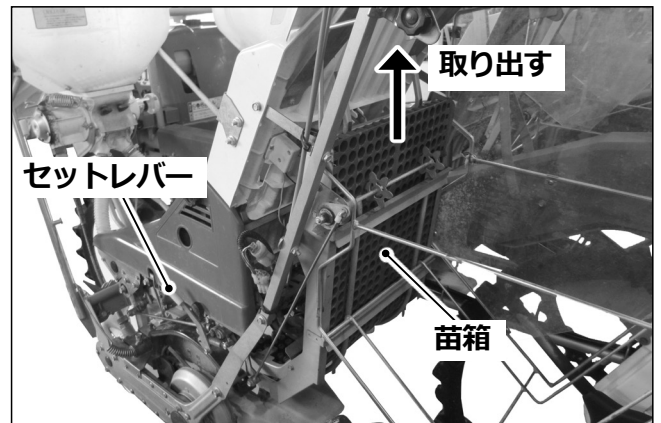
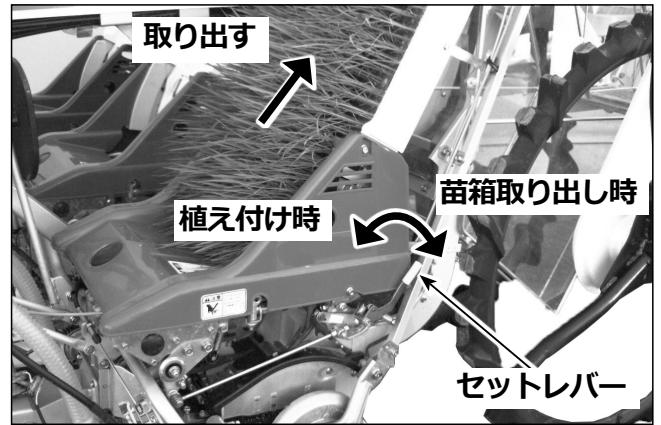


## 作業のしかた

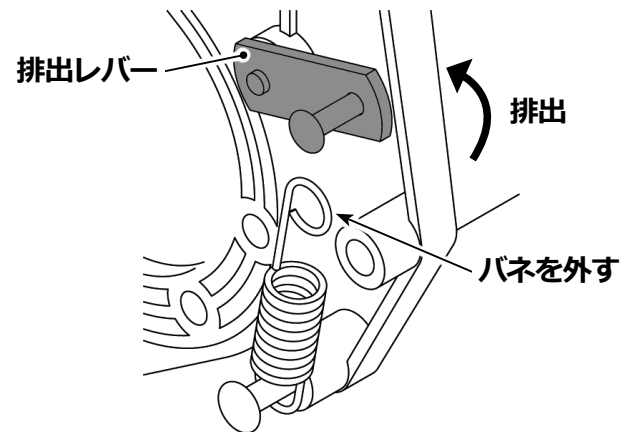
- (4)縦送り爪で固定され植付中の苗箱は、セットレバーを後方へ倒し、苗箱を苗のせ台にそわして引き上げ、上部取り出し口から引き抜きます。
- (5)苗が残り少なく、上に引っ張れない場合は、セットレバーを前後に動かして苗箱を送り、空箱ガイドから引き抜きます。

### 重要

- セットレバーの操作は、押出し棒が苗箱から抜けた状態で行なってください。守らないと、苗箱が破損する恐れがあります。
- 残り苗の取り出しが終わったら、セットレバーは必ず植え付け時の位置に戻してください。
- 側条施肥機付の場合は毎日作業終了後、必ずホッパー内の肥料を排出してください。守らないと肥料がホッパー内部で固まり、施肥ムラとなったり駆動ワイヤーが切損したりする恐れがあります。



### 側条施肥機付の場合



■ 植付部の水洗いのしかた

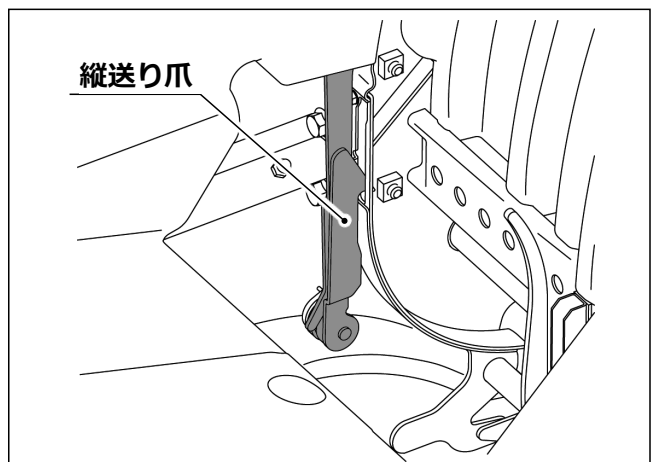
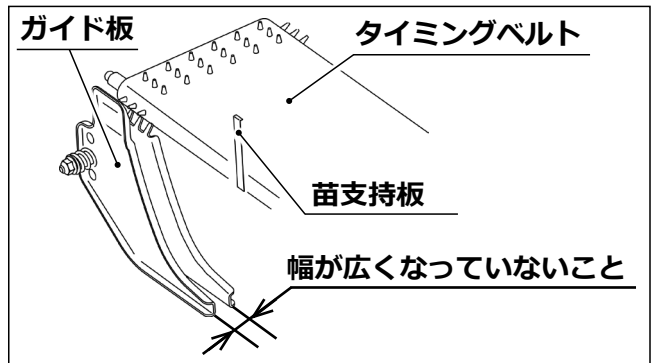
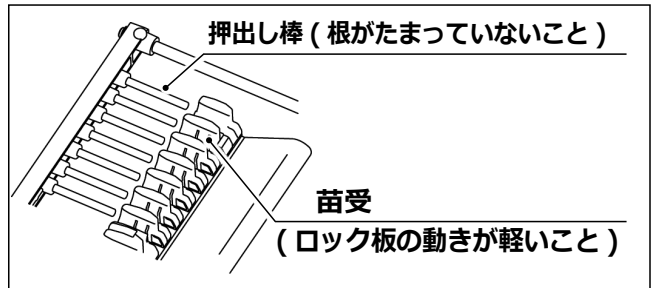
**警告**

植付部の回転部・作動部に手を入れる場合は必ずエンジンを停止してください。これを怠ると大変危険です。

苗受・押し棒・タイミングベルト・ガイド板・苗支持板・苗のせ台・縦送り爪・ストッパー爪・空箱ガイド等をよく水洗いしてください。

**重要**

- 苗支持板を变形させないように注意してください。植付不良の原因となります。
- ほ場を変える時・休憩時・食事の時などの前には必ず水洗いしてください。
- ガイド板に泥・異物がつまり幅が広がると植え傷みの原因となるので、きれいに洗ってください。(变形している場合は修正または交換してください。)



## ■安全クラッチが作動したとき

### ⚠ 警告

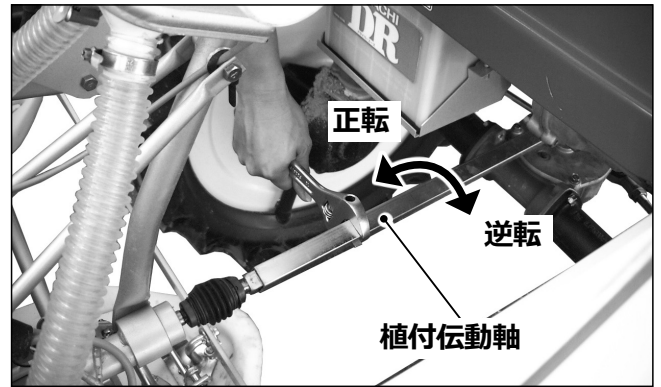
安全クラッチの確認時は、必ずエンジンを停止して行なってください。これを怠ると大変危険です。

植付作業中、植付部が止まりカチカチ音が出る場合は安全クラッチがはたらいていまずので次の処置をしてください。

- (1) ただちにV S変速レバーを「停止」にします。
- (2) 主変速レバーを「中立」にし、植付クラッチを入れたまま（油圧レバー「下」位置）、エンジンを停止します。
- (3) 植付爪・ガイド板等に石等がかんでいないか確認します。
- (4) 植付伝動軸の四角パイプ部にスパナをかけ、逆転方向に回して石等を取り除きます。
- (5) その後、正転方向に軽く回転するか、植付爪やガイド板が変形していないか確かめてから植え付けを再開してください。

### 重要

- 植付爪やガイド板が曲がったり破損した時は、お買い上げいただいた販売店にご連絡ください。

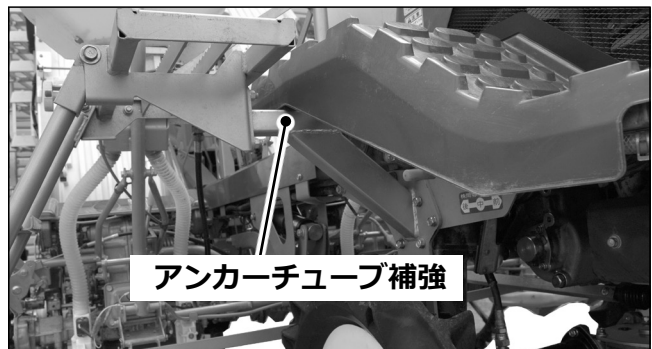
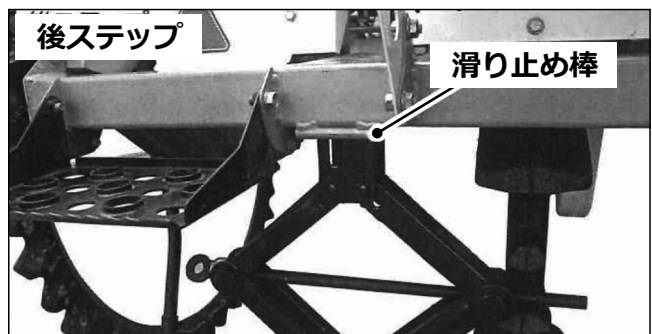
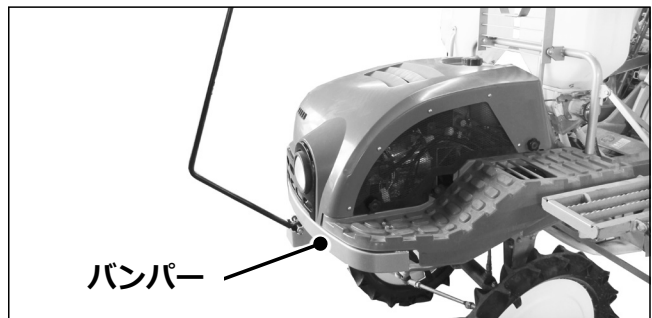
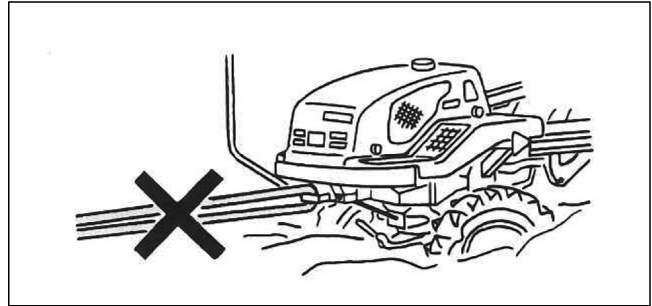
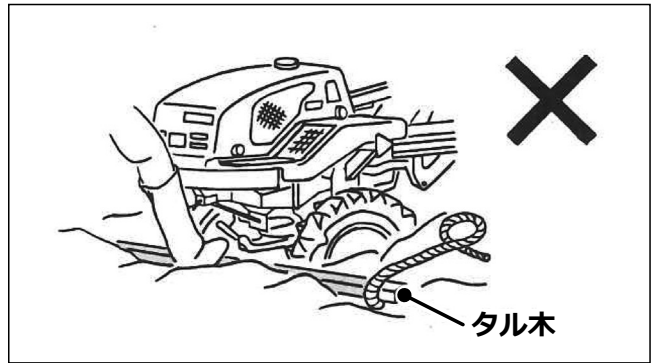


## ■ 湿田での脱出のしかた

- (1) 予備苗を全部降ろして田植機を軽くします。
- (2) 車輪に負担をかけないように、油圧レバーを「下」、油圧感知調節レバーを「硬い」にして植付部が常に表土に下りているようにしておきます。
- (3) 前輪の前の泥をできるだけ除き、ジャッキアップして前輪の下にアユミ板をひきます。
- (4) V S 変速レバーを「低」から「高」に繰り返し操作して、ゆっくり自力で脱出させてください。

### 重要

- 深いほ場で沈んで、前進できなくなった場合は、絶対にトラクター等で引っ張らないでください。田植機が破損する恐れがあります。
- 機体前方のジャッキアップはバンパー中央1ヶ所だけでは、変形する恐れがありますので、左右のアンカーチューブ補強等も利用して、無理のないよう注意して引き上げてください。機体後方では後ステップ左右の滑り止め棒の所で行なってください。



# 点検整備

## 定期点検

定期点検は、ユーザーが定期的に行なう点検です。

本機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては本機の寿命を短くしてしまいます。

本機の持つ性能がいつまでも充分発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

### ⚠ 危険

- 燃料・オイルの補給中やバッテリーの点検・充電・交換中は火気厳禁で行なってください。
- 燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。

### ⚠ 警告

- エンジンカバーを外すときは内部が充分冷え、やけどの恐れがないことを確認してください。
- 作業を行なうときは、植付部をいったん上げた後、植付部固定フックレバーを「かける」にして降ろし、植付部を固定してください。
- 機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。
- 廃油を地面へたれ流したり、河川・湖沼・海洋へ投棄したりしないでください。
- 廃油・燃料・フィルター・ゴム類・その他の有害物を廃棄するときは、販売店または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。
- 作業にあったキチンとした作業着を着用してください。だぶついた服装は回転部に巻き込まれやすく危険です。
- ヘルメット・滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴・保護メガネや手袋などを着用してください。

### ⚠ 注意

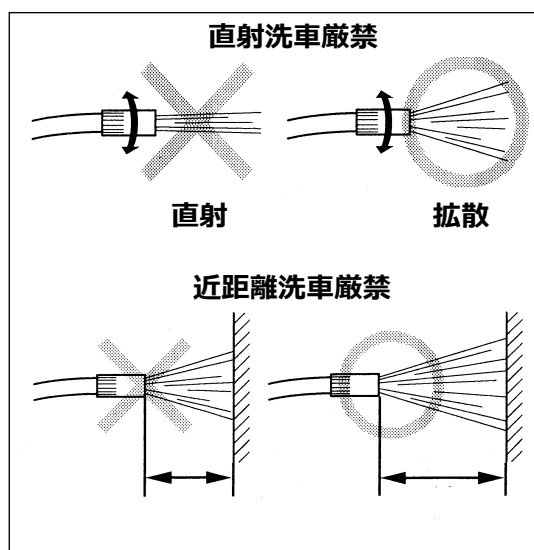
- 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、明るく平坦な広い場所で駐車ブレーキを掛けてエンジンを必ず止めてから作業をしてください。
- カバー類を取り外すと、回転部に衣服などが巻き込まれる恐れがあります。点検後はカバー類を必ず取り付けてから作業を行ってください。

## ■ 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

### ⚠ 注意

- 機械を損傷させないように洗車ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、
  - 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
  - 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負う恐れがあります。



## 点検整備

### 重要

●直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例①シール・ラベル、塗装・メッキの剥がれ

②エンジン、電装部品、コネクタ内部等への浸水による故障

③オイルシール等のゴム類、樹脂部品等の破損

### ■定期点検・整備一覧表

○：点検と調整    △：交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期						参照 ページ
		作業前後	シーズン前後	50時間	150時間	200時間	2年ごと	
<b>エンジン部</b>								
燃料フィルターポット (燃料フィルター)	掃除・洗淨		○					70 ☆
エアクリーナー エレメント	掃除	○：50時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：汚れがひどいとき						69 ☆
点火プラグ	掃除					○		71 ☆
	すき間調整	○：500時間ごと						
気化器（キャブレター）	掃除	○：エンジン不調時など						☆
燃料ホース	バンド 位置の確認	○					△	71 ☆
		（作業前点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの位置の確認又は、交換）						
<b>走行・操作部</b>								
V Sベルト・ 油圧駆動ベルト	—	△：摩擦、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき						72 ☆
ブレーキペダル	点検	○						31 ☆
V S変速レバー	点検	○						31 ☆
サイドクラッチペダル	点検	○						31 ☆
車輪	点検	○						72 ☆
<b>植付部</b>								
苗受、押し棒 タイミングベルト ガイド板、苗支持板	掃除	○						61 ☆
		△：汚れがひどいとき						
苗のせ台、縦送り爪 植付爪、ストッパー爪	点検	○						☆
		△：破損時、磨耗がひどいとき						
<b>電装部</b>								
バッテリー	充電	○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど △：バッテリー上り（セルモータが回らないとき）						73 ☆
ワイヤハーネス・ バッテリーコード	点検	○						75 ☆
		△：破損時						
ヒューズ	—	△：破損時（ヒューズ切れ）						76 ☆

### 重要

- 参照ページに☆印のある項目について異常が見つかった場合は、販売店に連絡してください。
- 上表の時間は目安です。使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なりますので早めの点検をお願いします。
- 交換の際は、ゴミや水などの異物が混入しないように注意してください。

## 点検整備

### ■給油・注油点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量	種類	参照ページ
			点検	交換			
オイル	エンジン	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●初回 …20時間目 ●2回目以降 …100時間ごと	*規定量 オイルゲージの 下限と上限の間 ●容量…約1.0L	エンジンオイル A P I 分類 S E 級以上 10W-30	28
	変速ミッション	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●初回 …1年以内 ●2回目以降 …2年ごと	*規定量 オイルゲージの 範囲内 ●容量…約4.4L	ギヤオイル # 90	67
	後輪ミッション	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●2年ごと	*規定量 オイルゲージの 範囲内 ●容量… 左側 約0.8L 右側 約2.5 L		68
	植付ミッション	補給・交換	作業前 又は、 作業後	●1年ごと	*規定量 各約1.4L		68
	油圧	補給	作業 シーズン 前、後	—	*規定量 タンクの 目印線の間	油圧用オイル # 32	69
液	バッテリー液	補水	作業 シーズン 前、後	—	*規定量 バッテリー側面の 下限と上限の間	精製水	73・74
注油・ グリス	各部	補給	適宜		適量	油・グリス	29・30

### ■燃料・オイルの点検・補給・交換

#### ⚠ 危険

- 燃料やオイルの補給中は火気厳禁です。
- エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災ややけどをする恐れがあります。

#### 重要

- 補給・交換を行なうときは、機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
  - エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5分以上経過してから行なってください。
  - 廃油は使用しないでください。
  - 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
  - 使用するオイルは指定のものを使用してください。
- 点検するときは機体を水平な場所において行ってください。傾いていると正確な量を示しません。
- オイル排出時、本機内にオイルが残る場合があります。その場合、規定量を給油するとオイルが溢れますので、給油時は油面を確認しながら慎重に行ってください。

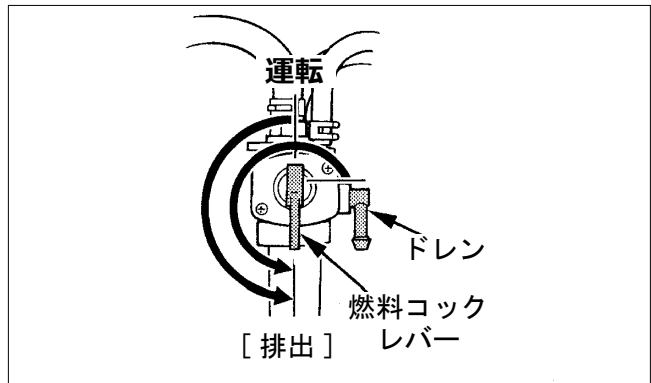
## ■ 燃料の排出

### ⚠ 危険

- 燃料を排出するときは、エンジンやマフラーが充分冷えてから行なってください。火災が発生する恐れがあります。
- 燃料のガソリンを保管するときは、必ず専用の容器に保管してください。市販のポリタンクでのガソリンの運搬・保管は火災や爆発が発生する恐れがあるので絶対にしないでください。（消防法で禁止されています）

長期格納時や燃料の交換を行なうときは、燃料タンクのガソリンを排出します。

- (1) ガソリンを受けるための鋼製の容器を準備したあと、燃料コックレバーを「排出」位置にして、ドレンからガソリンタンク内、キャブレター内の燃料を排出します。
- (2) 燃料フィルターポット内の燃料を排出します。（70 ページ参照）
- (3) 燃料フィルターポットを取り付け、燃料コックレバーを「運転」位置に戻します。



## ■ 変速ミッションオイル

### ● 点検・補給

- (1) ステップの窓からオイルゲージの範囲内に油面があるか確認します。
- (2) 不足している場合はボンネットカバーを取り外し、給油口から規定量になるまで給油してください。また、油もれのないことを確認してください。

### ● 排油のしかた

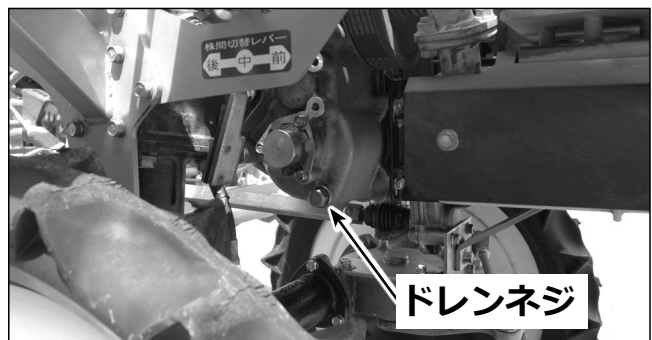
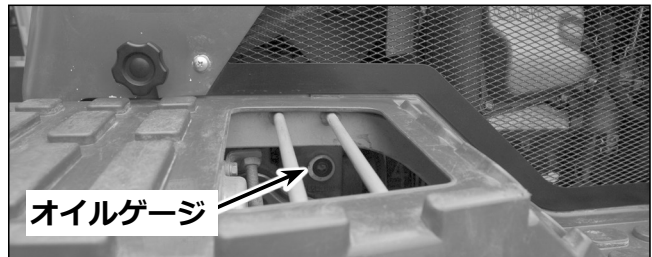
ドレンネジを外し、オイルを排出してください。

### ● 給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。

### 重要

- 給油したあとエンジンを約 1 分回転させて、再度点検を行ない不足しているときは、オイルを追加補給してください。



オイルの種類	オイル容量
ギヤオイル #90	各約 4.4L

## ■後輪ミッションオイル

### ●点検・補給

パネルカバーの穴から、オイルゲージの範囲内に油面があるか点検します。不足している場合は規定量になるまで給油してください。また、油もれのないことも確認してください。

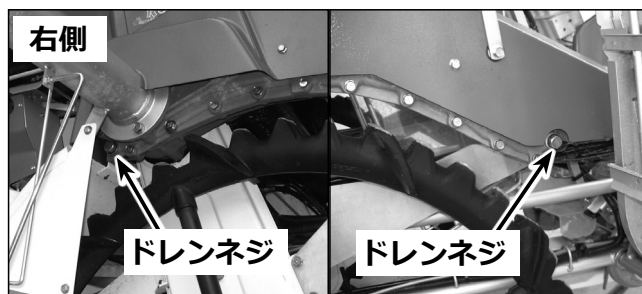
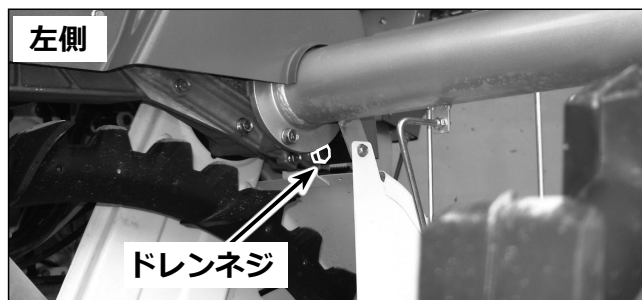
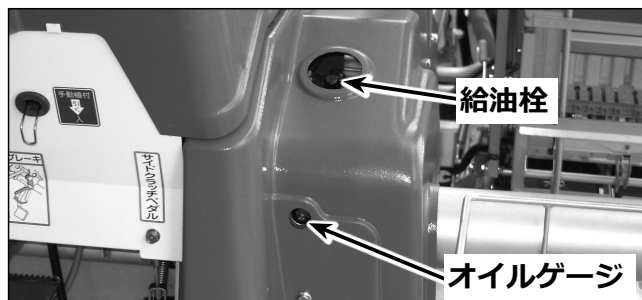
### ●排油のしかた

給油栓を外してから、ドレンネジを外し、オイルを排出してください。

### ●給油のしかた

ドレンネジを締め付け、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤーオイル #90	左側 約0.8L 右側 約2.5L



## ■植付ミッションオイル

### ●点検・補給

給油栓を外し、給油口までの油面高さが3～4cmか点検します。不足している場合は規定量になるまで給油してください。また、油もれのないことも確認してください。

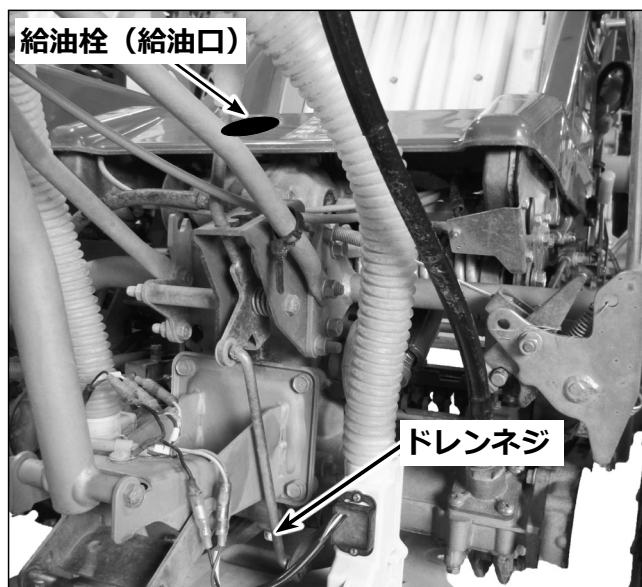
### ●排油のしかた

植付部を植付部固定フックにかけて、フロートを外します。ドレンネジを外してオイルを排出してください。

### ●給油のしかた

ドレンネジを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を差し込んでください。

オイルの種類	オイル容量
ギヤーオイル #90	各約 1.4L



## ■油圧オイル

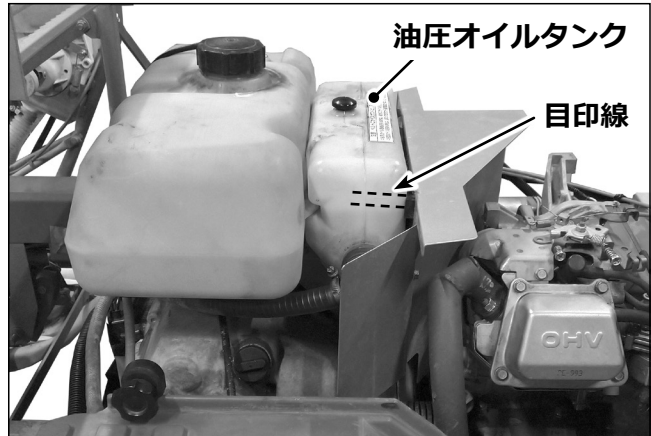
- (1) ボンネットカバーを取り外します。
- (2) 油圧レバーを操作し植付部をいっぱいに上昇させた時、タンクが目印線の間にあることを確認します。

オイルの種類	オイル容量
油圧用オイル #32	約 3.0L

(出荷時はJXTG エネルギー FBK オイル RO-32 を使用しています。)

### 重要

駆動ベルトにオイルが付着すると、スリップします。給油の時、オイルをこぼさないでください。また、水が混入しないようにしてください。



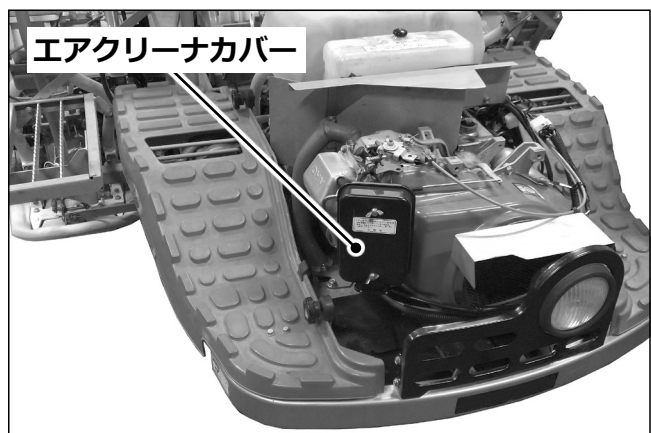
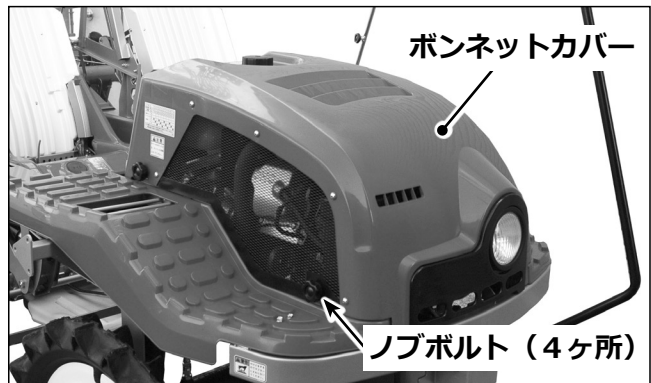
## ■エアクリーナエレメントの点検・掃除

### 重要

エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前にかかさず行なってください。

#### ●点検・掃除

- (1) ノブボルト(4ヶ所)をゆるめてボンネットカバーを外します。
- (2) エアクリーナカバーを取り外します。
- (3) エレメント(スポンジ)を取り外し、灯油又は家庭用洗剤で洗浄(もみ洗い)をします。このとき、汚れや破損のひどい場合は交換してください。
- (4) エレメント(スポンジ)を乾燥させます。
- (5) エンジンオイルに侵して固く絞ってから取り付けたあと、エアクリーナカバーを取り付けます。
- (6) 排油は販売店または、産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。



## ■燃料フィルターポットの点検・掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

### ⚠ 危険

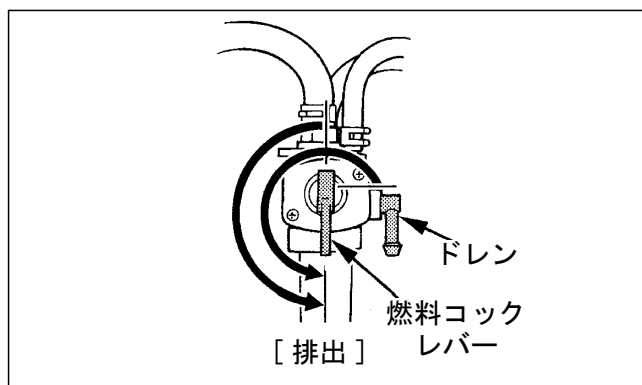
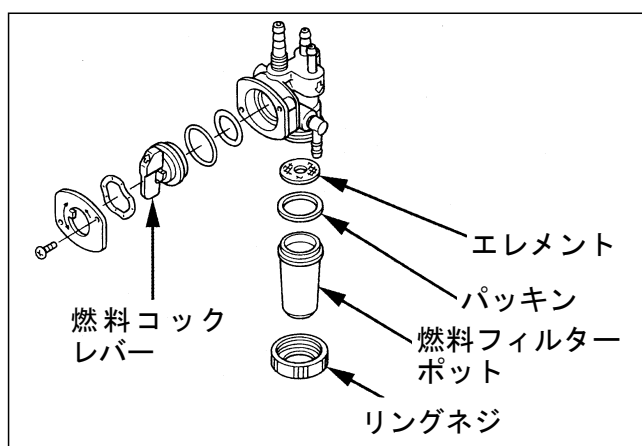
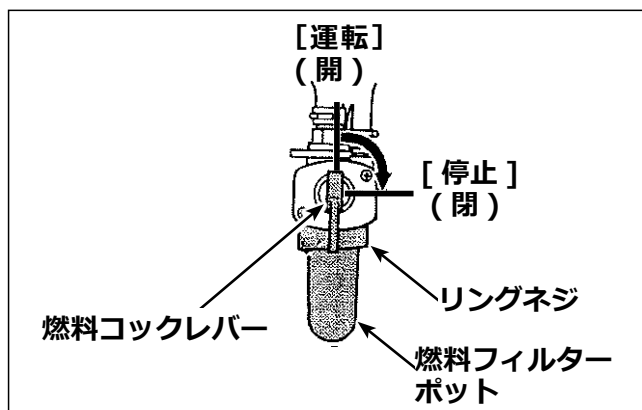
- 点検・掃除中は引火の恐れがあるため、火気厳禁です。

### 重要

- 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルターのエレメントが目詰まりが早くなったり、フィルター内に水が溜まりやすくなります。
- 燃料フィルターポット下部に水が溜まっているときは、早めに掃除又は交換してください。
- 点検・掃除
  - (1)燃料コックレバーを「運転(開)」位置から「停止(閉)」位置にします。
  - (2)リングネジをゆるめてポットを外します。
  - (3)エレメントを取り出してガソリンで洗浄(すすぎ洗い)をします。このとき、汚れのひどい場合は交換してください。
  - (4)パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組み付けます。

### 重要

- エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また、なくさないでください。
- ゴミが燃料内に混入すると、故障の原因になります。
- 長期格納時、燃料コックレバーを「排出」位置にして、ドレンから燃料タンク内、キャブレター内の燃料を排出します。



## ■ 点火プラグの点検・掃除・調整

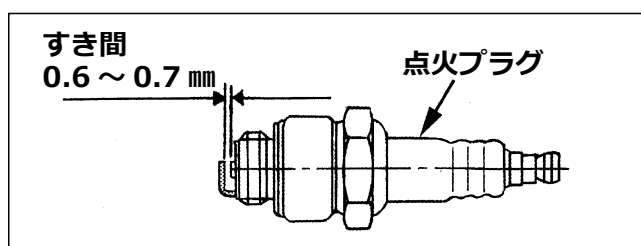
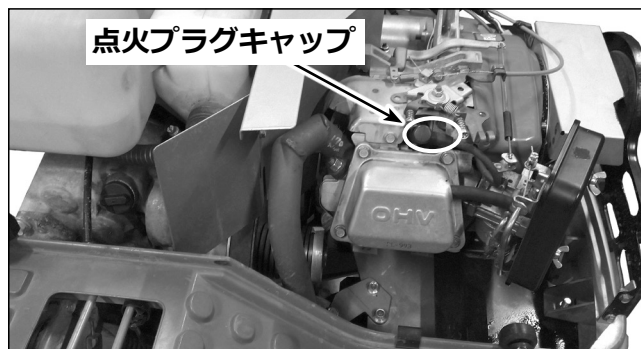
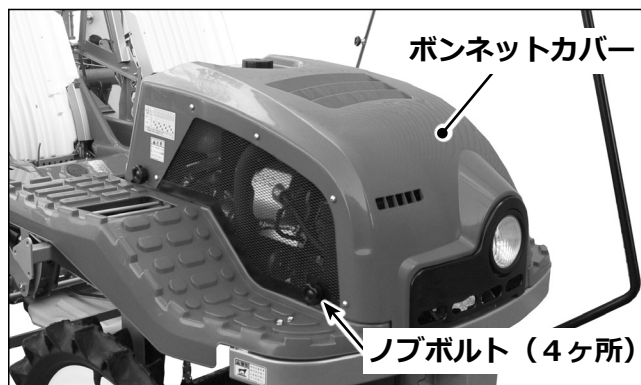
### 重要

- 点火プラグの電極が溶けて、すき間が広がったり、カーボンが付着したり、碍子（ガイシ）部が破損するとエンジンの不調の原因となります。
- 点火プラグを交換するときは、必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると、失火や始動不良をおこす恐れがあります。

点火プラグ型式
BPR5ES (NGK)

### ● 点検・掃除・調整

- (1) ボンネットカバーを取り外します。
- (2) 点火プラグキャップを外し、プラグボックスで点火プラグを取り外します。
- (3) ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと、電極のすき間を確認し、異常があれば、すき間調整又は、点火プラグの交換を行ないます。すき間は0.6～0.7 mmに調整します。



## ■ 燃料ホースの点検・交換

### ⚠ 危険

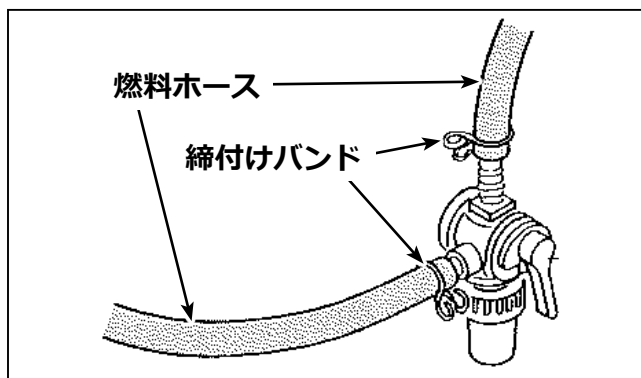
燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。

### ● 点検

エンジン・燃料タンク各部にあるホースを点検し、油もれが発生しているときは、ホースの交換やバンドの位置の確認を行なってください。

### ● 交換

交換時の取付不良やバンドの位置の確認、締付不足がないよう取り付けてください。



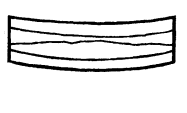

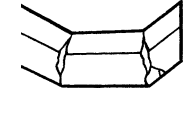
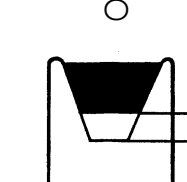
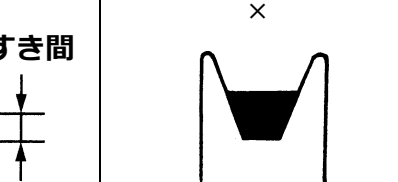
### 重要

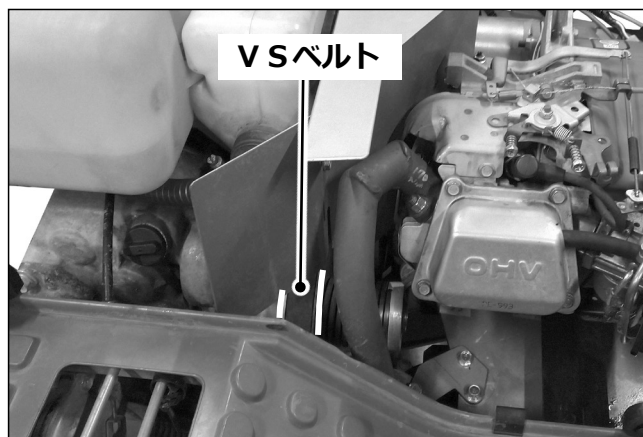
- 油もれがなくても、2年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。
- 交換時に各部にゴミが入らないように注意してください。
- 交換を行なうときは、購入先に連絡してください。

## ■ V Sベルト・油圧駆動ベルトの点検

### ●点検

ベルトを点検するときは、ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ、ベルトの底部とプーリー溝部のすき間、ベルトの伸び（たわみ量）を確認して、異常があれば販売店に連絡してベルト交換を行ってください。

焼付きや磨耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
○	すき間	
		



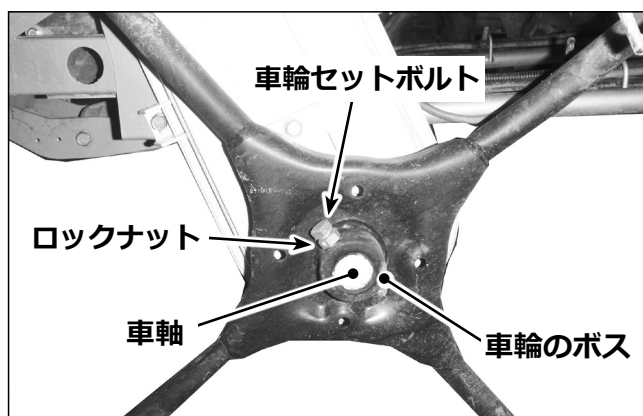
## ■ 車輪の点検

### ▲ 警告

- 車輪セットボルトやロックナットにゆるみがある場合や、車輪のボスと車軸にがたつきや摩耗、破損がある場合は、車輪が脱落し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。
- 車輪ゴム部が摩耗するとスリップを起こしやすくなるため、アユミ板の上などで脱輪して転倒する恐れがあります。

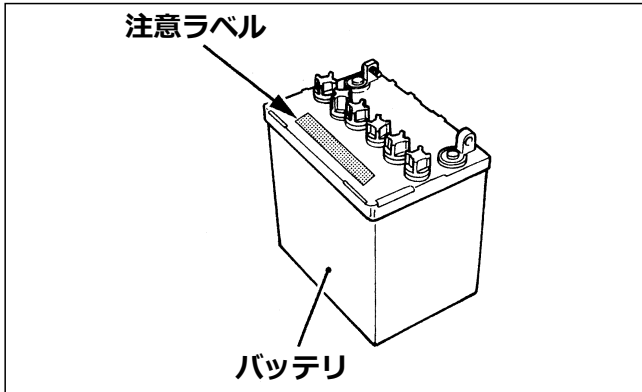
### ●点検

- (1) 前輪・後輪ともに車輪のボスと車軸のがたつきや摩耗、破損を点検します。車輪のボスと車軸にがたつきがある場合や破損している場合は、ただちに販売店に連絡して交換してください。
- (2) 前輪・後輪ともに車輪ゴム部の摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し、前輪は直径700mm以下、後輪は直径880mm以下の場合や破損がひどい場合は、販売店に連絡して交換してください。
- (3) 前輪・後輪ともにロックナットをゆるめ、車輪セットボルトを33～44N・m(330～450kgf・cm)で締め付けたあと、ロックナットを33～44N・m(330～450kgf・cm)で確実に締め付けてください。



## ■ バッテリーの点検・交換

バッテリー上面に貼ってある取り扱いの注意ラベルをよく読んでください。



### ⚠ 危険

- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（-）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発する恐れがあります。
- 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取り扱いを誤ると引火爆発する恐れがあります。
- バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発する恐れがあります。
- バッテリーを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明ややけどの原因になります。

### ⚠ 警告

急速充電は厳禁です。

### ⚠ 注意

- この 12 V バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- 密封タイプのバッテリーは開封厳禁です。

## ● 点検・補水

### ⚠ 危険

バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの 2 種類がありますが、出荷時は補水が必要なバッテリーが搭載されています。補水が必要なバッテリーについては、以下の事を守ってください。

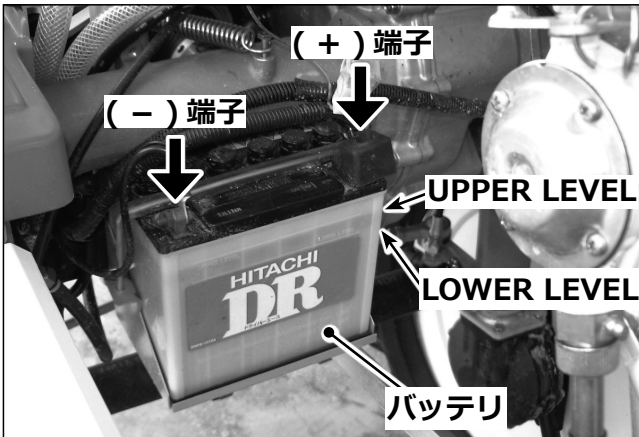
- バッテリーは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

### ⚠ 警告

バッテリー液が体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってやけどをすることがあります。

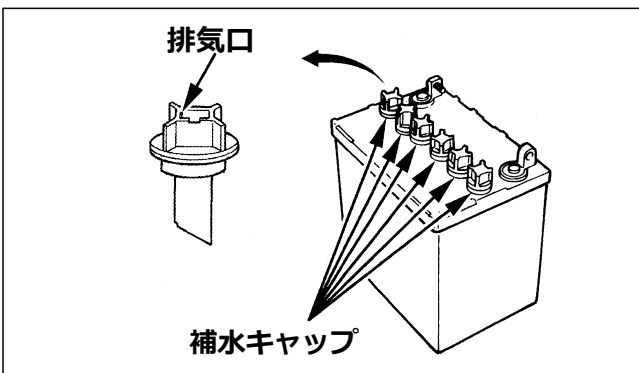
バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置を行ないます。

- (1) バッテリー液の量を点検し、[UPPER LEVEL] と [LOWER LEVEL] との間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。
- (2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。
- (3) 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは、掃除してください。
- (4) バッテリーケーブルの破損や（+）端子、（-）端子にゆるみがないか確認し、ケーブルの交換や端子の増し締めを行ないます。



**重要**

- バッテリー液が不足して極板が空気中に露出すると、バッテリーの寿命は著しく短くなります。
- バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷める恐れがあります。
- バッテリーの電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。
- 液もれが発生すると、車体が腐食する原因となります。
- 排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



● 補充電・交換

**⚠ 危険**

- バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもられにより、失明ややけどをする恐れがあります。
- バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となる恐れがあります。
- バッテリーを投げたり、落したり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、失明ややけどの原因となることがあります。
- 補充電中は補水キャップ全てを取り外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発する恐れがあります。

**⚠ 注意**

- バッテリーは、以下の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発する恐れがあります。
  - ◎ 取外し… (－) 端子側 (アース側) から外す。
  - ◎ 取付け… (－) 端子側 (アース側) を最後に接続する。
- バッテリーの取り付け方向を間違えないでください。(＋)と(－)が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となる恐れがあります。

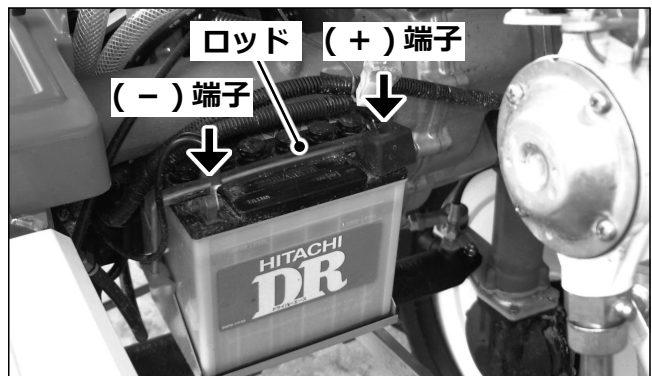
次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また、補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行なってください。

- スタータモータの回転がいつもより弱い。
- エンジン回転により、ヘッドライトの明るさが変わる。
- バッテリー電解液の減りが早い。

**⚠ 警告**

機械にバッテリーを搭載した状態で急速充電をしないでください。

- (1) ボンネットカバーを外します。
- (2) ケーブル端子のボルトとナットを取り外し、端子からケーブル端子を取り外します。取り外すときは、必ず(－)端子側から取り外します。
- (3) バッテリー固定用のロッドを外します。
- (4) バッテリーを取り外します。
- (5) 補充電を行なうときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。充電は、バッテリーの(＋)を充電器の(＋)側に、バッテリーの(－)を充電器の(－)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行なってください。
- (6) 補充電が完了したら、取り外したときと逆の手順で取り付けます。



**重要**

- バッテリーを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因になります。
- バッテリーを交換するとき、バッテリーは指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因になります。  
バッテリー型式：30A19L
- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。
- バッテリーはきちんと取り付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因になります。

## ■電装部の各配線コードの点検・交換

### ⚠ 警告

配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良による、漏電やショート（短絡）は火災の原因になります。

### ●各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。

また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、販売店へ連絡して交換してください。

## ■ヒューズの交換

### ⚠ 警告

ヒューズの交換をするときはエンジンを停止してください。また、キースイッチを「切」にして行ってください。

### ⚠ 注意

交換後はカバーを元通り組み付けてください。

- (1) ボンネットカバーを外し、エンジン左側にあるヒューズホルダーを開けます。
- (2) 切れたヒューズを取り外して新品の 20A ヒューズと交換します。
- (3) ボンネットカバーを元通り組み付けてください。



### 重要

- ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合はお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

## ■スローブローヒューズの交換

### ⚠ 警告

スローブローヒューズの交換をする時はキースイッチを「切」にして行ってください。

### ⚠ 注意

交換後はカバーを元通り組み付けてください。

- (1) 各部のモーター電源に異状が発生した時、スローブローヒューズが焼損します。
- (2) ボンネットカバーを取り外します。
- (3) バッテリ（+）端子側にスローブローヒューズ（30A）があります。  
切れたスローブローヒューズを取り外して、新品のスローブローヒューズと交換します。



### 重要

- ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合はお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

## 植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の田植え作業に備えてください。

### ■毎日の作業後

#### ⚠警告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 燃料抜き取り時は火気厳禁。

- (1) 平たんな場所に田植機を止めます。
- (2) 機体各部の泥などを取り除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。  
(29 ページ参照)
- (3) 格納場所に格納します。
- (4) 植付部を上昇させ植付部フックを掛けます。
- (5) メインスイッチのスイッチキーを抜き取ります。
- (6) 駐車ブレーキを掛けます。

### ■長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前に各部の点検・整備を念入りに行なってください。

#### ●各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に止めて下記事項を行なってください。

- 水洗い後、ゴミ・水滴を充分ふき取り、油をしみこませた布で清掃してください。
- 各グリスの塗布箇所にはグリス、注油箇所には注油を行なってください。  
(29 ページ参照)
- 塗布したグリスや油が横送りベルトに付着したら、必ずふき取ってください。
- 植付爪の先端など、錆びやすい所にはグリスを塗ってください。
- 各部のゆるみを調べ、増し締めを行なってください。

#### 重要

機体を洗う場合は、電装品に水がかからないようにしてください。

●燃料

**警告**

燃料のガソリンを保管するときは、必ず専用の容器に保管してください。市販のポリタンクでのガソリンの運搬・保管は絶対にしていただき。  
(消防法で禁止されています。)

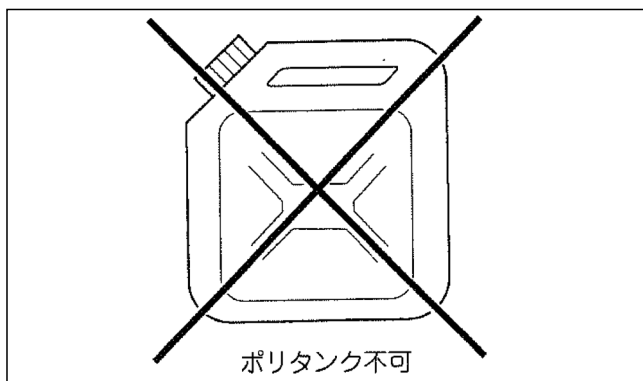
**注意**

燃料を排出するときは、エンジンやマフラーが充分冷えてから行なってください。火災が発生する恐れがあります。

来シーズンに備えて燃料タンク内（67ページ参照）および燃料フィルタポット内（70ページ参照）のガソリンを抜き取ってください。

**重要**

- 燃料のガソリンは1ヶ月以上放置すると、気化や酸化をしてガソリンが変質し、エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内およびフィルタポット内のガソリンは抜き取ってください。
- 燃料を入れるときは、燃料コックレバーを必ず「停止」位置にし、エンジンを動かす前に「運転」位置にしてください。



●バッテリー

**危険**

保管や持運びの際にバッテリーに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

**注意**

バッテリーを点検するときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取り外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し、必要に応じて充電を行なってください。（バッテリー液補水タイプは、補水してから充電を行なってください。）
  - バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1ヶ月、冬は2ヶ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて充電を行なってください。
  - 次のような場所に保管してください。
    - ①直射日光が当たらない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所。
    - ②雨露が少なく、水没のおそれがない場所。
    - ③バッテリーの有害なガスや液、粉塵の発生が起これない場所。
- 機体に取り付けたまま保管する場合は（-）側のケーブルを必ず取り外してください。

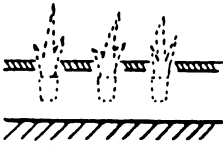
●各レバー・その他

点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは植付部を下ろして下記事項を行なってください。

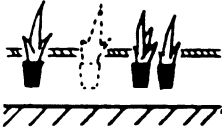
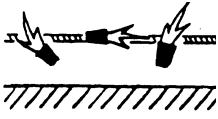
- メインスイッチのスイッチキーは、必ず抜いて保管してください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- ほこりよけのため、適当なカバーをかけて保管してください。

# 不調時の処置


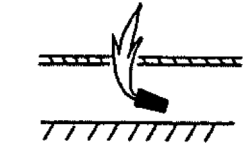
- 田植作業は、機械・苗・ほ場の3拍子そろって初めて良い植付と高能率が得られます。機械の点検、苗・ほ場の良い条件作りを心がけてください。
- 下記の原因以外については部品の消耗などがありますので、販売店にご相談ください。

不調内容	原因		処置
 <p>連続決株ができる。</p>	苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根張りが悪い。 (ポットがくずれる)</li> <li>○根が張りすぎている。 (硬くて抜けない)</li> <li>○苗箱の表や裏に土が多く付いている。</li> <li>○重粘土の箱土を使用している。</li> <li>○砂質土・火山灰土の箱土を使用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○濡らし方に注意。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○充分濡らす。</li> <li>○太苗用の苗受に交換する。 (注文部品)</li> <li>○苗箱を洗う。</li> <li>○充分濡らす。</li> <li>○濡らし方に注意。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> </ul>
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> <li>○縦送り爪(下)の油切れ。</li> <li>○押し棒の元に根がたまっている。</li> <li>○苗受に土や小石がつかまっている。</li> <li>○空箱受で空箱がつかまっている。</li> <li>○苗箱のセット不良。</li> <li>○苗箱の角穴が雑草でふさがっている。</li> <li>○苗箱が破損している。</li> <li>○ガイド板に小石がつかまって安全クラッチがはたっている。 (ミッションからカチカチと音がする。)</li> <li>○株間12cmでの植付け。</li> <li>○押し棒の摩擦または調整不良。</li> <li>○縦送り爪の摩耗または調整不良。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日注油 (P29参照)</li> <li>○根を取り除く。(P61参照)</li> <li>○苗受を良く洗う。(P61参照)</li> <li>○つまった空箱を取り除く。 (P57参照)</li> <li>○確実に補給。</li> <li>○雑草を取り除く。(P43参照)</li> <li>○破損している苗箱は使用しない。</li> <li>○古くて壊れやすい苗箱は使用しない。(P43参照)</li> <li>○ガイド板につまった小石を取り除く。(P62参照) (エンジンを停止して行なってください)</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○部品交換または調整。</li> <li>○部品交換または調整。</li> </ul>

## 不調時の処置

不調内容	原因		処置
 <p>欠株ができる。 (二株植えになる)</p>	苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根張りが悪い。 (ポットがくずれる)</li> <li>○根渡りしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○濡らし方に注意。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○根を切断する。</li> </ul>
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苗支持板の変形。</li> <li>○タイミングベルトの上に土が たまっている。</li> <li>○タイミングベルトのタイミング 不良。</li> <li>○植付爪のタイミング不良。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苗支持板の修正・交換。 (P48参照)</li> <li>○コンベアーベルトをよく洗う。</li> <li>○タイミング調整。</li> <li>○タイミング調整。</li> </ul>
 <p>植付姿勢が悪い (浮き苗・ころび苗)</p>	苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根張りが悪い。 (ポットがくずれる)</li> <li>○徒長苗。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○濡らし方に注意。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○葉先を切断する。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> </ul>
	ほ場	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほ場が軟らかすぎる。</li> <li>○ほ場が硬すぎる。</li> <li>○ほ場に水が多すぎる。</li> <li>○ほ場が粘土質である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほ場を硬くする。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○植付深さを深くする。</li> <li>○油圧感知の調節を行なう。 (P52参照)</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○油圧感知の調節を行なう。 (P52参照)</li> <li>○水を少なくする。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○ほ場に水を入れる。</li> </ul>
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苗支持板の変形。</li> <li>○苗受に土や小石がつまっ ている。</li> <li>○ガイド板に泥がつまっている。</li> <li>○ガイド板の変形。</li> <li>○フロート後部が浮いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○苗支持板の修正・交換。 (P48参照)</li> <li>○苗受をよく洗う。(P61参照)</li> <li>○ガイド板をよく洗う。</li> <li>○ガイド板の修正・交換。</li> <li>○ピッチング姿勢の調節。 (P52参照)</li> </ul>

## 不調時の処置

不調内容	原因		処置
 フロート通過後に植付けた苗が倒れる	(ほ場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほ場が極端に軟らかすぎる。 (表土がトロトロで足跡もつかない状態)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほ場を硬くする。</li> <li>○植付速度を遅くする。</li> <li>○油圧感知の調節を行なう。 (P52参照)</li> </ul>
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フロート後部が沈んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピッチング姿勢の調節。 (P52参照)</li> </ul>
 植え痛み苗ができる	苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根張りが悪い。</li> <li>○貧弱苗。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○植付速度を遅くする。</li> </ul>
	田植機	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイド板に泥・異物がつまってガイド板幅が開いている。</li> <li>○ガイド板の変形。</li> <li>○苗支持板の変形・欠落。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○泥・異物を取除く。</li> <li>○ガイド板の修正・交換。</li> <li>○苗支持板の修正・交換。 (P48参照)</li> </ul>

不調内容	原因	処置
植付部が下降しフロートが表土に接地しても、植付クラッチが自動で入らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○油圧感知調節レバーが「硬い」での植え付け。</li> <li>○ほ場が軟らかすぎる。</li> <li>○植付深さが3ヶ所同じになっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手動で「入」にする。 (P23参照)</li> <li>○手動で「入」にする。 (P23参照)</li> <li>○必ず同じ位置に調節する。 (P46参照)</li> </ul>
フロートで泥を押し。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○油圧感知調節が適正でない。</li> <li>○ほ場が軟らかすぎる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○油圧感知の調節を行なう。 (P52参照)</li> <li>○ピッチング姿勢の調節。 (P52参照)</li> </ul>
前進できるが植付部が動かない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株間切替レバーの切り替え不良。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レバーを確実に切り替える。 (P45参照)</li> </ul>

# サービス資料

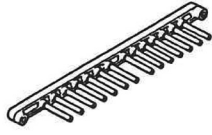
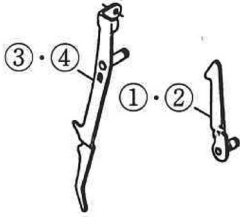
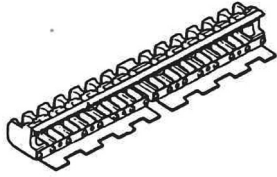

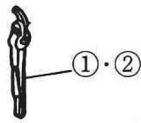
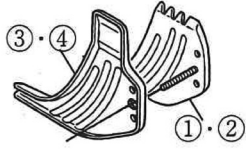
## ■主要諸元

型 式 名		みのる RXE-61		
区 分		RXE61	RXEH61	
駆 動 方 法		6輪駆動（前輪2、後輪4）		
機 体 寸 法	全 長 (mm)	3555（座席を一番後ろ）		
	全 幅 (mm)	2060（作業時の寸法2710）		
	全 高 (mm)	2290（作業時の寸法2470）		
	最低地上高 (mm)	430（ステアリングアーム下部）		
機体質量（重量）（kg）		795	800	
エ ン ジ ン	型 式 名	GB400		
	種 類	空冷4サイクルガソリンエンジン		
	総排気量（L{cc}）	0.391 { 391 }		
	出力/回転速度（kW{PS}/rpm）	6.6 {9.0}/3600（最大9.5 {13.0}）		
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量（L）	9.0（メーター付）		
	始動方式	セルモーター式		
走 行 部	かじ取り方式	全油圧パワーステアリング		
	車 輪	前 輪 (mm)	クッション（720）	
		中 後 輪 (mm)	ゴムラグ（900）	
		外 後 輪 (mm)	ゴムラグ（900）	
	輪 距 (mm)	前輪800 後輪680、1950		
	軸 距 (mm)	1690		
	変速方式	ベルト無段方式		
変速段数（段）	前進2（植付け1）、後進1			
植 付 部	植付方式	回転式強制植付け		
	植付条数（条）	6		
	植付条間（cm）	33		
	植付株間（cm）	14、15、16、17、18、21、22、23 （スリップ率9%）	13、14、15、16、17、18 （スリップ率9%）	
	植付株数（株/3.3m <sup>2</sup> ）	72、67、63、59、56、48、45、44 （スリップ率9%）	77、72、67、63、59、56 （スリップ率9%）	
	植付深さ（cm）	1～4（4段）		
	1株本数調節量	播種量の調節による		
条 苗 件 の	苗の種類	ポット苗		
	葉令・草丈	4～5.5葉、8～25cm		
苗とう載数（箱）		46	54	
作業速度（m/s）		0.22～1.18（スリップ率9%）		
作業能率（分/10a）		10～14		

## ■標準付属品

No.	部 品 名	個 数	
		RXE61	RXEH61
1	取扱説明書	1	1
2	保証書	1	1
3	安全運転説明確認票	1	1
4	工具袋	1	1
5	プラグボックス	1	1
6	替ギヤー 5	1	-
7	替ギヤー 6	1	-
8	替ギヤー 11	-	1
9	替ギヤー 12	-	1
10	スペアキー	1	1

■主な消耗部品一覧表

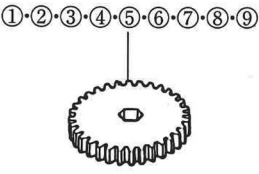
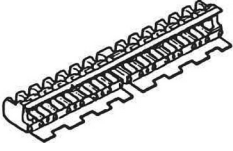

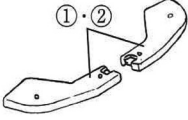
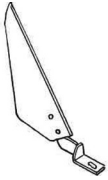
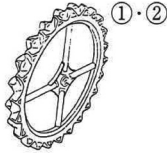
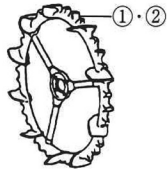
形状	品名	部品番号	備考
	押し棒座CP	X4-3118(2)	破損、または磨耗した場合交換
	①縦送り爪下(左)CP ②縦送り爪下(右)CP ③縦送り爪上(左)CP ④縦送り爪上(右)CP	X4-3206(1)L X4-3206(1)R X4-3209(1)L X4-3209(1)R	破損、変形、磨耗した場合交換
	苗受CP	LPRH6-23401(2)	破損、変形、磨耗した場合交換
	タイミングベルト	LTP-3506(3)	破損、または伸びた場合交換
	苗支持板	LTP-3513(1)	欠落、または変形した場合交換
	①植付爪(左)AY ②植付爪(右)AY	LPRH6-24213(2)LAY LPRH6-24213(2)RAY	欠落、または変形した場合交換
	①ガイド板内(左)CP ②ガイド板内(右)CP ③ガイド板外(左) ④ガイド板外(右)	X4-4302(1)L X4-4302(1)R X4-4301(3)L X4-4301(3)R	変形、または磨耗した場合交換

## サービス資料

形状	品名	部品番号	備考
	土落としブラシC P	MRX8-22608(2)	変形、または磨耗した場合交換
	ブレードヒューズ (20A)	FB-1020-1000-20A	ヒューズ切れ時交換
	スローブローヒューズ (30A)	RXA8-43202-1	ヒューズ切れ時交換
	バルブ	H3 12V 55W	ランプ切れ時交換
	点火プラグ	BPR5ES (NGK)	
	バッテリー	12V-30A19L	
	①スーパーV Sベルト ②Vベルト	①RXE60-41201 ②RXE60-42202	き裂時または摩耗時交換
	各ワイヤー	—————	作動が重くなった場合交換
	苗箱		10年以上経過した古い苗箱は交換 角穴が破損した場合交換
	①燃料ホース (タンク) ②燃料ホース (キャブ) ③燃料ホース (ドレン)	RXE61-41312 RXE61-41313 RXE61-41315	破損時または2年ごとに交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のを準備してありますので、用途に応じてご購入の上ご利用ください。  
ご購入に当たっては販売店にご相談の上、ご使用ください。なお、取り付けは必ず販売店でなっ  
てください。

形 状	品 名	部 品 番 号	備 考
	①替ギヤ-1 ②替ギヤ-3 ③替ギヤ-4 ④替ギヤ-5 ⑤替ギヤ-6 ⑥替ギヤ-8 ⑦替ギヤ-10 ⑧替ギヤ-11 ⑨替ギヤ-12	LT6-1405(1) LT6-1415(1) LT6-9301 LT6-9303 LT6-9305 LT6-9307 LTD3-8201 LTD3-9101 LTD3-9102	特殊株間用 (44ページ参照)
	苗受CP	LTP-9403	太苗用 (突起なし)
	①マーカアーム先 (左) CP ②マーカアーム先 (右) CP	RX6-61301L RX6-61301R	
	①バンパーウエート48AY	RXE61-91200AY	48kg (4段仕様)
	②バンパーウエート24AY	RXE61-91100AY	24kg (2段仕様)
	苗箱ガイド前AY	RXC6-91100	苗抜け防止用
	①後輪900×95 (左) CP	RXC6-93101L	外径φ900 ラグ幅95 後中車輪として使用
	②後輪900×95 (右) CP	RXC6-93101R	
	①後輪900×125(左) CP	RXC6-93201(1)L	外径φ900 ラグ幅125 後中車輪として使用
	②後輪900×125 (右) CP	RXC6-93201(1)R	

## サービス資料

形 状	品 名	部 品 番 号	備 考
	①ゴムラグ後輪 (左) CP ②ゴムラグ後輪 (右) CP	RXA6-13801L  RXA6-13801R	外径φ900 ラグ幅100 後中標準装備 後外車輪として使用
	①ゴムラグ車輪850 (左) CP ②ゴムラグ車輪850 (右) CP	RXA6-13803L  RXA6-13803R	外径φ850 ラグ幅100 後外車輪として使用
	後輪900×50CP	RXE6-13801	外径φ900 ラグ幅50 後外車輪として使用
	ラグなし後輪797CP	RXC6-93301	後外車輪として使用
	①前輪広幅720 (左) CP ②前輪広幅720 (右) CP	RXA8-12404L  RXA8-12404R	外径φ720 ラグ幅95 前車輪として使用

### ●注文部品使用上の注意点

各種車輪

#### 重要

- 車輪の性能は、ほ場の土質・耕盤の状態により異なりますので慎重に選択してください。
- 車輪を交換しますと、ほ場条件によってピッチング調節が必要となる場合があるので注意してください。

## 純正部品を使いましょう

---

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。  
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

---

純正アタッチメントは、いちばんよくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。  
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

## 国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示します。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体で、環境保全の重要性を考慮して小形汎用エンジンの排出ガス浄化のため自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。

<http://www.lemma.or.jp>



# みのる産業株式会社

本社工場 〒 709-0892 岡山県赤磐市下市 447  
TEL(086)955-1123 (代) FAX(086)955-5520

東京支店 〒 337-0042 埼玉県さいたま市見沼区南中野 210  
TEL(048)683-9451 (代) FAX(048)683-9452

長野営業所 〒 389-1104 長野県長野市豊野町浅野 582-4  
TEL(026)257-6530 (代) FAX(026)257-6531

徳島営業所 〒 771-1151 徳島県徳島市応神町古川字東 197  
TEL(088)641-2311 (代) FAX(088)641-2324

九州支店 〒 818-0066 福岡県筑紫野市大字永岡 1020-1  
TEL(092)921-6006 (代) FAX(092)921-6008

ホームページ <https://www.minoru-sangyo.co.jp/>